

SI21（図104～図109）

検出状況 AJ12 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。北東側で SI20 と重複関係があるが、検出時は切り合いで不明瞭であった。SI21 は発掘区の境界部分にあたり、遺構の東側は平成 29 年度に調査、西側を平成 30 年度に調査を行った。SI21 は平成 26 年度に実施した試掘・確認調査の TP 4 で確認した堅穴建物で、この調査で SI20 の床面を確認していないことから SI21 の方が新しいとして掘削したが、SI20 は石壠炉のある縄文中期の堅穴建物（SI19）よりも後とする堅穴建物であるため、SI20 と SI21 の先後関係が誤りであると判断し図の修正を行った。平面形は東辺は直線的であるが、北辺・南辺は丸みをもつ梢円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が 2 層堆積し、埋土中に褐色土ブロックを含む。1 层は全体、2 層は中央に堆積する。
壁 Ⅲ層を掘り込む。壁面は北壁・東壁・西壁は直立するが、南壁はやや開く。壁の残存高は最大で 0.56m である。

床面 ほぼ平滑であるが、南東方向に傾斜する。中央南側に貼床層（3 層）がある。貼床は褐色土が主体で、暗褐色土ブロックを含み、固くしまる。床面で検出した遺構は炉 2 基、土坑 37 基、貯蔵穴 3 基、壁際溝 2 条である。このうち P 1・P 11～P 13・P 15～P 20・P 25・P 26・P 34～P 36 で柱痕跡を確認した。堅穴掘方中央を中心同心円上に配置される P 3・P 6・P 11・P 13・P 14 と同心円から外れるが P 6 と P 14 とほぼ等距離にあり掘方の深い P 9 を主柱穴と判断した。また、小型の穴（P 16～P 21・P 26・P 27・P 29～P 36）が堅穴壁際に配されることから、堅穴壁を保護するための板材を固定するための柱穴の可能性がある。壁際溝は堅穴掘方内側に沿うように確認した。また、堅穴建物の掘方にかかる P 10・貯蔵穴 3 は、すり鉢状の堅穴建物壁面に掘削され、上面が削平されたと考えられる。

貯蔵穴 建物床面の南寄りで貯蔵穴 1 から貯蔵穴 3 が重なり合う状況で検出した。重複関係は貯蔵穴 1・3 が貯蔵穴 2 より新しい。貯蔵穴 1・3 の平面形は梢円に近い形状、貯蔵穴 2 の平面形は重複により一部が消失しているため不明である。貯蔵穴 1 は暗褐色土と黒褐色が 4 層堆積し、褐色土ブロック・炭化物を含む。

貯蔵穴 2 は黒褐色の単層で褐色土ブロック・炭化物を含む。貯蔵穴 3 は黒褐色と暗褐色土が 2 層堆積し、褐色土ブロック・炭化物を含む。

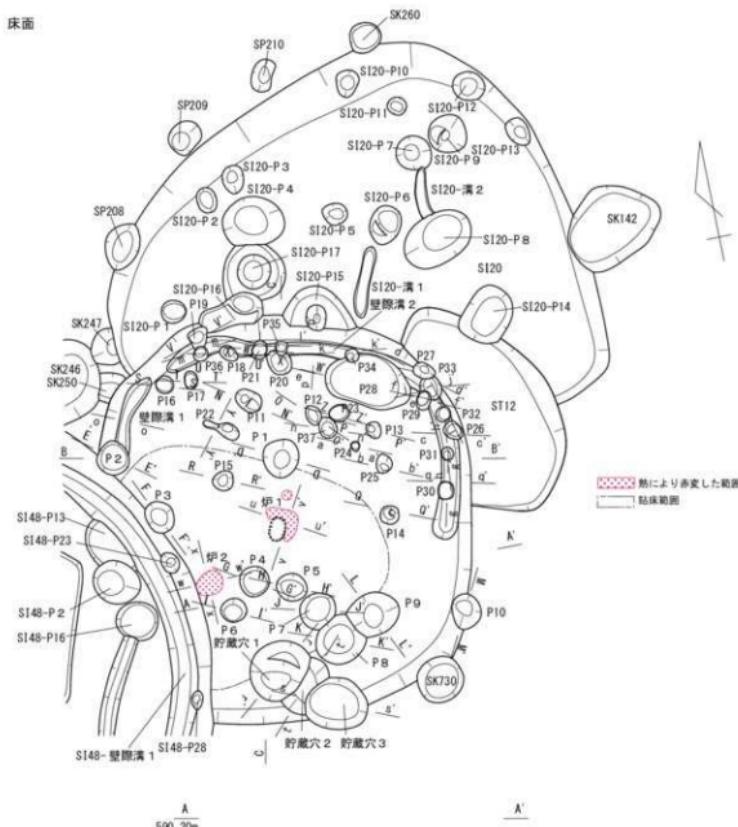
炉 床面に熱により赤変した範囲が 2 か所認められ、この範囲を炉とした。炉 1 の平面形は炉の中央に木の根による搅乱があるため不明である。床面検出時は赤変した範囲は 1 つであったが、赤変した部分の厚さが薄いため再検出した際に図のように 2 つに分かれてしまった。炉 2 の平面形は梢円形である。どちらも掘り込みがない地床炉である。

床下 貼床除去後、柱穴 1 基（P 38）を確認した。

遺物出土状況 ほとんどの土器は埋土中から散在した状態で出土したが、1 层中で 1 個体分の土器（306）が横位で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉まであるが、ほとんどの前期後葉のものである。

出土遺物 301 は Z 1 群 4 c 類で外面に柳葉状施文具による刺突文と平行沈線文を施す。302 は Z 2 群 1 a 類で括れた胴部外面の上方に幅広の半截竹管状施文具により連続爪形文を施し、下方に羽状縄文平行に施す。303 は Z 2 群 1 b 類で外面に幅広の半截竹管状施文具により連続爪形文を施す。304 は Z

床面



- 1 10R3/3 暗褐色土 ややしまる 黏性ややあり
径1cm以下の10R4/6 暗褐色土ブロックを20%含む
径1cm以下の化粧物を含む
- 2 10R3/3 暗褐色土 ややしまる 黏性ややあり
径1cm以下の10R4/6 暗褐色土ブロックを40%含む
径1cm以下の化粧物を含む
- 3 10R4/6 暗褐色土 ややしまる 黏性なし
径1cm以下の10R3/3 暗褐色土上を20%含む
粘床層
- 4 10R4/6 暗褐色土 しまる 黏性ややあり
粘床層

0 1 2m
(S=1/50)

図 104 SI21 遺構図（1）

2群2a類で直線的に外傾する口縁部の外面に羽状縄文を施した後に半截竹管状施文具により連続爪形文を平行に4条施す。連続爪形文は半截竹管状施文具の端部のみ器面に当たるために、列点状になる。305はZ2群3c類で口縁部が短く内湾する。外面に口縁部と平行する扁平な突帯を2条巡らし、突带上に縄文を施す。306はZ2群5a類で口縁部はやや外反しながら短く内湾する。胸部の中央で緩やかに括れる。口縁部から脇部上半にかけて外面に地文として縄文を施した後に半截竹管状施文具による木葉肋骨文を施す。胎土に金雲母を含む。307はZ2群5e類で外面に半截竹管状施文具により連続爪形文を平行に2条施す。胎土に金雲母を多く含む。308はZ2群6b類で外面に地文として縄文を施す。

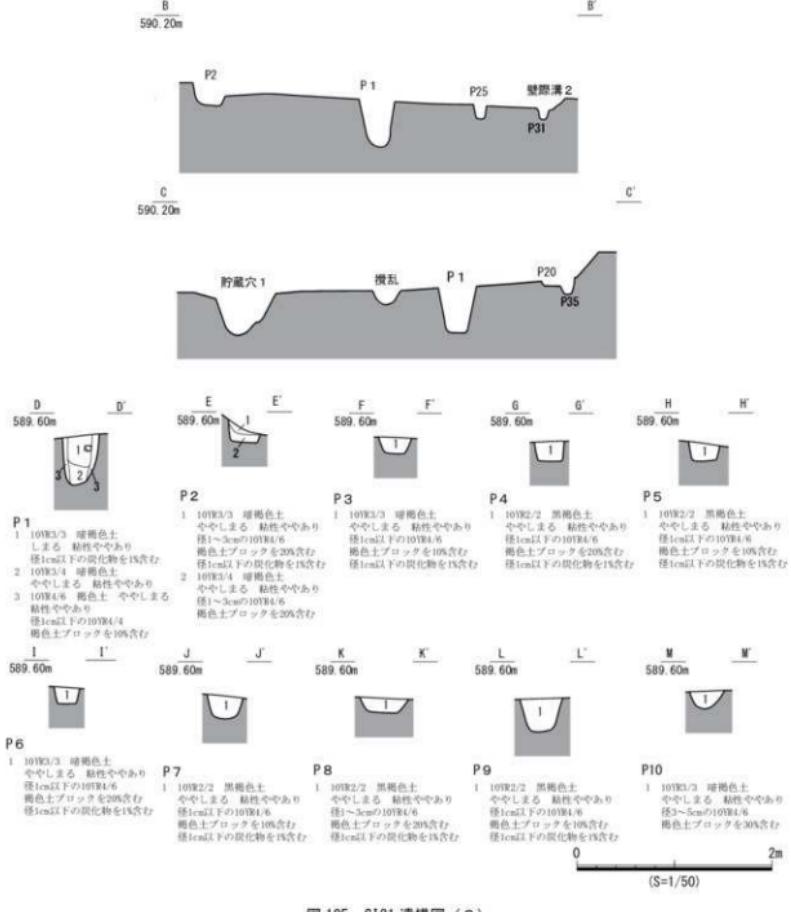


図105 SI21遺構図(2)

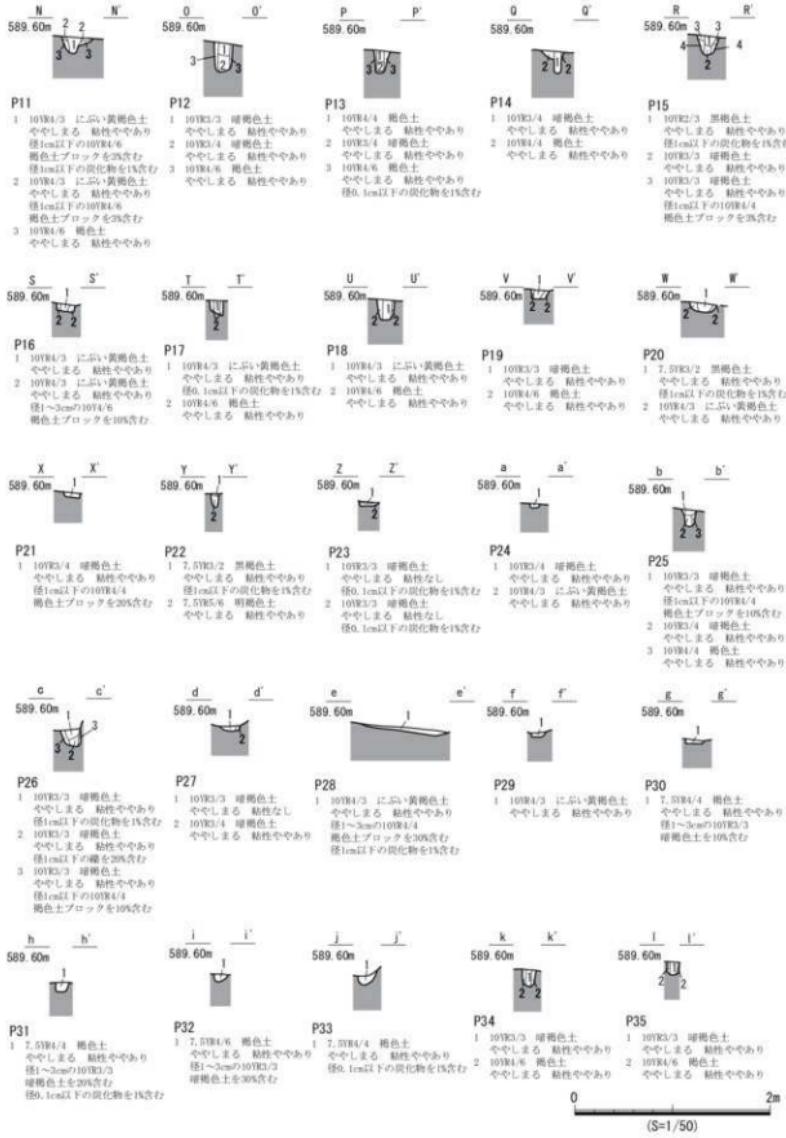


図 106 SI21 遺構図 (3)

た後に突帯による横線文や弧線文を施す。309は凹基無茎石鏃で基部の抉りが丸く深い。310～312は石匙である。310は横長な剥片を素材とし、縁辺下部にやや外湾する刃部を作り出す。311は縦長の剥片を素材とし、縁辺下部にやや外湾する刃部を作り出す。312は縦長の剥片を素材とし、縁辺下部に外湾する刃部を作り出す。表面に原礫面が大きく残る。313・314は磨石・敲石類である。313は扁平円礫を利用し、表裏面に磨痕・線状痕・敲打痕、側面に敲打痕を残す。314は長楕円礫を利用し、表面に磨痕・敲打痕、裏面と側面に敲打痕を残す。

時期 堅穴建物の埋土中からまとめて出土した306や埋土から出土した土器の大半が前期後葉であることから前期後葉の堅穴建物と判断した。

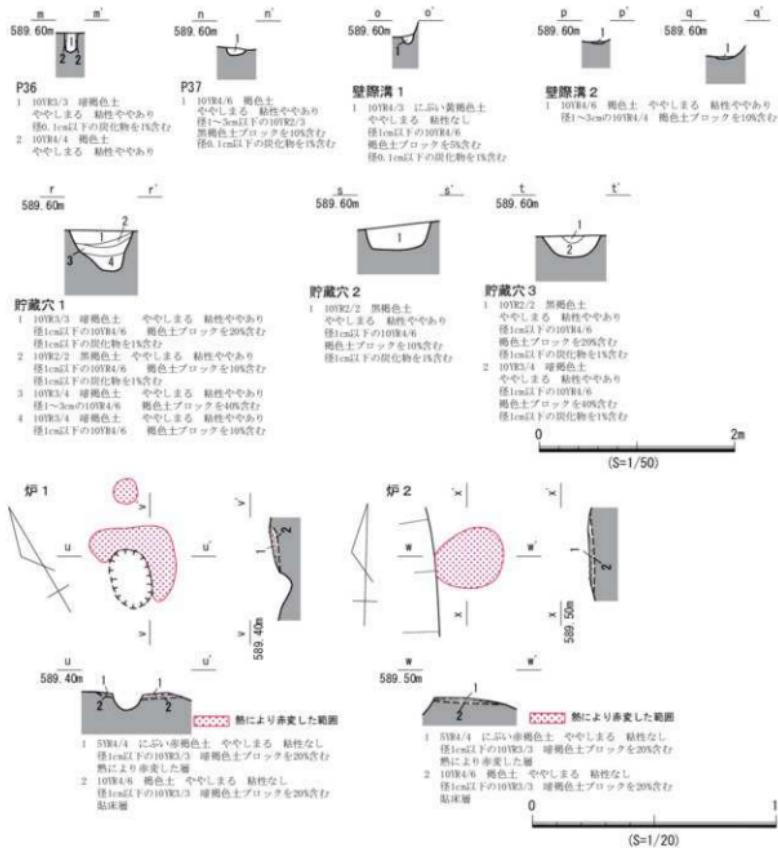
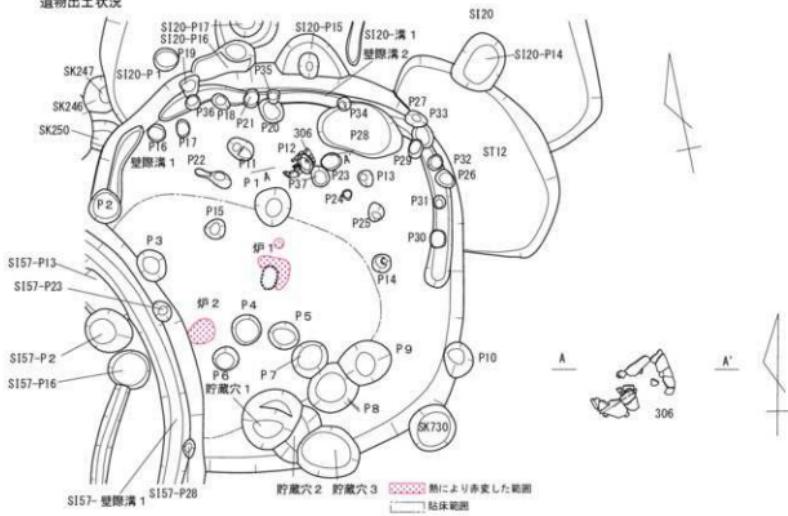


図107 SI21遺構図(4)

遺物出土状況



掘方底面

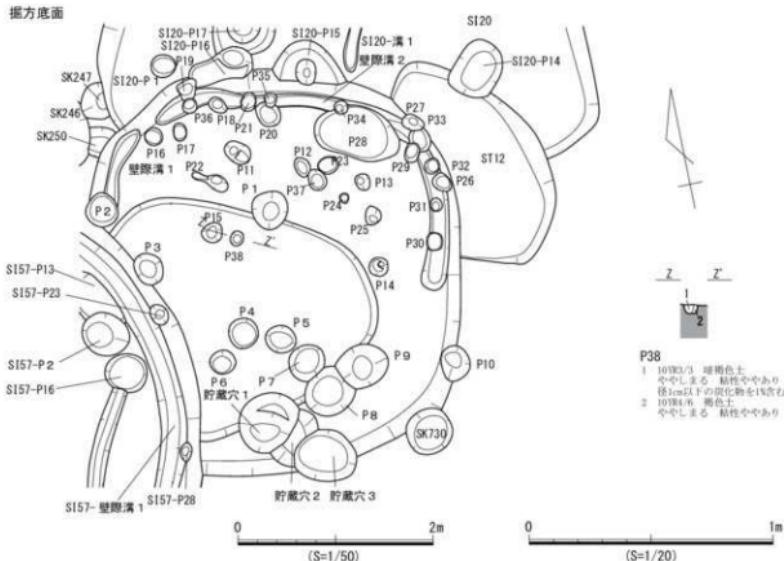


図108 SI21遺構図(5)

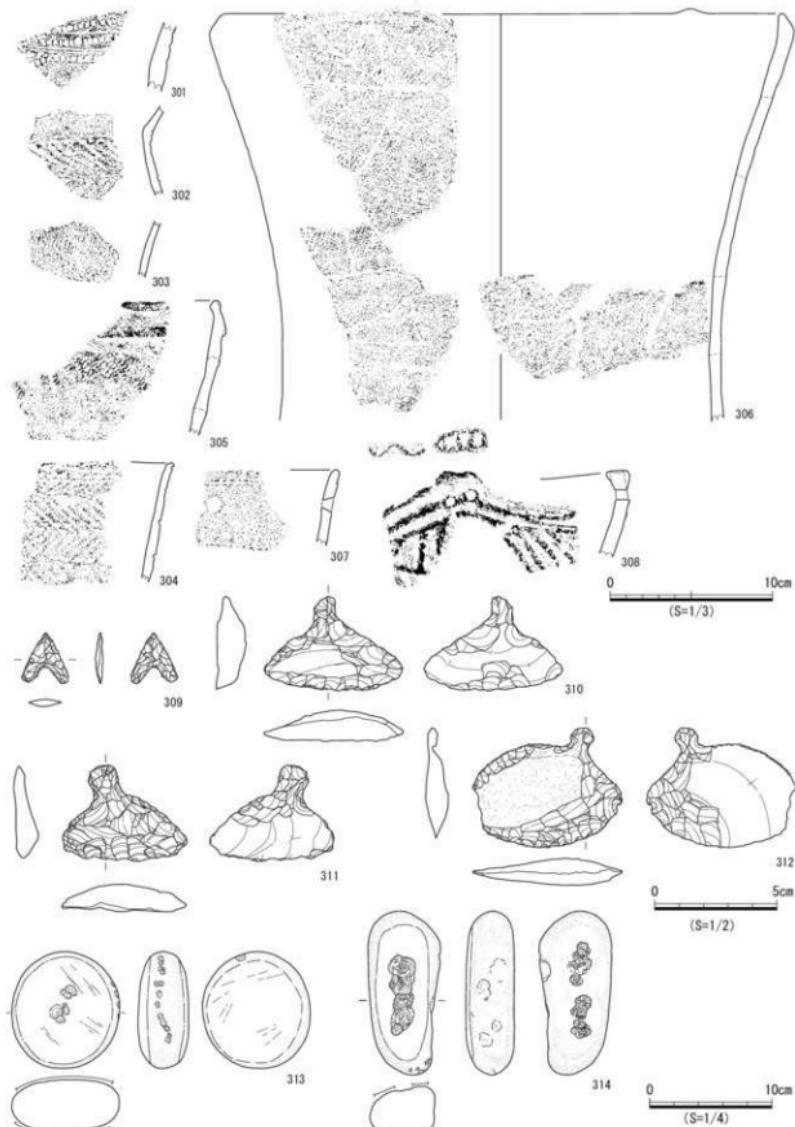


図 109 SI21 出土遺物

SI22（図110～図113）

検出状況 AJ12～AK13 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。SI22は発掘区の境界部分にあたり、遺構の東側は平成29年度に調査、西側を平成30年度に調査を行った。北東側でSK269・SK272、南東側でSI23、南側でSI28と重複関係があり、いずれの遺構よりも古い。平面形は遺構の重複で各辺が消失しているため不明である。

埋土 黒褐色土・暗褐色土が4層堆積する。中央部分が窪む堆積をする。2層から4層は埋土中に炭化物や褐色土ブロック・にぶい赤褐色土を含む。

壁 Ⅲ層を掘り込む。北側の壁面はやや開き、途中で緩やかになりながら皿状に開くため2段になる。壁の残存高は最大で0.48mである。

床面 ほぼ平滑で南方向に傾斜する。貼床（5層）が建物中央に残る。貼床は暗褐色土が主体で褐色土ブロックを含み、固くしまる。床面で検出した遺構は土坑34基、炉1基である。竪穴建物にかかるP8・P17・P26はすり鉢状の竪穴建物壁面に掘削され、上面が削平されたと考える。このうちP1・P2で柱痕跡を確認した。主柱穴は柱穴状の掘方をもつP1・P2と、P1・P2同様に掘方に沿って配置されるP3・P4・P5などが主柱穴の可能性がある。このうち、P1・P2で柱痕跡を確認した。壁際構は確認できなかった。

炉 床面の南寄りに炉1基を確認した。貼床を貼った後に構築した掘り込みのある地床炉で、底面中央部に熱により赤変した範囲が認められる。平面形は橢円形である。埋土は黒褐色土の単層で褐色土ブロックを多く含む。

貯蔵穴 建物の残存する部分では確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から縄文土器や石器が埋土下層（2層・g層・h層）を中心に出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉まであるが、ほとんどが前期後葉のものである。

出土遺物 315・316はZ1群2a類である。315・316は外反する口縁部の外面に半截竹管状施文具による平行沈線文で斜格子目文を施す。315・316は同じ層から出土し、文様・胎土・器厚が類似することから同一個体の可能性が高い。317はZ1群1d類で外面に半截竹管状施文具の内側で刺突する。318はZ2群3c類で内湾する口縁部の外面に突帯を3条巡らせ、突带上に縄文を施す。319はZ2群3d類で内屈する口縁部の外面に突帯が3条巡る。320はZ2群13d類で内面に横方向の条痕調整を施す。口唇部には棒状施文具による刻みを入れる。321はZ2群14類で底部外面の接地部が外側に大きく張り出す。張り出した底部に棒状施文具による刻みを入れる。322～326はZ2群15類である。322は有稜浅鉢で外面に突帯による横線文を施し、突帯と突帯の間に半截竹管状施文具による連続爪形文で木葉文を施す。323は複段内湾浅鉢で内湾する口縁部の外面に半截竹管状施文具による平行沈線で弧線文を施す。324は複段内湾浅鉢で口縁部が短く括れ直立する。口縁の括れ部分の外面に多孔円孔が巡る。325は浅鉢の胴部である。外面に細い突帯を貼り付け、突带上を半截竹管状施文具で刺突する。内面に赤彩が認められる。326は浅鉢の胴部である。外面に半截竹管状施文具による連続爪形文で横線文を施す。外面に赤彩が認められる。327はZ2群17類で浅鉢形のミニチュア土器である。口縁部が肥厚し、口縁部下の外面に低い突帯を貼り付ける。外面に赤彩が認められる。328・329は石匙である。328は横長の剥片を素材とし、縁辺下部にやや外湾する刃部を作り出す。329は縦長の剥片を素材とし、縁辺下部に直線的な刃部を作り出す。

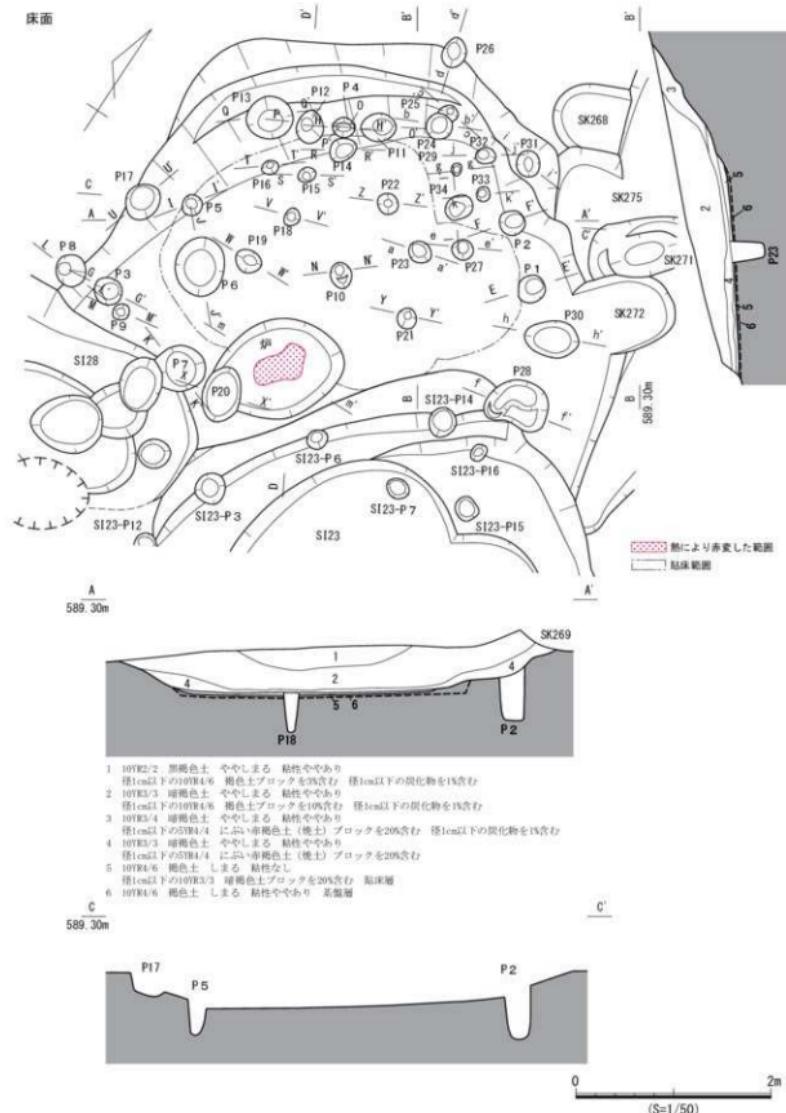


図 110 SI22 遺構図 (1)



図 111 SI22 遺構図 (2)

時期 重複するSI23・SI28との先後関係はSI28>SI23>SI22でSI23・SI28で、いずれよりも古いことから前期後葉以前であり、埋土から出土した土器からSI23とそれほど時期差はないと考えられる。

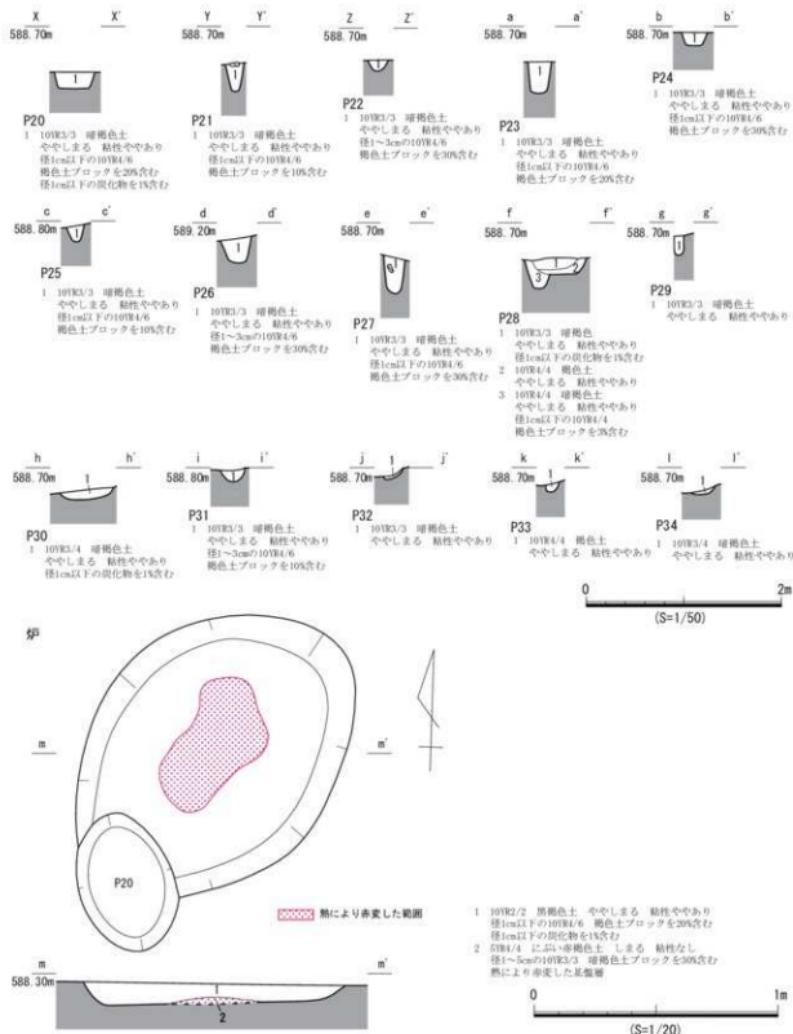


図 112 SI22 遺構図 (3)

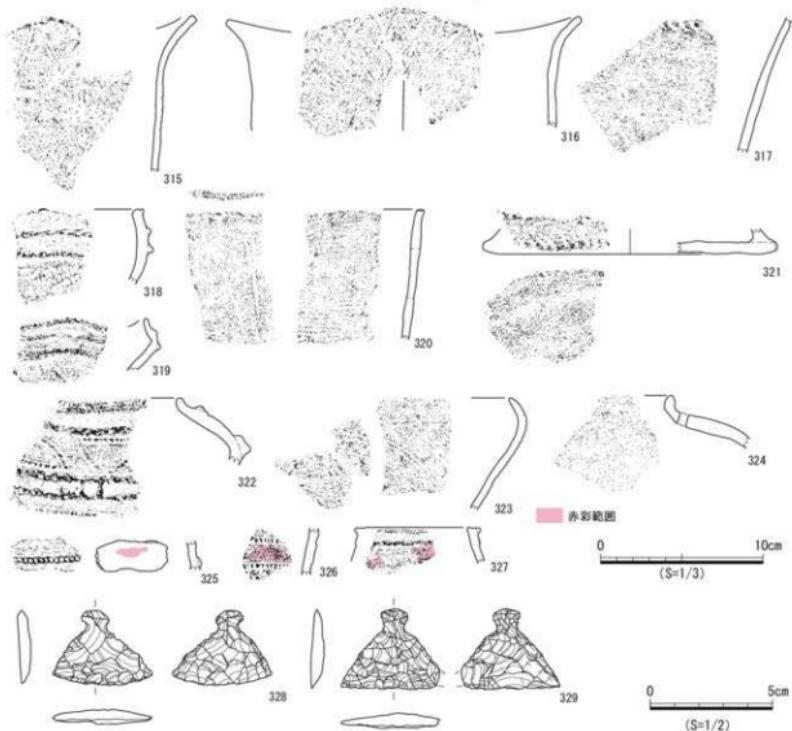


図113 SI22 出土遺物

SI23（図114～図117）

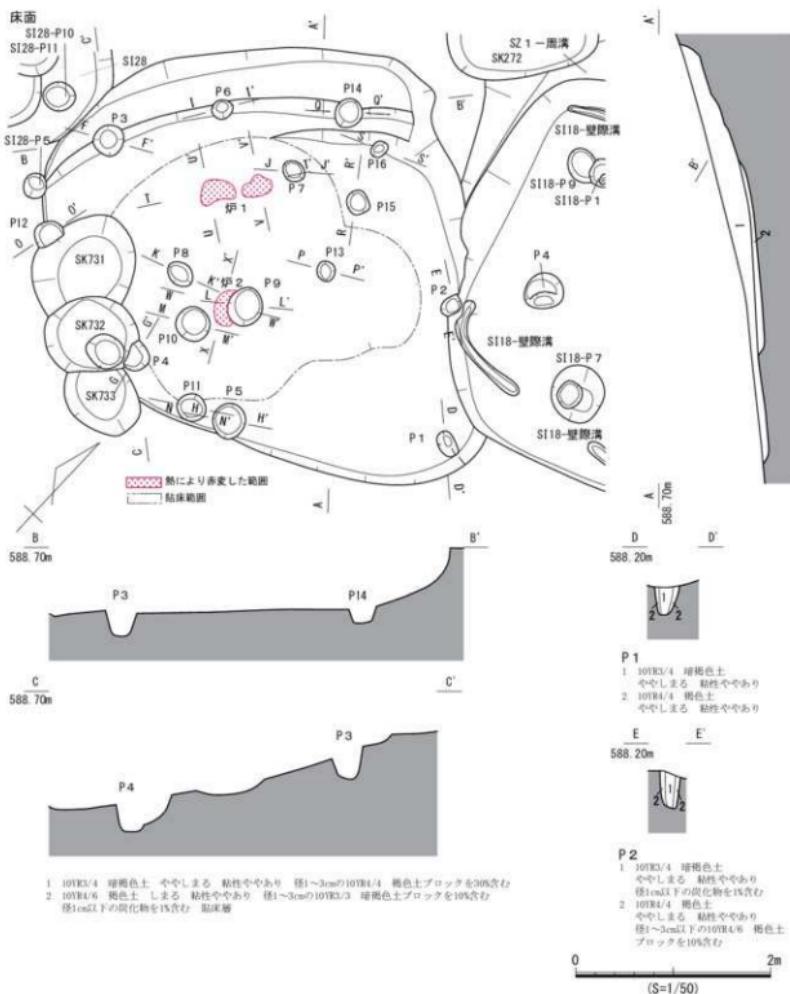
検出状況 AJ13・AK13・AK14 グリッド、III層上面で検出した。本遺構は発掘区の境界部分に位置するため、遺構東部が平成29年度、西部が30年度の調査となった。北西側でSI22、西側でSI28、南西側でSK731・SK732・SK733と重複関係があり、SI22より新しく、SI28・SK731・SK732・SK733より古い。また、北東側でSI18と重複関係がありSI23の方が新しいとして掘削したが、SI18は縄文時代中期後半に属する可能性が高いため、最終的に先後関係を誤ったと判断した。平面形は南辺が遺構の重複により消失し不明であるが、北辺が直線的で東辺・西辺は丸みをもつ不定な形状である。

埋土 暗褐色土の単層で埋土中に褐色土ブロックを多く含む。

壁 III層を掘り込む。北側の壁面はやや開き、貼床の途中で2段若しくは3段の段差が認められる。壁の残存高は最大で0.32mである。

床面 ほぼ平滑であるが、南西方向に傾斜する。貼床（2層）が床面中央に残る。貼床は褐色土が主体で暗褐色土ブロックを含み、固くしまる。床面で検出した遺構は土坑16基、炉2基である。上部が

削削されているため、掘方にかかるP5・P12は床面遺構とした。このうちP1・P2で柱痕跡を確認した。柱穴状の掘方で竪穴建物掘方中央を中心に同心円上に配置されるP3・P4・P5・P14と同心円から外れるが柱穴状の掘方で柱痕跡があるP2を主柱穴とした。壁際溝は確認できなかった。



炉 貼床中央のやや南寄り（炉2）、貼床北西部（炉1）の2ヶ所で熱による赤変が認められ、この範囲を炉とした。炉1は本来の範囲は北東—南西方向に長い範囲であるが、再検出時に2箇所に分離した。炉2はP9に切られることから何らかの理由で炉2から炉1へ移動したと考えられる。どちらも掘り込みは認められなかつた。

遺物出土状況 埋土中から縄文土器や石器が埋土上層を中心に出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉、中期まであるが、ほとんどが前期後葉のものである。中期の土器は掘削順序を誤った際にSI18に近い位置で出土したため、SI18のものが混入した可能性が高い。

出土遺物 330はZ2群2c類で底部は平底である。胴部外面に半截竹管状施工具による平行沈線を施す。外面に赤彩が認められる。331はZ2群3a2類で直線的に外傾する口縁部の外面に突帯を4条巡らせ、突带上に斜めの刻みを入れる。口唇部に近い2条の突帯の間に円状や縦に短い突帯を貼り付け、連結させる。332はZ2群3c類で内済する口縁部外面に突帯を4条巡らせ突带上に縄文を施す。333はZ2群3d類で直線的に外傾する口縁部の外面に低い突帯を4条巡らせる。口唇部に近い2条の突帯の間に円状や縦に短い突帯を貼り付け、連結させる。334・335はZ2群9b類である。334は外面

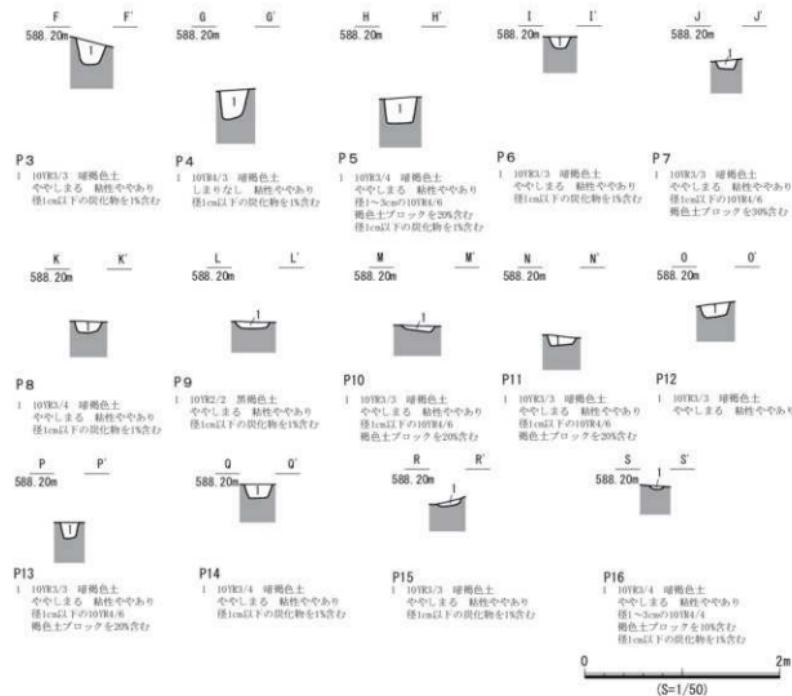
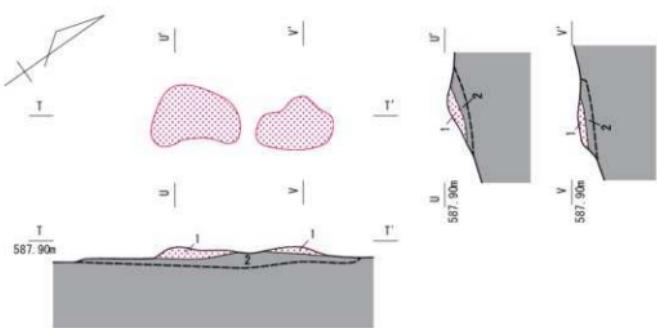


図115 SI23遺構図(2)

に集合沈線を施した後に半截竹管状施文具の外側で太い沈線を描き、沈線内に三角印刻を施す。胎土に雲母を多く含む。335は外面に集合沈線を施す。胎土に雲母を多く含む。336はZ2群7b類で波状口縁の外面に地文として繩文を施した後に半截竹管状施文具による平行沈線で縦位向弧線文を施す。波頂部の下に円形の浮文を貼り付ける。胎土に雲母を多く含む。337～339はZ2群8類である。337は外傾する胴部の外面に曲線的な結節浮線文を施す。338・339は外傾する胴部の外面に直線的な矢羽根状の結節浮線文を施す。340・341はZ2群12c類である。340は外反する胴部の外面に地文として横位に羽状繩文を施す。341は丸みをもつ胴部の外面に地文として羽状繩文を施す。342はZ2群14類である。底部は平底で接地部が外側に張り出す。胴部外面に横方向の集合沈線を施す。

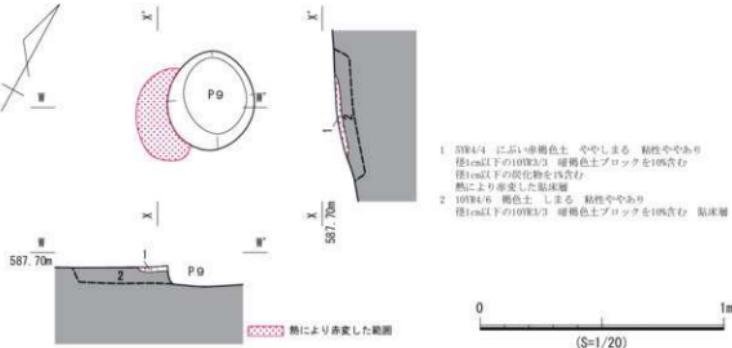
時期 重複するSI22・SI28は前期後葉であり、先後関係はSI28>SI23>SI22である。また、埋土から出土した土器からSI22・SI28とそれほど時期差はないと考えられる。

炉1



- 1 DM4/4 にぶい赤褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1cm以下の10%K3/3 塗褐色土ブロックを10%含む
径1cm以下の炭化物を5%含む
熱により赤変した粘床層
- 2 10Y4/6 褐色土 しまる 粘性ややあり
径1cm以下の10%K3/3 塗褐色土ブロックを10%含む 粘床層

炉2



- 1 DM4/4 にぶい赤褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1cm以下の10%K3/3 塗褐色土ブロックを10%含む
径1cm以下の炭化物を5%含む
熱により赤変した粘床層
- 2 10Y4/6 褐色土 しまる 粘性ややあり
径1cm以下の10%K3/3 塗褐色土ブロックを10%含む 粘床層

図116 SI23遺構図(3)

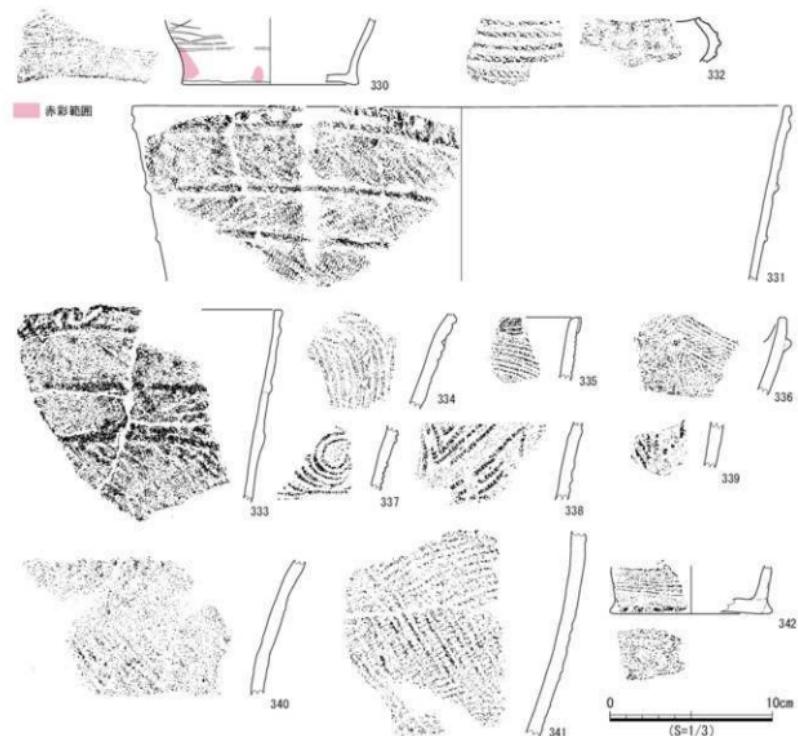


図117 SI24出土遺物

SI24(図118~図121)

検出状況 AB8～AC9グリッド、III層上面で検出した。堅穴建物の北東部は搅乱により消失している。平面形は西辺・南辺は直線的であるが、北辺は搅乱により削られているため不明である。

埋土 褐色土が2層堆積しており、西から東壁際に2層、中央部に1層が認められる。2層中には炭化物や褐色土ブロックを含む。

壁 III層を掘り込み、壁面はやや開く。壁の残存高は最大で0.12mである。

床面 ほぼ平滑で、南東方向に傾斜する。床面で検出した遺構は土坑29基(ただし、堅穴の掘方外に広がる遺構を含む。)、貯蔵穴1基である。堅穴内で環状に配置されるP2・P3・P6・P7・P8・P10・P18を主柱穴としたが、うちP18については掘方の規模が他の主柱穴よりも小さい。堅穴建物の掘方にかかるP17・P19・P20・P29は、すり鉢状の堅穴建物壁面に掘削された遺構の上面が削平された可能性があるため付属遺構としたが、堅穴建物に帰属しない可能性もある。壁際溝は確認できなかった。

貯藏穴 積穴建物内の床面で検出した遺構のうち、最も規模の大きいものを貯藏穴とした。平面形は円形若しくは不定形に近い形状をとる。埋土上層で、径 0.5m ほどの扁平円碟 2 個が平坦な面を上にして重なる状態で出土した。円碟の下では掘方の坑底が 2 段になるが、埋土は単層のため単独の遺構と

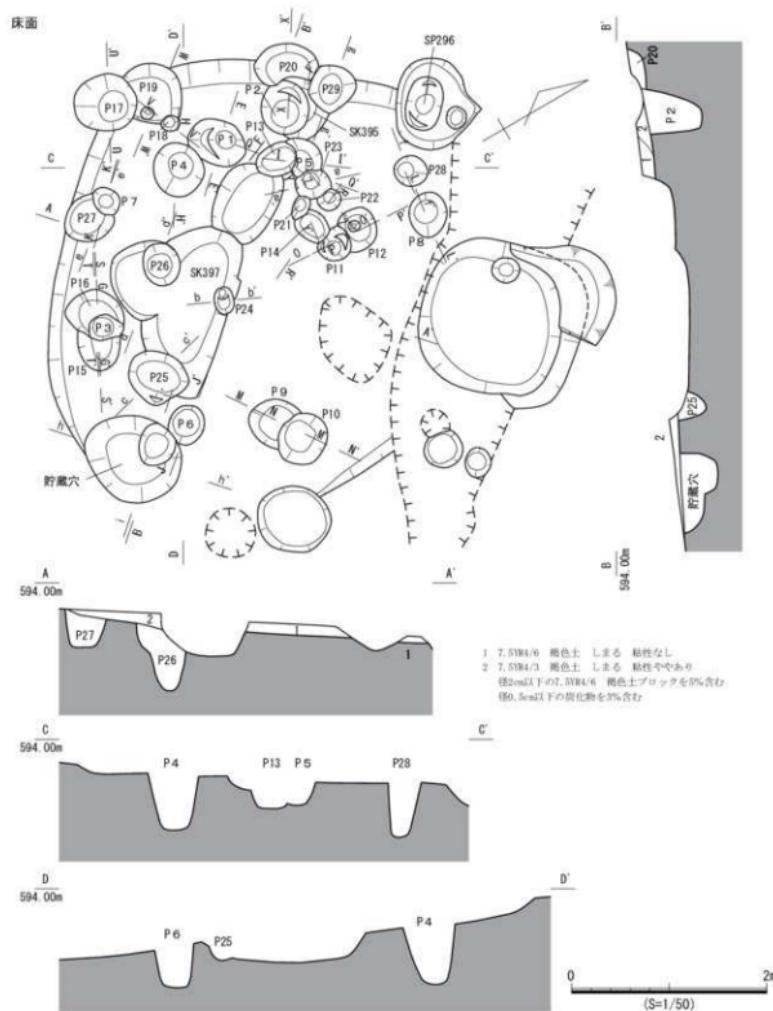


図 118 SI24 遺構図（1）

判断した。

炉 確認できなかった。

床下 貼床は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土 a・b・1層から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。この他にP2から345、P20から343、P26から347が出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉である。

出土遺物 343はZ2群3a1類で外面に1条の細い突帯を貼り付け、その上に縦の短い刻みを入れる。344はZ2群3d類で外面に1条の細い突帯を貼り付ける。345・346はZ2群7c類で外面に集合沈線を施し、その上にソーメン状浮線文を貼付する。347はZ2群15類の複段内湾浅鉢で外面に半



図 119 SI24 遺構図（2）

裁竹管状施工具により幅狭の平行沈線文で枠状文を施す。348は凹基無茎石鏃で両面を丁寧に剥離調整する。

時期 床面遺構の出土土器から、構築された時期が前期後葉以降と判断した。



図120 SI24 遺構図（3）

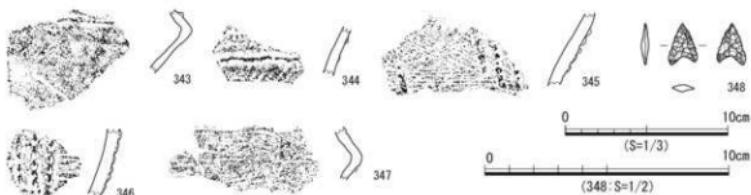


図121 SI24 出土遺物

SI28（図122・図123）

検出状況 AK12-13 グリッド、III層上面で検出した。北側に位置する堅穴建物 SI43、東側に位置する堅穴建物 SI22・SI23 と重複関係があり、いずれよりも新しい。平面形状は地形の傾斜により南側の掘方及び床面が削平されており、不明である。

埋土 暗褐色土が1層堆積する。埋土中に褐色土ブロックや炭化物を含む。

壁 III層を掘り込み、北側の壁面は大きく開く。壁の残存高は最大で0.18mである。

床面 ほぼ平滑で、南方向に傾斜する。堅穴の掘方東側に貼床（2層）を確認した。貼床土は固くしまり、褐色土ブロックを含む。床面で検出した遺構は炉1基、土坑7基である。ただし、SI43-P11・P12はSI43の主柱穴であり、堅穴の掘方南側で検出した土坑4基はこの建物に帰属する遺構であるか否かは不明であるため、柱配置を特定することは困難である。壁際溝は確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

炉 床面で炉1基を確認した。P8と重複するため、平面形は不明である。掘方は浅く掘り込まれ、その内部に堆積する1層は焼土層、2層は掘方埋土と現地調査では判断したが、被熱範囲を掘方と誤認した可能性がある。

床下 貼床を除去し精査したが、遺構は確認できなかった。

遺物出土状況 堅穴建物の埋土b・1層から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。この他にP9から深鉢の底部（350）が出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 349はZ2群3d類で外面に1条の細い突帯を貼り付ける。350はZ2群14類で底部外面の接地面部分が張り出す。張り出した部分に棒状工具による刻みを入れる。351・352は磨石である。351は両側面に敲打痕と磨痕、下面に剥離痕と敲打痕を残す。352は右側面に敲打痕と磨痕、上面・下面に剥離痕と敲打痕を残す。

時期 重複するSI43・SI22は前期後葉以前、SI23は前期後葉の遺構である。重複関係やP9出土土器から前期後葉以降に構築された遺構と判断した。

SI30（図124・図125）

検出状況 AE11～AE12 グリッド、III層上面で検出した。堅穴建物の北西部はSK444と重複関係があり、SK444よりも新しい。また、P8とST21に重複関係があり、ST21よりも古い。平面形は北辺と東辺が直線的で南辺は丸みをもつ、不定形な形状である。

埋土 暗褐色土が1層堆積する。

壁 III層を掘り込む。壁面はやや開く。壁の残存高は最大で0.23mである。

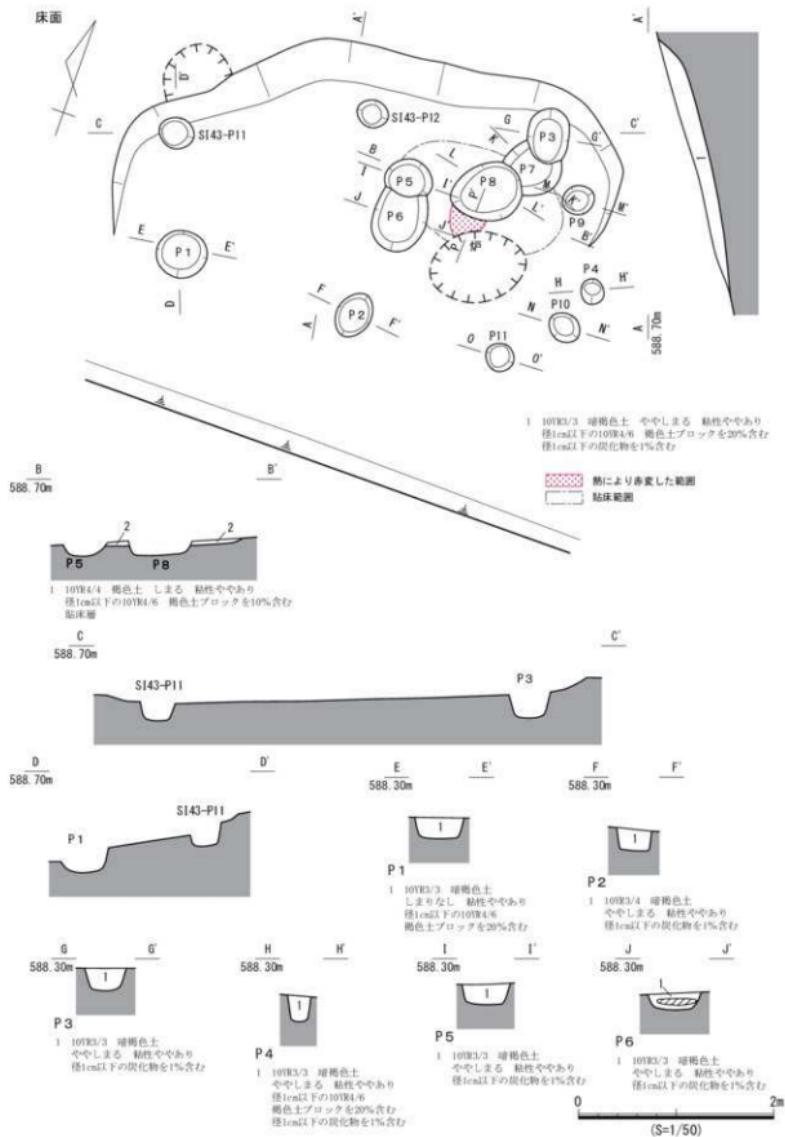


図122 SI28 遺構図(1)

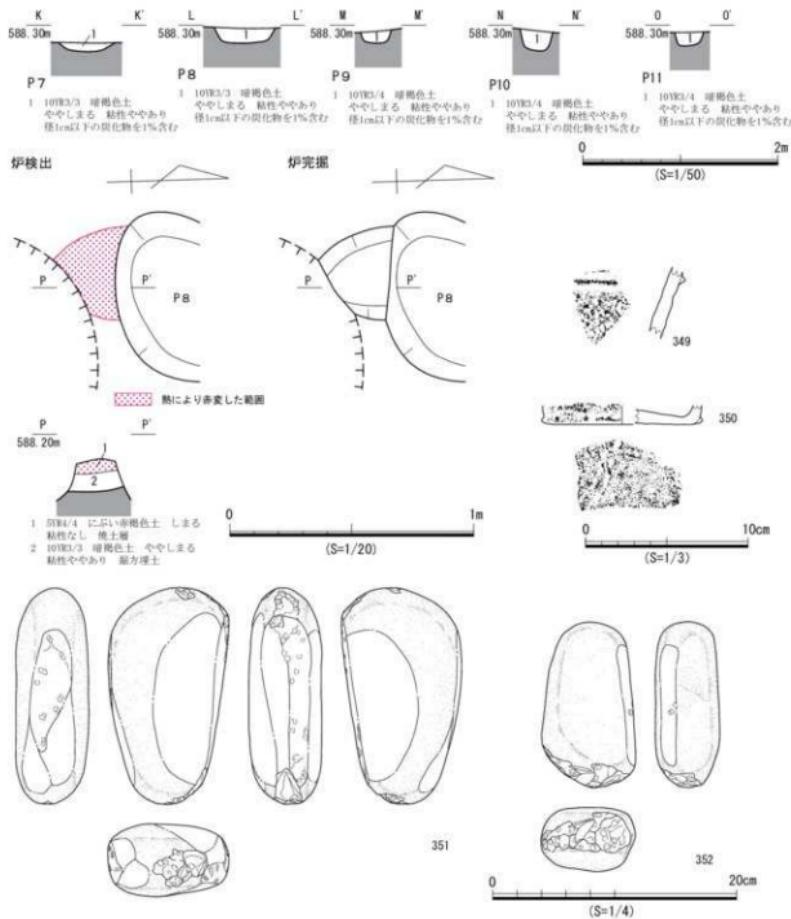


図123 SI28遺構図(2)・出土遺物

床面 ほぼ平滑で、南東方向に傾斜する。掘方の中央部で貼床を確認した。貼床は褐色土で、ややしまる。床面で検出した遺構は土坑7基である。SI6の柱配置と同様に、建物中央のP1とその周囲の3基(P3・P5・P7)で構成する柱配置の可能性もあるが、柱間が不定のため柱配置を確定することは困難である。壁際溝は確認できなかった。

炉 確認できなかった。

埋甕 確認できなかった。

床下 貼床除去後、土坑2基(P8・P9)を確認した。

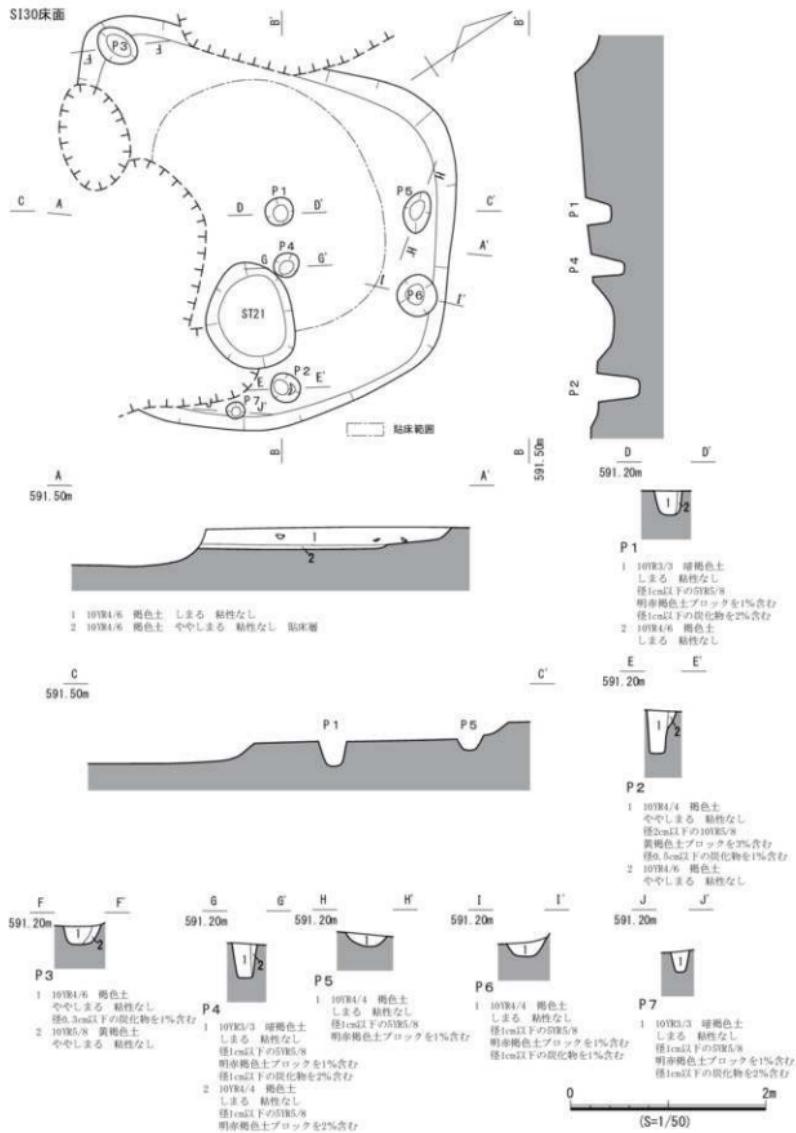


図 124 SI30 遺構図 (1)

遺物出土状況 坂穴建物の埋土a層から縄文土器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、中期後葉の353を除き、前期後葉である。

出土遺物 353はC群7種で外面に縄文を施す。

時期 遺構の重複関係は、前期後葉のSK444よりも新しく、前期後葉のST21よりも古いことから前期後葉の遺構と判断した。

SI31(図126~図128)

検出状況 AF13・AG13グリッド、III層上面で検出した。標高が低い南西側の掘方は残存しないことから、SI31南西部の掘方や床面は削平された可能性がある。掘方東部でSK519・SK521・SK522・SK737と重複関係があり、これらよりも古い。平面形は残存する掘方3辺はやや丸みがあるが、隅があるように見えることから、隅丸方形の可能性がある。

埋土 暗褐色土が1層堆積する。埋土中に褐色土ブロックを含む。

壁 III層を掘り込む。壁面は底面から緩やかに開く。壁の残存高は最大で0.22mである。

床面 ほぼ平滑であるが、地形に沿って東方向にやや傾斜する。床面で検出した遺構は土坑29基である。壁際溝は確認できなかった。うちP10・P20は掘方が他の遺構よりも深いこと、P3・P16で柱痕跡を確認したこと、遺構の位置関係から柱配置は二通り(P2・P3又はP16・P10・P20又はP1・P2・P3又はP16・P4)を考えられる。ただし、坂穴の東側では後出の遺構により床面の遺構を消失している可能性があるため、主柱穴の数は確定できない。なお、P6・P24・P25・P28はすり鉢状の坂穴建物壁面に掘削された遺構の上面が削平された可能性をあるため付属遺構としたが、坂穴建物に帰属しない可能性もある。

貯蔵穴 確認できなかった。

炉 確認できなかった。

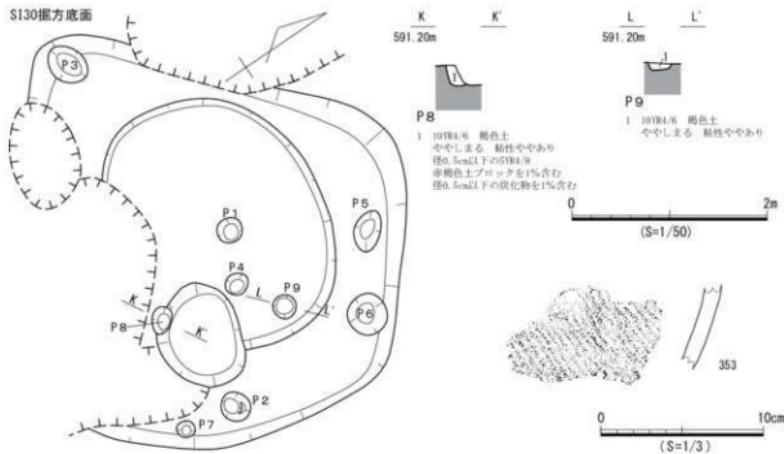


図125 SI30遺構図(2)・出土遺物

床下 貼床は確認できなかった。

遺物出土状況 突穴建物の埋土b・1層から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は一部、中期前葉のものが混入するが、付属遺構出土のものを含めて前期後葉のものがほとんどである。

出土遺物 354 は乙2群3a2類で外面に突帯を1条貼り付け、その上に斜めの刻みを鋸歯状に施す。

355はZ2群3d類で外面に1条の細い突帯を貼り付ける。突帯をナデ引くため、突帯の断面は三角形

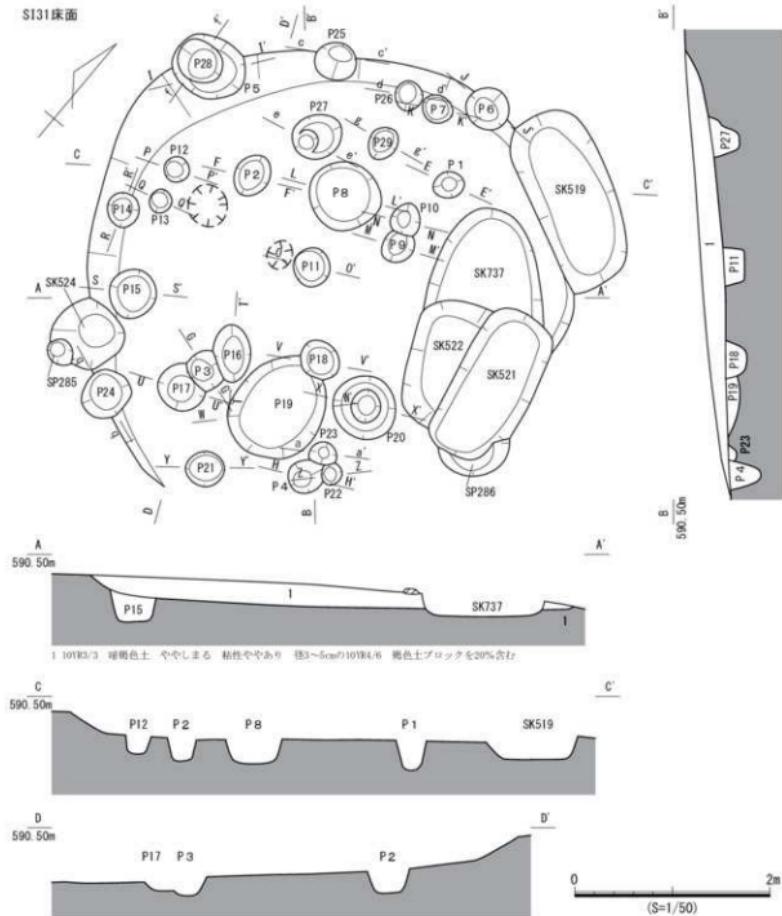


図 126 SI31 骨構図 (1)



図127 SI31遺構図(2)

状になる。356はZ2群5e類で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文を2条施す。口唇部は半截竹管状施文具の内側による刺突を施す。357はZ2群15類の内湾浅鉢で、外面に半截竹管状施文具による平行沈線文を施す。底部外面の接地部分が張り出す。358・359は磨石・敲石類である。358で表面に磨痕、右側面に敲打痕と磨痕を残す。359は表面・裏面・左側面に磨痕、下面・右側面に敲打痕と磨痕を残す。

時期 重複するSK521が前期後葉の遺構であることから前期後葉以前の遺構と判断した。

SI36(図129・図130)

検出状況 AG7・8～AH7グリッド、III層上面で検出した。ST38・SK593・SK602と重複関係があり、いずれの遺構よりも古い。全体の平面形は後出する遺構により消失しているため不明であるが、北部の形状から円形に近いと推定される。

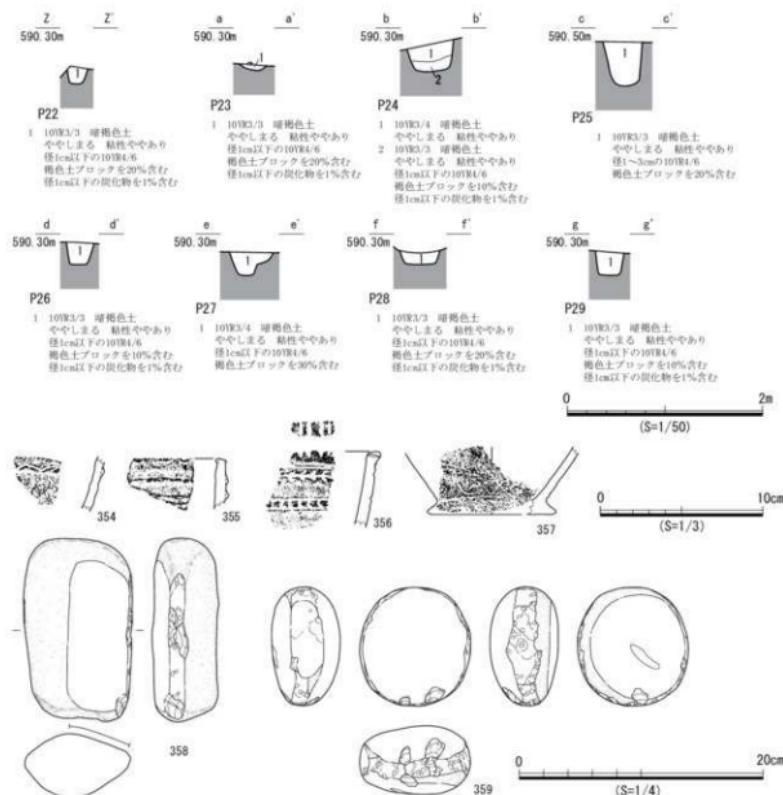


図128 SI31遺構図(3)・出土遺物

埋土 暗褐色土と褐色土が2層、傾斜に沿って堆積する。埋土中に褐色土ブロックや炭化物を含む。

壁 III層を掘り込み、壁面はやや開く。壁の残存高は最大で0.34mである。

床面 ほぼ平滑で、南東方向に傾斜する。残存する床面の西部が固く縮まる。床面で検出した遺構は土坑15基で、P9・P15以外の土坑は掘り込みが浅く、P9で柱痕跡を確認した。これらのうちP1・

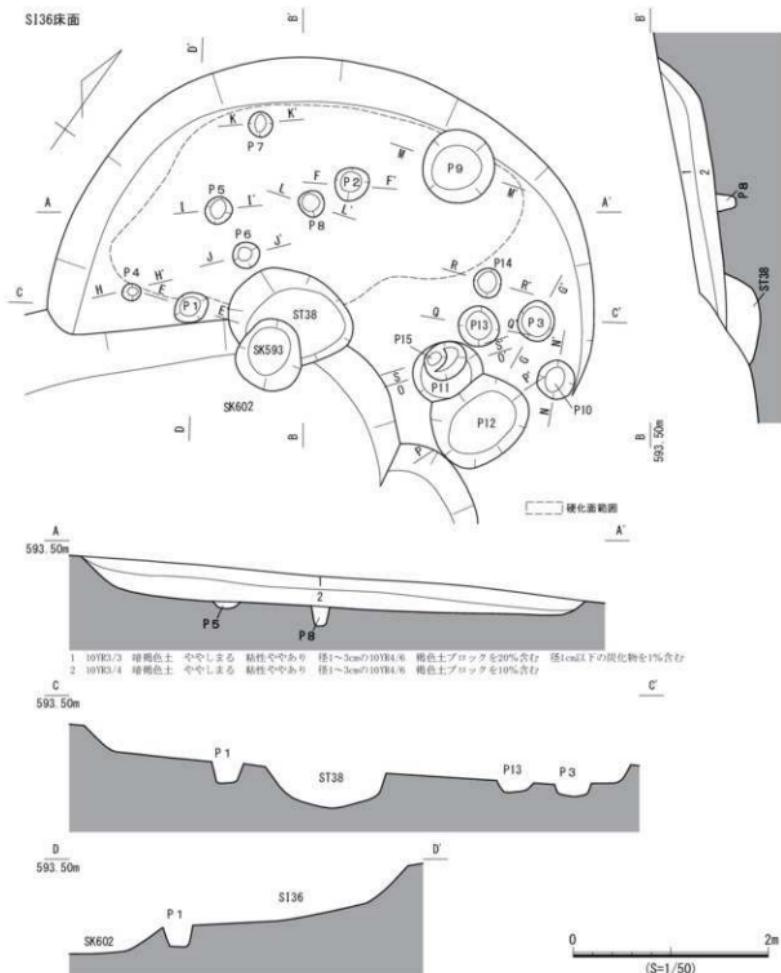


図129 SI36 遺構図（1）

P2・P14とP1・P8・P13が位置的に主柱穴の候補と考えられるが、P1・P2・P14の間隔がほぼ等距離であることから後者よりも蓋然性が高いと思われる。壁際溝は確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

炉 確認できなかった。

床下 床下の調査は実施していない。

遺物出土状況 積穴建物の埋土a・b層から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は一部、中期のものが混入するが前期後葉のものがほとんどである。

出土遺物 360はZ群12c類で外面に羽状縞文を施す。

時期 遺構の重複関係は前期後葉のST38より古いことから前期後葉以前の遺構と判断した。

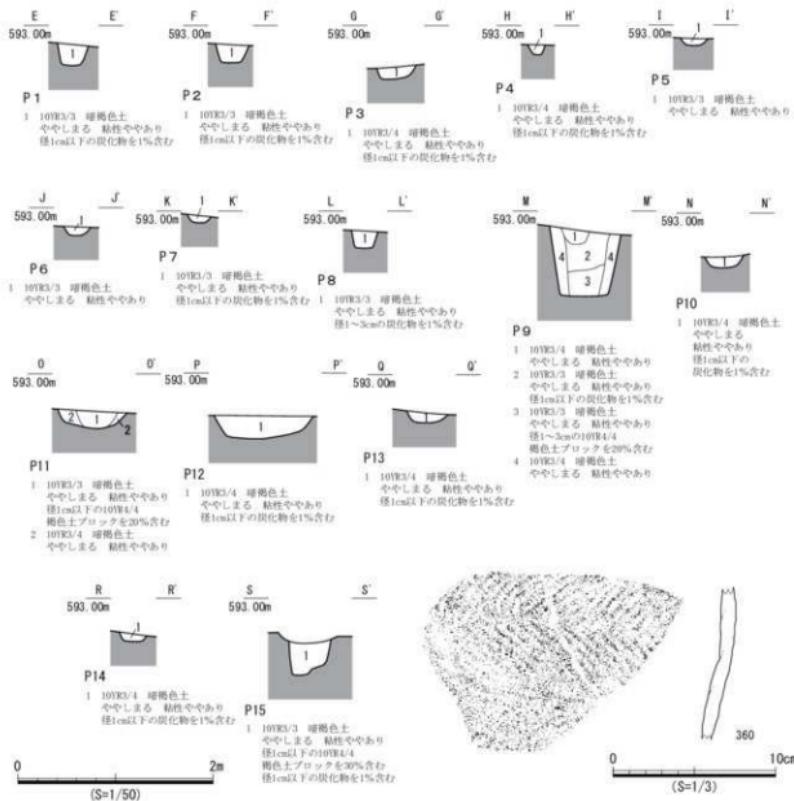


図130 SI36遺構図(2)・出土遺物

SI40(図131~図133)

検出状況 AH4~AI6グリッド、III層上面で検出した。南側でSI41・SI42、西側でSZ2の周溝と重複し、いずれの遺構よりも古い。平面形は、残存する北辺と東辺が直線的ではば直交することから、方形に近い形状が想定される。

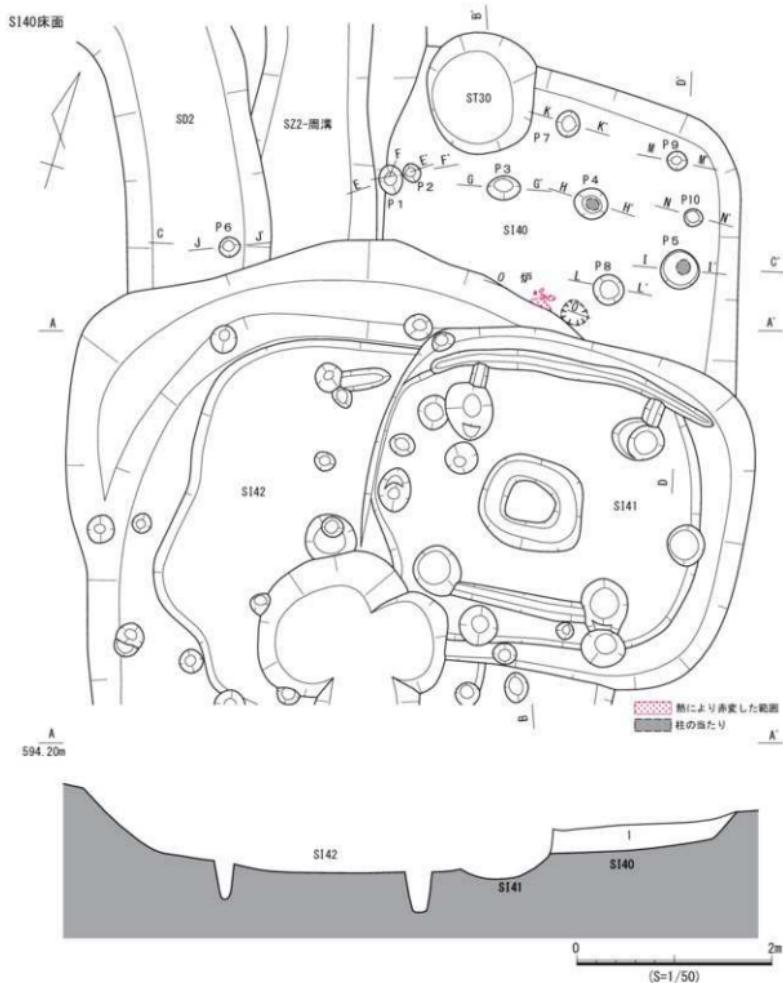


図131 SI40遺構図(1)

埋土 暗褐色土が1層堆積する。埋土中に褐色土ブロックを含む。

壁 III層を掘り込み、壁面はやや開く。壁の残存高は最大で0.28mである。

床面 ほぼ平滑で、南方向に比較的強く傾斜する。床面で検出した遺構は炉1基、土坑9基である。

掘方の規模や形状が類似するP1・P3・P8とSZ2の周溝底面で検出したP6が、環状に配置されていた可能性がある。なお、P4・P5では柱の当たりを確認したが、本遺構との関係は不明である。

壁際溝は確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

炉 床面上のP8に近い位置で、炉の痕跡と考えられる被熱範囲を検出した。SI42との重複によって削平され、遺存状態は悪い。

床下 貼床は確認できなかった。

遺物出土状況 堅穴建物の埋土c層・床面から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は一部中期中葉のものが混入するが、付属遺構出土のものを含め、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 361・362はZ2群3a2類である。361は口縁部がやや内湾し、口唇部が肥厚する。口唇部と口縁部の外側に口縁部と平行する3条の突帯を施し、突帯の間に縦の短い突帯を貼り付け連結さ

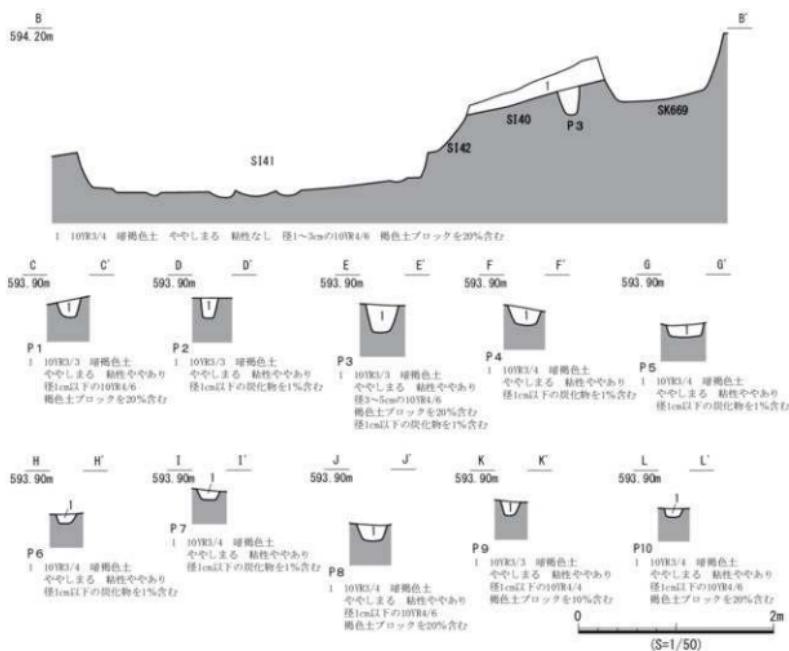


図132 SI40 遺構図(2)

せる。362は口縁部がやや内湾し、口唇部が肥厚する。口唇部と口縁部の外面に口縁部と平行する3条の突帯による横線文を施し、突帯上に縦の短い刻みを施す。363はZ2群3d類では外傾する外面に細い突帯を施す。364は磨石・敲石類で表面と両側面に磨痕・敲打痕、裏面に磨痕、上面・下面に敲打痕を残す。

時期 遺構の重複関係は、前期後葉以降のSI42より古く、また中期後葉以降のSI41より古い。出土した土器の状況から前期後葉の遺構と考えたい。

SI42(図134～図138)

検出状況 A1.4～A1.5グリッド、III層上面で検出した。掘方の東部がSI41と重複し、SI41よりも古い。また、掘方の北東部がSI40と重複し、SI40よりも新しい。掘方北辺はやや丸味があるが、これと比較すると南辺は直線的である。平面形を全体的に見れば方形に近いが、北部と南部で異なった印象を受ける。

埋土 暗褐色土と黒褐色土が5層堆積する。2層を除き、埋土中に褐色土ブロックや炭化物を含む。5層は壁際に傾斜して堆積し、その後周囲から流れ込むように2～4層が堆積している。1層は本遺構の最終的な埋土である。

壁 III層を掘り込み、東壁面・南壁面はやや開く。北壁面はテラス状の段が認められる。壁の残存高は最大で0.48mである。

床面 ほぼ平滑で、南方向に傾斜する。貼床（6層）は褐色土で、テラス状の段を含まない掘方底面の中央部に敷設されているが、北西から南西の隅にかけて貼床が存在しない範囲がある。床面で検出した遺構は、炉2基、土坑16基、貯藏穴1基である。まず、ほぼ床面上に等間隔（約2.4m）で配置

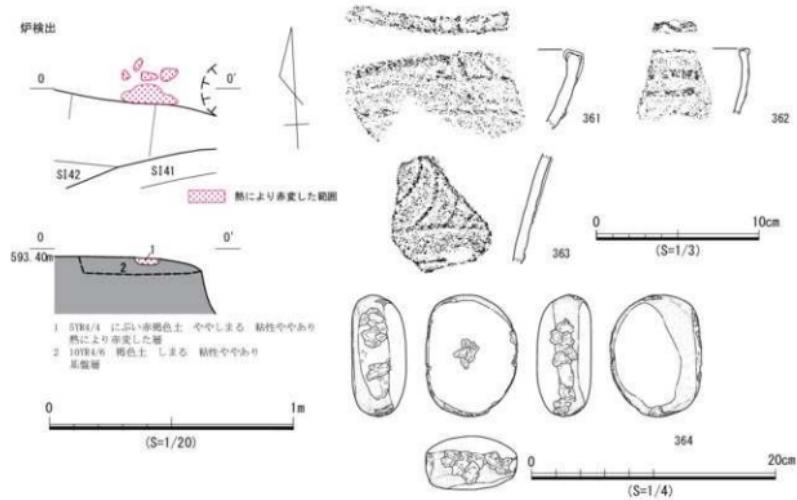


図133 SI40遺構図(3)・出土遺物

されるP3・P4・P6・P14を主柱穴と考えることができるが、5本柱とした場合、SI41床面上で柱穴が確認されていないことは不自然であるため、SI41の石囲炉と重複していた可能性がある。また、これらが主柱穴とすると、炉1は柱穴で囲まれた範囲のはば中心に位置する。次に、北部のみであるがテラスの段に沿って配置されるP1・P2・P9といった土坑が、前述のP4・P14とともに6

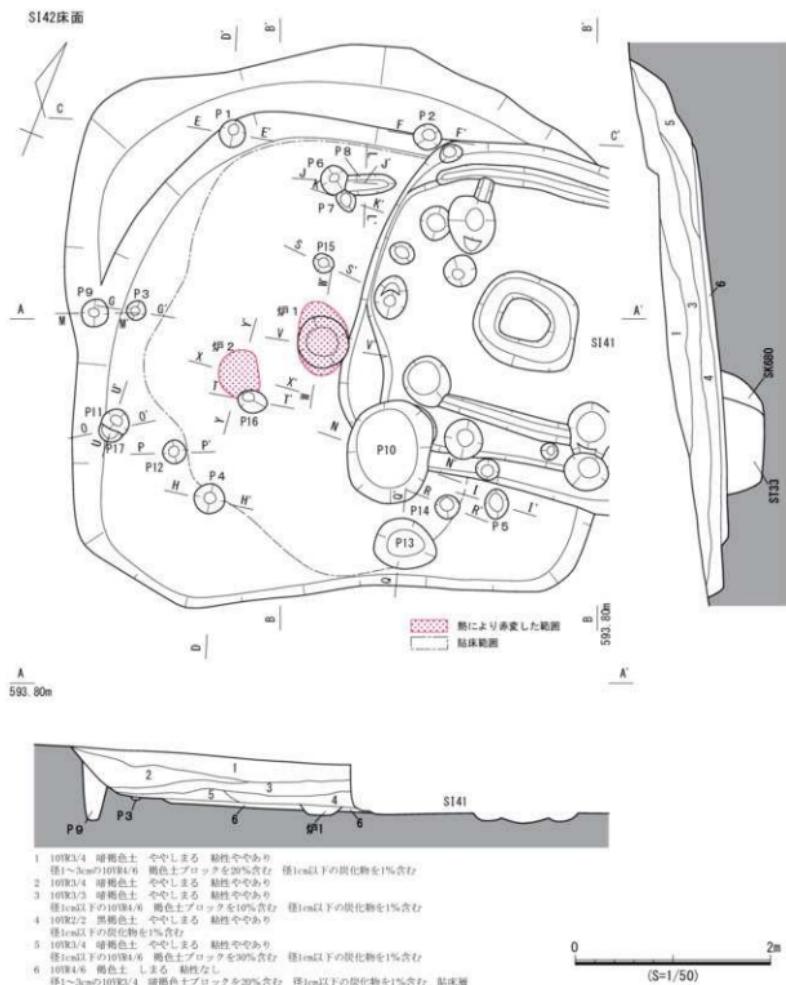


図134 SI42遺構図(1)

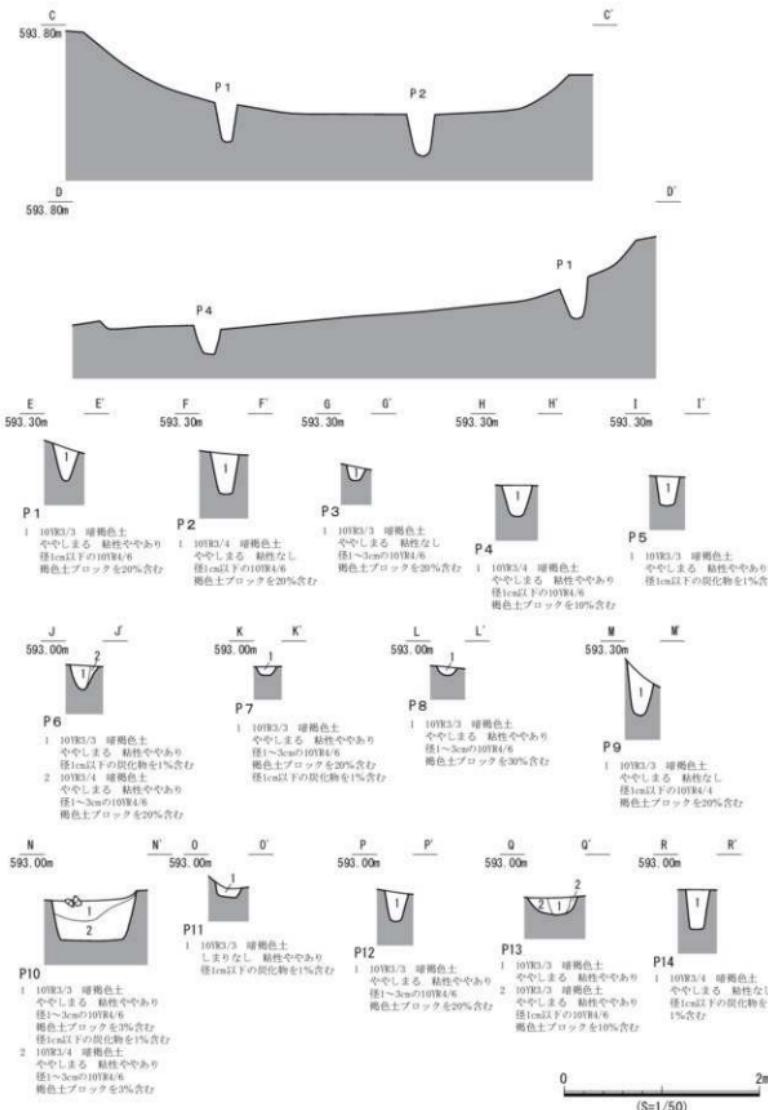


図135 SI42 遺構図(2)

本柱の主柱穴と考えることもできる。しかし、テラス部分が付加されているように見える平面形から、P1・P2・P9は重複する別の堅穴建物に属していた可能性もある。なお、P5やP12も主柱穴とした遺構に規模が似ていることや主柱穴とした遺構と近接することから、建て替えに伴う柱穴とも考えられる。一方、これらには含まれないP13・P14・P15で柱痕跡を確認した。いずれも貼床の上面から掘り込まれているが上屋構造に関係する可能性は低く、P15が炉2より後出することから、埋土上面で検出を見落としたSI42より新しい遺構と考えられる。

貯蔵穴 堅穴床面の中央部に位置する炉1の南東部で検出した比較的規模の大きい土坑を貯蔵穴とした。平面形は橢円に近い形状である。暗褐色土が2層堆積し、1層は褐色土ブロックと炭化物、2層は褐色土ブロックを含む。

炉 堅穴床面上の貼床上で炉2基（炉1・炉2）を検出した。炉1は建物のほぼ中央で確認した。浅い皿状に掘り込まれた窪みの底面と周囲に被熱による赤変が認められる。埋土中にはにぶい赤褐色土ブロックや炭化物が認められた。炉2は炉1の西側で検出した。炉1とは異なり掘り込みは認められなかつた。

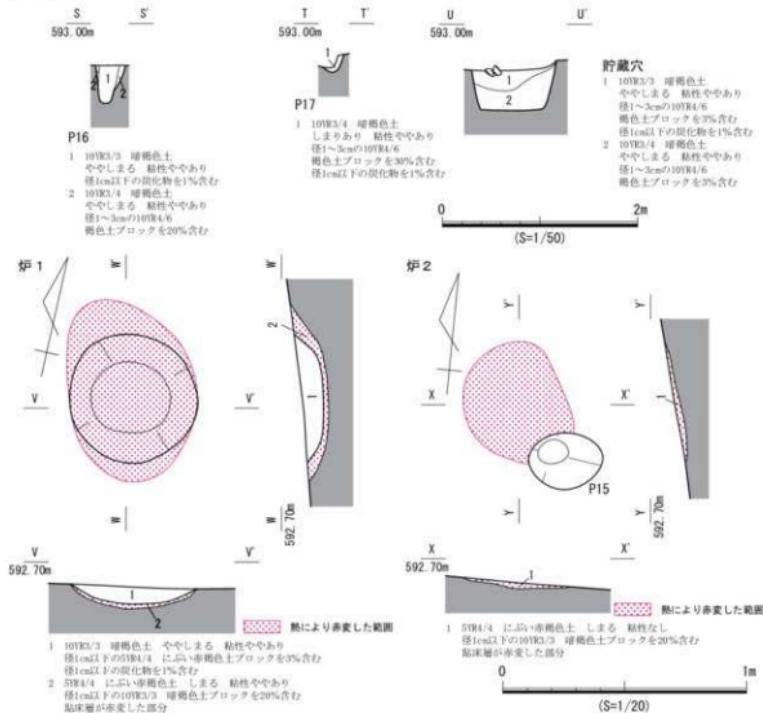


図136 SI42 遺構図(3)

床下 貼床を除去したが、遺構は確認できなかったが、炉 1 の底面から土坑 1 基を検出した。

遺物出土状況 堪穴建物の埋土 b・c・i・1・2層・床面から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる上器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 365 は Z 2 群 3 a 2 類でやや内湾する口縁部の外面に扁平な突帯を 3 条貼り付け、突帯上を斜めに刻む。366~371 は Z 2 群 15 類である。366・367 は内湾浅鉢である。366 は半截竹管状施文具による連続爪形文で木葉文を施す。底部は平底で接地面が外側に張り出す。367 は外面に赤漆細線で交差状の文様を施し、さらにその上を黒漆細線でなぞる。368~370 は複段内湾浅鉢である。368 は胴部外面に半截竹管状施文具による平行沈線で入組木葉文を施し、上方に多孔円孔を施す。369・370 は口縁端部が折れ曲がり、この屈曲部外面に沈線を施し、沈線内にやや幅広の穿孔をする。369・370 は出土位置が近く、胎土や器形、孔の形状が類似することから同一個体の可能性が高い。371 は有稜浅鉢で胴部外面に半截竹管状施文具による平行沈線で横線文と横位に入り組む弧線文を施す。括れ部分の横線文上に矢羽根状の刻みを入れる。372 は Z 2 群 14 類である。平底で接地面が外側に張り出す。張り出した底部に棒状工具による刻みを入れる。373 はスクレイバーで縦長剥片を素材とし、左部と下部に外湾する刃部を作り出す。374・375 は磨石・敲石類である。374 は表裏面と右側面に磨痕・敲

SI42掘方底面

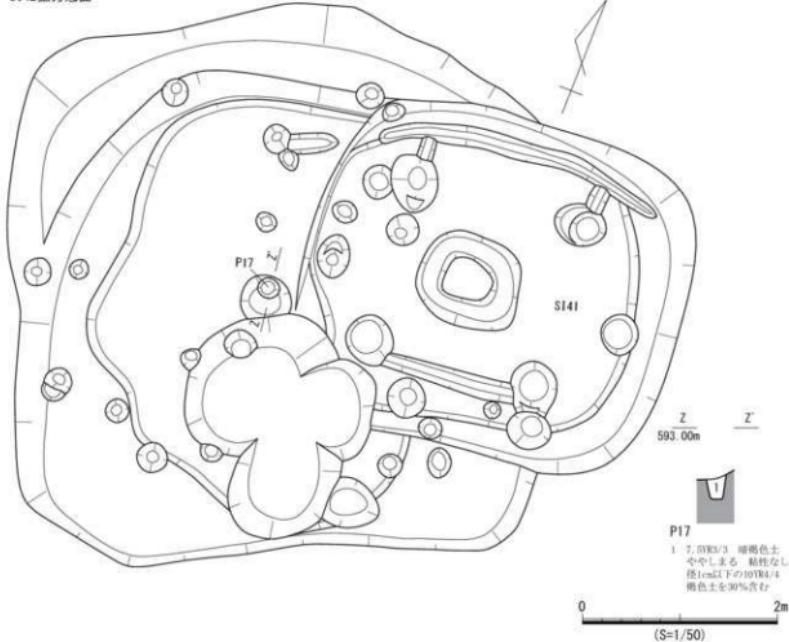


図 137 SI42 遺構図（4）

打痕、下部・左側面に敲打痕を残す。375は表面に磨痕、両側面に敲打痕・磨痕、下部に敲打痕を残す。

時期 遺構の重複関係は、前期後葉以前のSI40より新しく、中期後葉以降のSI41より古い。そのため前期後葉から中期後葉の遺構と考えられるが、出土土器から前期後葉の遺構とした。

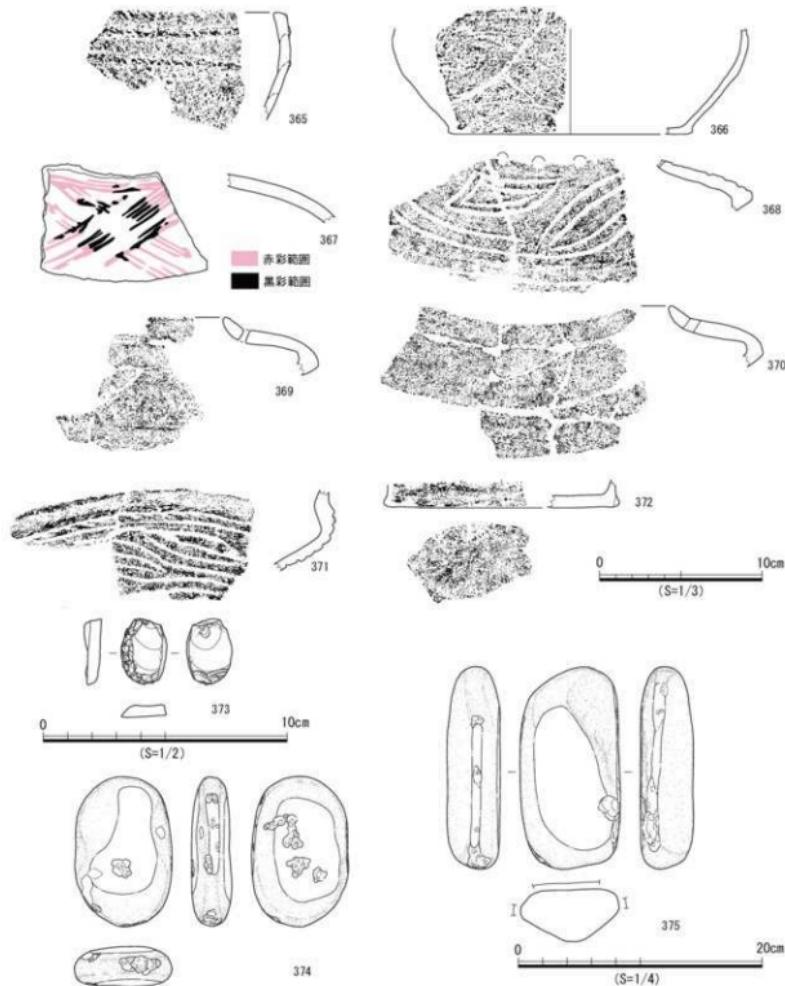


図138 SI42 出土遺物

SI43(図139・図140)

検出状況 AK12 グリッド、III層上面で検出した。南部で SI28 と重複し、SI28 より古い。平面形は、北辺が直線的で東西辺はやや丸味がある不定な形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。いずれも埋土中に褐色土ブロックを含む。2層は掘方全体に堆積するが、1層は掘方のやや北寄りのみ認められる。

壁 III層を掘り込み、北側の壁面はやや開く。壁の残存高は最大で0.18mである。

床面 ほぼ平滑で、南方向に傾斜する。貼床(3層)は褐色で、掘方底面中央に敷設される。床面で検出した遺構は炉1基、土坑12基、壁際溝2条である。竪穴の北西・北東隅に近い床面に設置されるP1・P2を主柱穴とした場合、SI28床面で検出したP11・P12も位置的に主柱穴の可能性が高い。なお、C-C'断面では、P1とP11の底面レベルがほぼ同じである。壁際溝は、掘方東辺と北辺東部の下端に沿って検出した。

貯蔵穴 確認できなかった。

炉 掘方床面の掘方中央と推定される位置で、熱による赤変範囲を確認した。貼床上面が直接被熱しており、掘り込みは認められない。この範囲の南部はSI28に削平されるが、残存する部分は南北に細長い形状をとる。

床下 贊床を除去したが、その下面で遺構は確認できなかった。

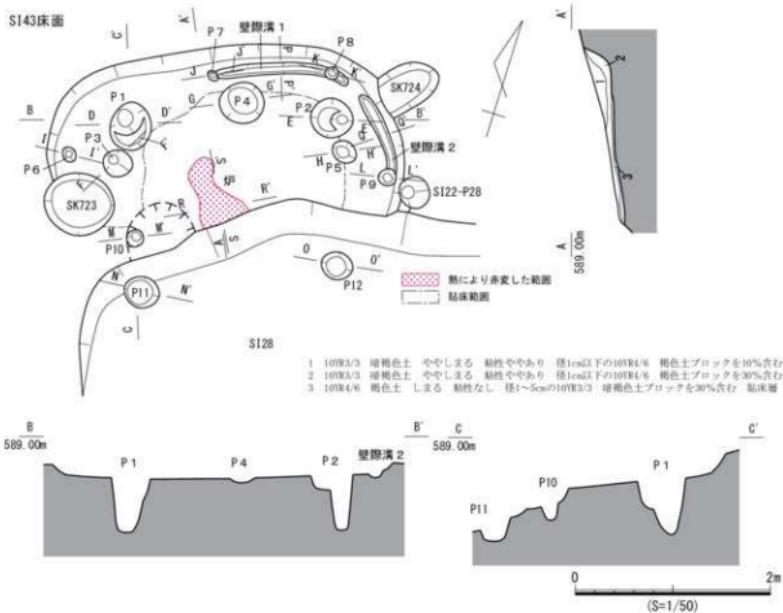


図139 SI43 遺構図(1)

遺物出土状況 堅穴建物の埋土 a・床面から繩文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 376はZ2群3d類で外面に幅広で低い突帯を2条貼り付ける。377はZ2群7c類で外面に地文として集合沈線を施し、その上に浮文を貼り付ける。

時期 遺構の重複関係は、前期後葉のSI28より古い。重複関係及び出土土器から前期後葉の遺構と判断した。

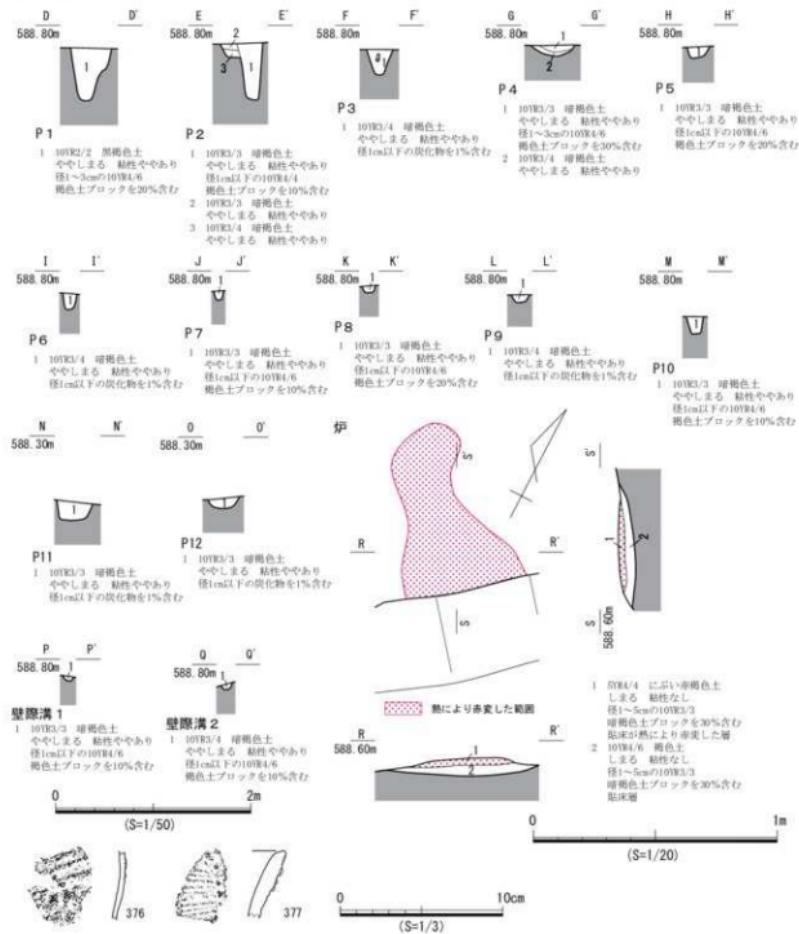


図140 SI43遺構図(2)・出土遺物

SI44(図141~図143)

検出状況 AK4・5グリッド、III層上面で検出した。南側はSI46と重複し、SI46よりも古い。また、西側はSI45と重複し、SI45よりも新しい。残存する平面の各辺が直線的で、平行四辺形のように歪んだ形状をとる。

埋土 暗褐色土と褐色土が5層堆積する。重複によって大きく失われているが、A断面とB断面の堆積状況から考えると、いずれの層も北から南へ向かって傾斜して堆積していたと推定される。1・2・

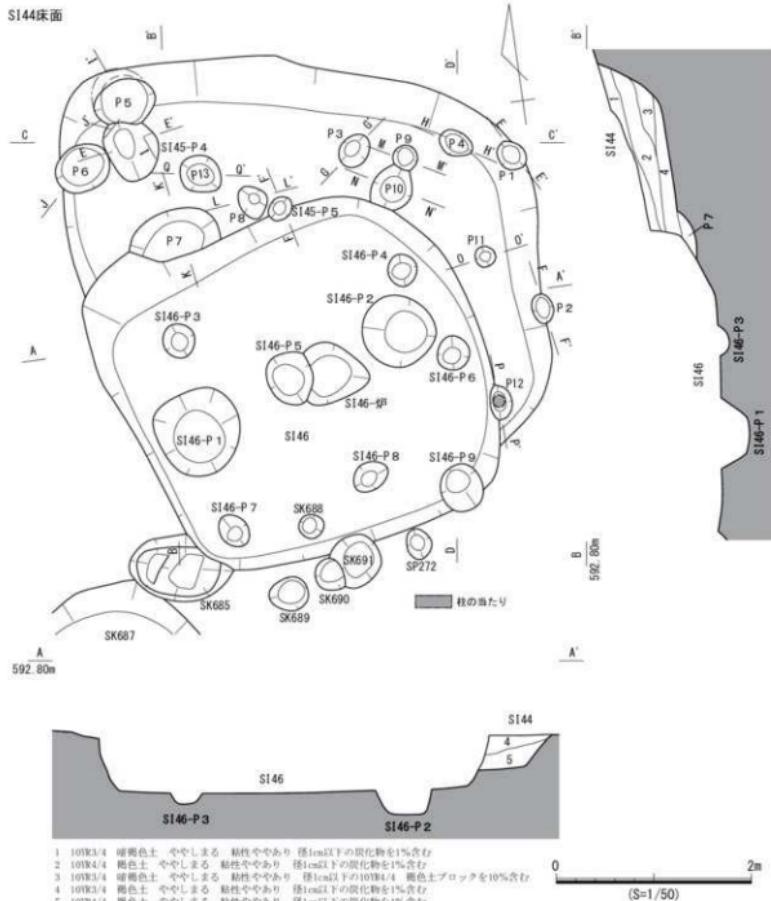


図141 SI44 遺構図(1)

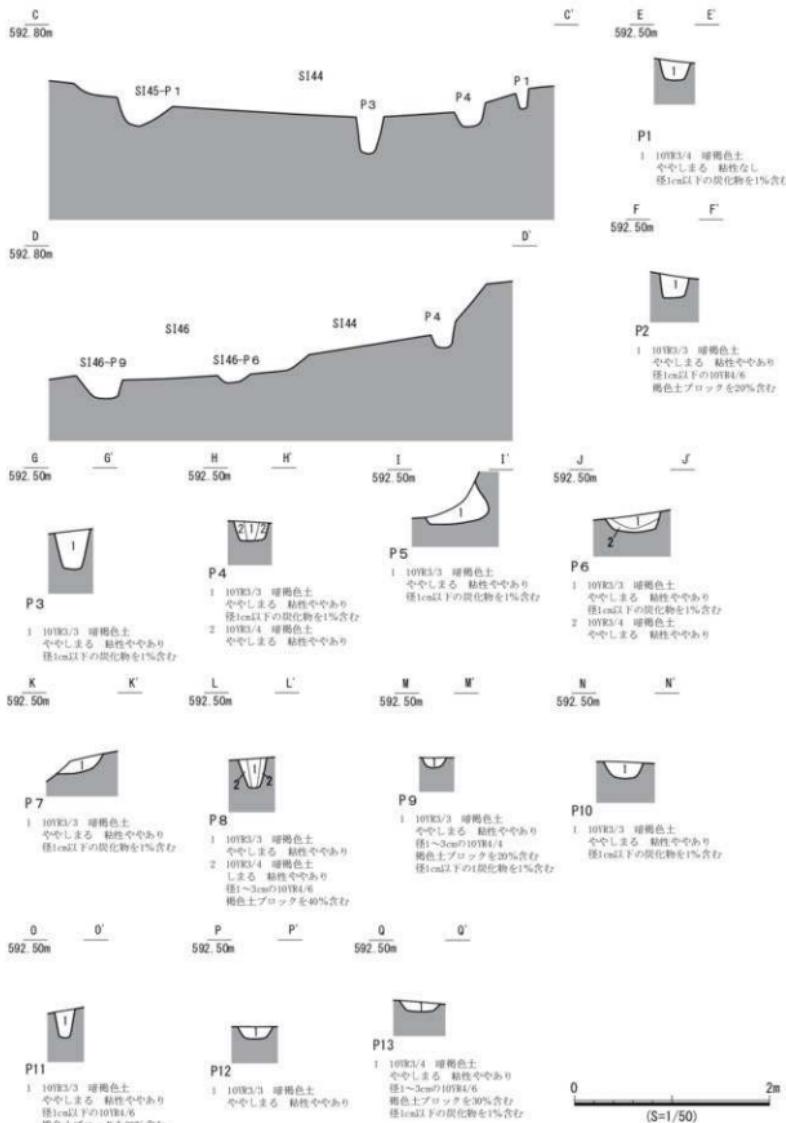


図142 SI44 遺構図（2）

4・5層は埋土中に炭化物、3層は褐色土ブロックを含む。

壁 III層を掘り込み、壁面はやや開く。壁の残存高は最大で0.48mである。

床面 ほぼ平滑であるが、南方向に傾斜する。貼床は確認できなかつた。床面で検出した遺構は土坑13基である。検出した土坑の内、床面上で環状に配置されるP3・P11・P12・P13が主柱穴の可能性がある。P12では柱当たりを確認した。なお、P4・P8で柱痕跡を確認したが、上構造との関係は不明である。

貯蔵穴 確認できなかつた。

炉 残存する部分では確認できなかつた。

床下 貼床が確認できなかつたため、床下の調査は実施していない。

遺物出土状況 壁穴建物の埋土a・b・c・d・e・g・h・5層から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、中期のものが混入するが、付属遺構出土のものを含めて前期後葉がほとんどである。

出土遺物 378はZ2群14類である。平底で接地部が外側に張り出す。379・380はZ2群15類である。379は内湾浅鉢で口縁部の外面に半截竹管状工具による平行沈線で木葉文を施す。また、木葉文内に2ヶ所穿孔する。380は378よりも胴部が外反するため浅鉢とした。平底で接地部が外側に張り出す。張り出した底部に間隔を空けて押圧する。381は凹基無茎石錐で基部の抉りが丸い。382は磨石・敲石類で表面と両側面に磨痕・敲打痕、下部に敲打痕を残す。383は打欠石錐で長梢円錐を利用し、裏面を中心に縁辺から剥離調整を施す。紐掛かり部は両面から打ち欠き、作とする。

時期 遺構の重複関係は、中期前葉以降のSI46より古い。また、付属遺構出土土器に中期前葉以降を含まないことから前期後葉に属する可能性が高い。

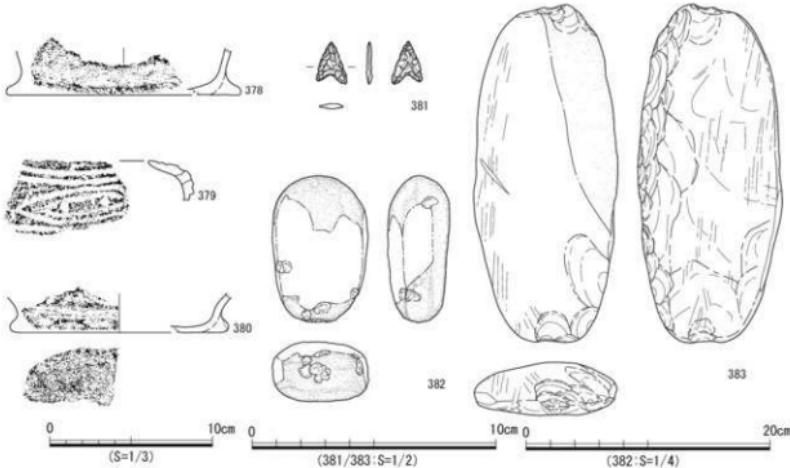


図143 SI44 出土遺物

S145 (図 144~図 146)

検出状況 AJ4 グリッド、III層上面で検出した。堅穴建物の東部は SI44・SI46・SK685・SK687 と重複関係があり、これらよりも古い。平面形は残存する北辺と西辺は円形に近いが、南辺は直線的な不定な形状である。南辺はわずかに段が残る程度であるため、掘方が削平され本来の形状が残存していない可能性が高い。

埋土 暗褐色土と褐色土が3層堆積し、埋土中に炭化物を含む。3層は壁際から中央にかけて、1・2層は中央部に堆積する。

壁 三層を掘り込み、壁面はやや開く。壁の残存高は最大で 0.38m である。

S145床面

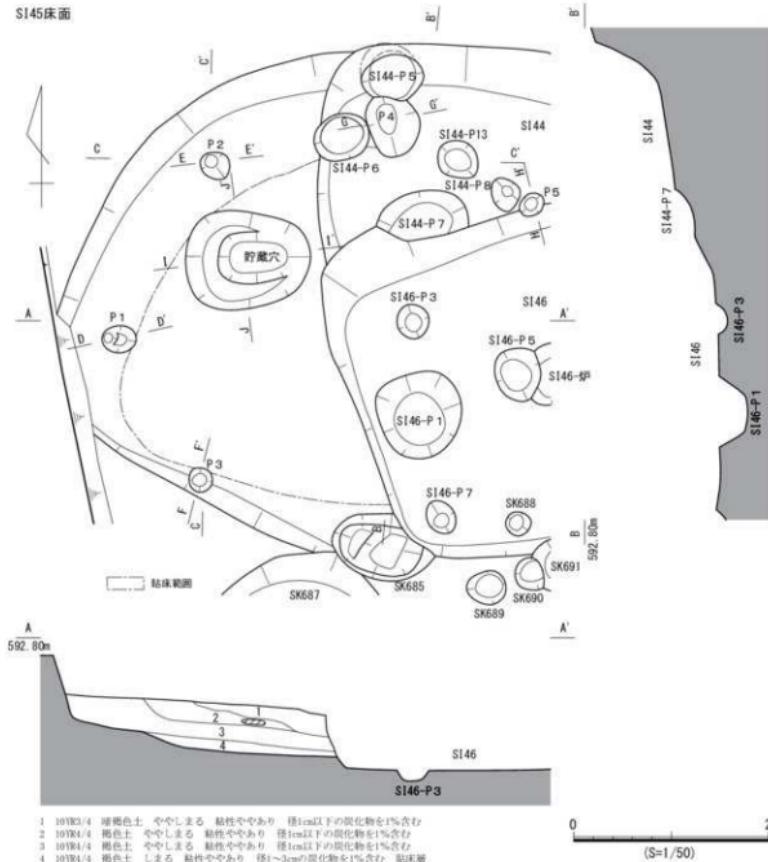


図 144 SI45 遺構図 (1)

床面 ほぼ平滑で、南方向に傾斜する。検出した掘方の中央部付近に貼床（4層）が残存する。床面で検出した遺構は土坑3基、貯蔵穴1基である。掘方底面に等間隔で配置されるP1・P2・P3が主柱穴の可能性があり、同じ間隔で環状に並ぶSI44床面上のP4・P5がこれらに対応すると考えられる。

貯蔵穴 掘方中央やや西寄りでやや規模の大きい土坑を検出し、これを貯蔵穴とした。遺構西部の底面にテラス状の段が認められる。

炉 確認できなかった。

床下 貼床除去後、土坑8基（P6～13）を確認した。柱穴状の掘方をもつものも認められるが性格は不明である。

遺物出土状況 厚穴建物の埋土1層・床面から縄文土器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 384はZ2群7a類で半截竹管状工具による集合沈線を施す。385はZ2群15類で1ヶ所穿孔する。

時期 前期後葉のSI44よりも古いことから前期後葉以前であり、出土土器から前期後葉の可能性が高いと考えられると考えられる。

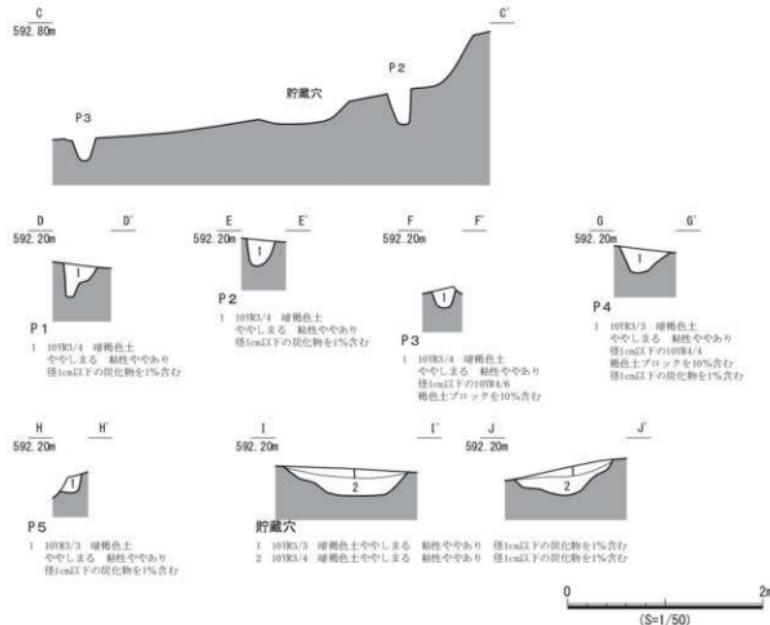


図145 SI45 遺構図（2）

SI45掘方底面

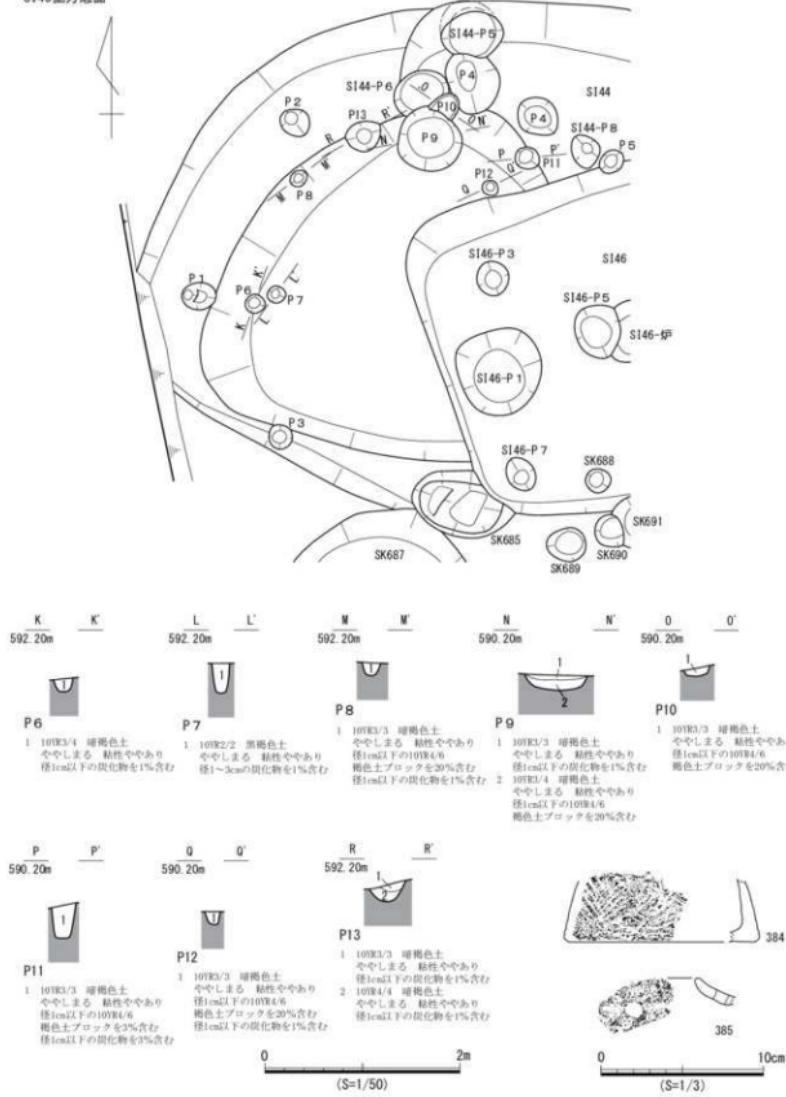


図 146 SI45 遺構図（3）・出土遺物

SI47（図147～図150）

検出状況 AJ6・AK6グリッド、III層上面で検出した。竪穴建物の北部はST28と重複関係があり、これより新しい。平面の南辺はやや丸みをもつが、北辺・東辺・西辺は直線的である。また、南辺より北辺の方が長いため、平面形は台形のような形状をとる。

埋土 黒褐色土と暗褐色土が2層堆積し、埋土中に褐色土ブロックや炭化物を含む。2層は段になる竪穴建物掘方の中央部、1層は掘方全体に堆積する。堆積状況から見る限り、1層堆積部分と2層堆積部分では別遺構の可能性がある。

壁 III層を掘り込む。壁の残存高は最大で0.34mである。

床面 1層堆積範囲は窪み状で北西から南東方向に強く傾斜する。一方、2層堆積範囲は北から南に向かって傾斜するが、東西方向はほぼ水平である。2層堆積範囲のほぼ中央に貼床（3層）がある。

床面で検出した遺構は炉1基、土坑7基である。P1からP6で柱の当たりを確認したが、これを主柱穴とした掘方全体を覆う上屋構造を考えることは困難である。壁際溝は確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。P7は床面で検出した他の遺構よりも大きいことから貯蔵穴の可能性もあるが、P4と重複するため貯蔵穴と判断しなかった。

炉 2層堆積範囲の床面南東部で検出した。貼床を敷設後に浅く掘り込んで構築した地床炉である。平面形は東西に長い不定な形状である。埋土中に焼土や炭化物を含む。掘り込み底面の南寄りに熱による赤変が認められる。遺物は出土しなかった。

床下 貼床を除去したが、遺構は確認できなかった。

遺物出土状況 床面直上のP2掘方上面で、外面を上に向けた状態で浅鉢（391）が出土した。底部から胴部下半にかけての破片で完存しない。また、391の西側で石皿（397）が出土した。約半分が欠損しており、使用面は下を向くことから、使用状態は保っていないと判断される。この他、埋土a・b・c・d・1・3層から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は前期後半から中期後葉のものがあるが、大半は前期後葉のものである。

出土遺物 386～388はZ2群3d類である。386・387は外傾する口縁部の外面に口縁と平行する2条の細い突帯を貼り付ける。地文は羽状縄文であるが、口唇部にも施す。388は外傾する胴部の外面に平行する2条の細い突帯を貼り付ける。突帯の両側をナデ引くため、突帯の断面は三角に近い形状になる。地文は羽状縄文である。389はZ2群6c類で外面に半截竹管状施文具による平行沈線で多段横位区画と弧線文を施す。390はZ2群12c類である。口縁部は強く内湾し、4単位波状になる。口唇部から胴部外面にかけて縄文を施す。391はZ2群15類で丸底の複段口縁浅鉢である。外面は無紋である。392はC群1a2類で口縁部外面に小突起と棒状貼付文、半截竹管状施文具による平行沈線で直線文と波状文を施す。また胴部に半截竹管状施文具による縦位の平行沈線と横位区画を施す。393はC群1a3類で口縁部外面に隆帯による区画を施し、区画内と胴部に半截竹管状施文具による縦位の平行沈線を施す。394は凹基無茎石皿である。基部の抉りは丸く、脚部端は平らである。395は石錐で素材となる剥片の側辺全周に剥離調整を施す。基部と錐部の境は不明瞭である。396は磨石・敲石類で上部・下部に敲打痕、側面に磨痕・敲打痕を残す。397是有縁の石皿で表面に磨面を残す。

時期 遺構の重複関係は、前期後葉以降のST28よりも古い。重複関係及び床面直上から出土した土器から前期後葉の遺構と判断した。

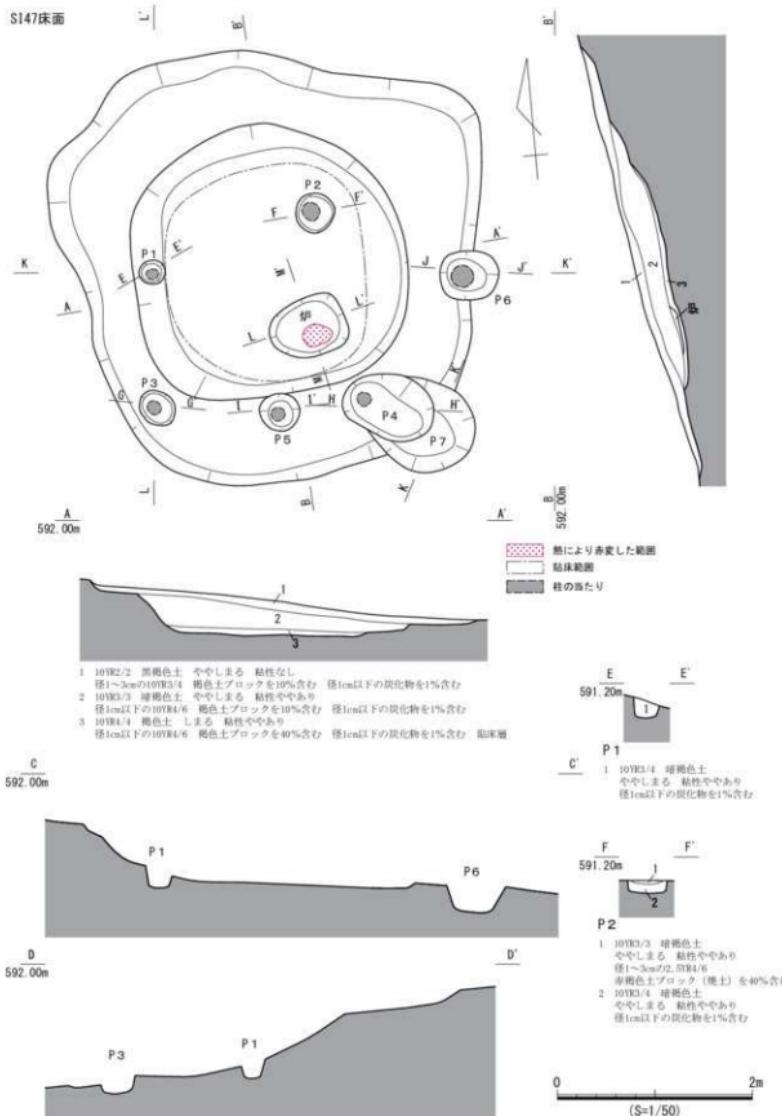


図 147 SI47 遺構図（1）

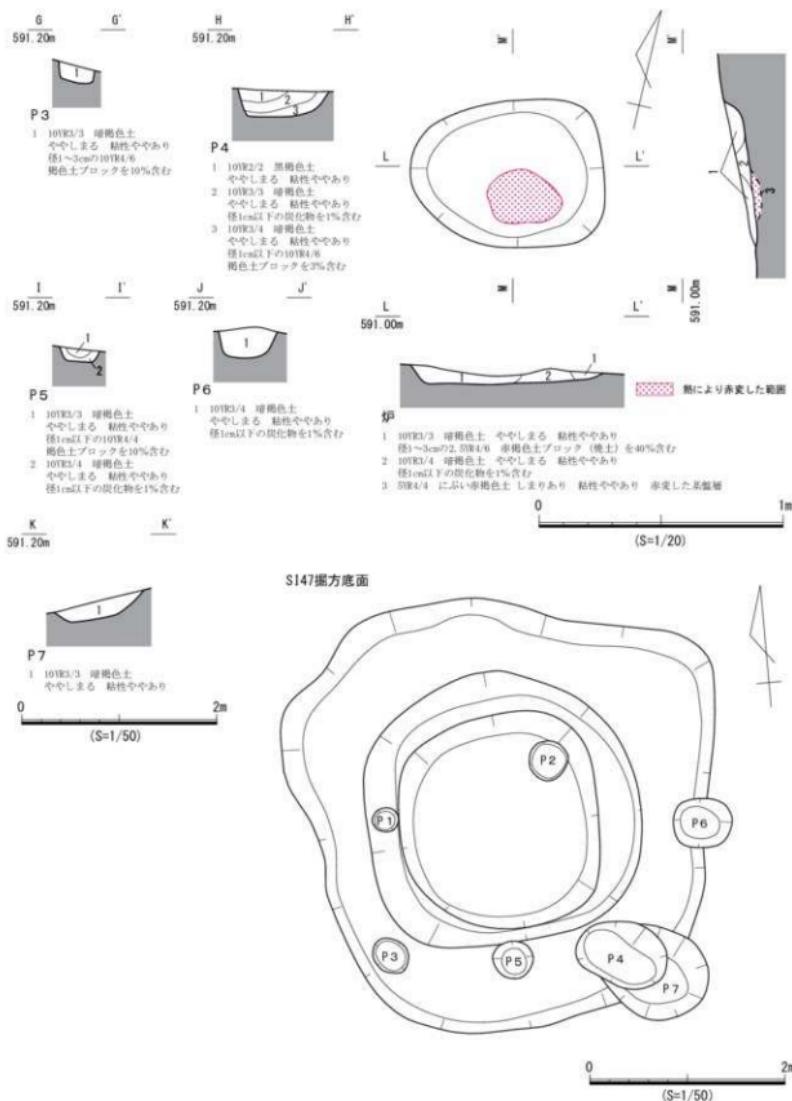


図 148 S147 遺構図（2）

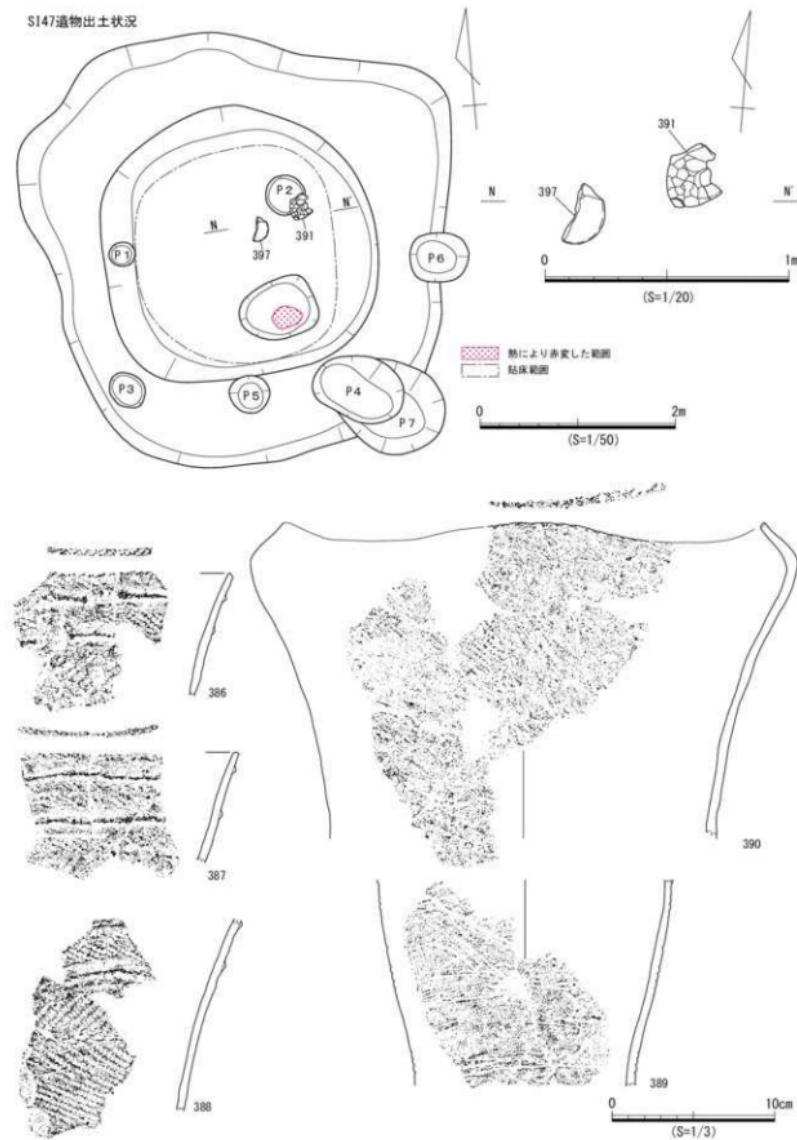


図 149 SI47 遺構図 (3)・出土遺物 (1)

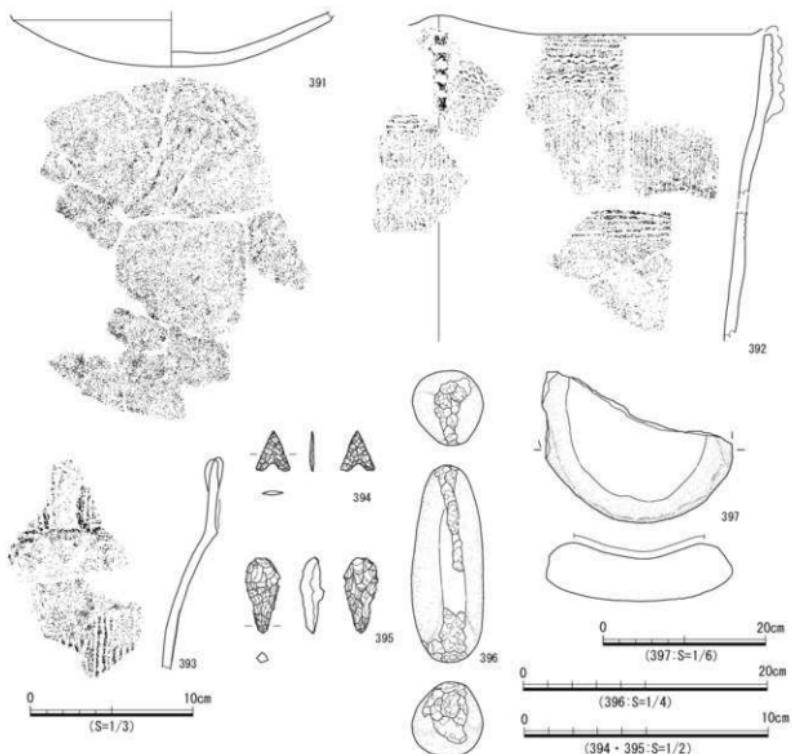


図 150 SI47 出土遺物 (2)

SI49 (図 151~図 155)

検出状況 AI7 ~ AJ8 グリッド、III層上面で検出した。南部は SI50、西部は SK684 と重複し、いずれよりも古い。残存した掘方の平面形は全体的に丸味を帯びるが、北西部には角があるため、六角形に近い形状の可能性がある。

埋土 暗褐色土 3 層が堆積する。北壁際の 3 層はテラス部分のみに認められることから、1・2 層堆積範囲とは異なる掘り込みである可能性がある。1~3 層は埋土中に褐色土ブロック、1 層は炭化物を含む。

壁 III層を掘り込み、壁面はやや開く。前述のテラス部分は北辺のみ認められる。壁の残存高は最大で 0.56m である。

床面 ほぼ平滑で、南西方向に傾斜する。硬化面が、テラスより下の床面に認められる。床面で検出した遺構は炉 2 基、土坑 32 基、貯蔵穴 1 基である。先述のように 2 軒の竪穴建物の可能性が高く、主柱穴も 2 つの配置が考えられる。一つ目は P2・P5・P6・P7 (P17) (柱配置 A) で、1 層・

2層堆積範囲の掘り込みに対応する。2つ目はP11・P13・P22(P4)・P25・P31(柱配置B)で、テラス部分の外周に沿って等間隔に並ぶ。堅穴建物の埋土の状況と床面遺構を含む配置から考えると、柱配置Bの堅穴建物を埋めて、やや南東寄りに柱配置Aの堅穴建物が構築されたと考えられる。壁際溝は確認できなかった。

貯蔵穴 床面で検出した遺構のうち、最も規模の大きい土坑を貯蔵穴とした。平面形は橢円に近い形状をとる。柱配置BのP31と重複することから、柱配置Aに伴うと考えられる。暗褐色土が2層堆積

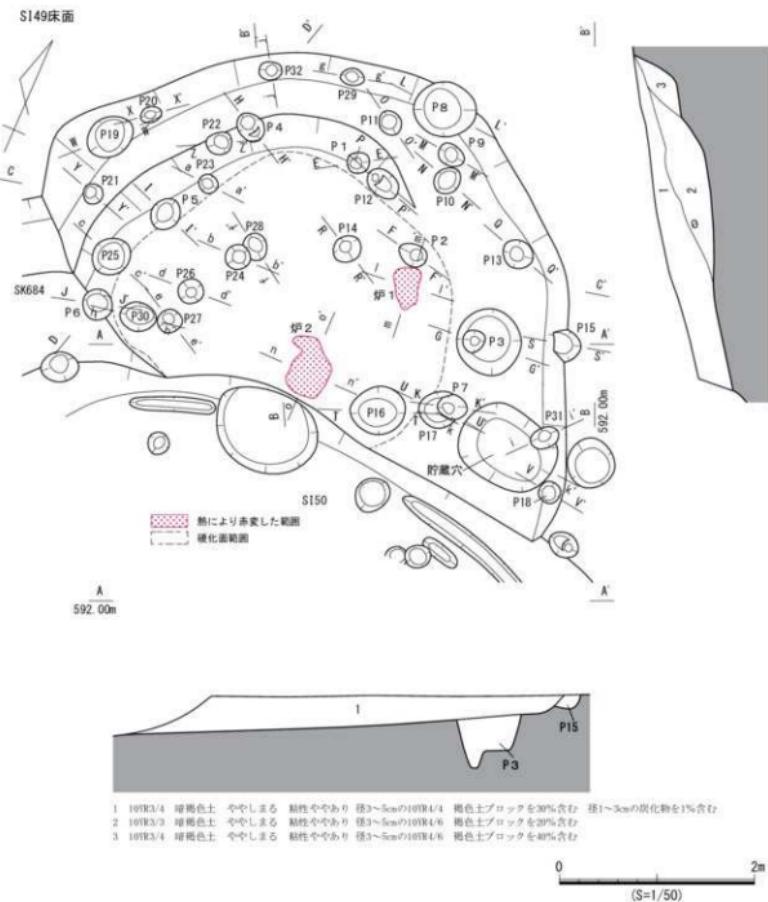


図 151 SI49 遺構図 (1)

し、2層にはぶい赤褐色土（焼土）を含む。

炉 床面に熱による赤変が認められ、この範囲を炉1・炉2とした。いずれも掘り込みは認められない。炉2が位置的に柱配置Aに伴うと考えられる。一方炉1は柱配置Bに伴う可能性もあるが、やや

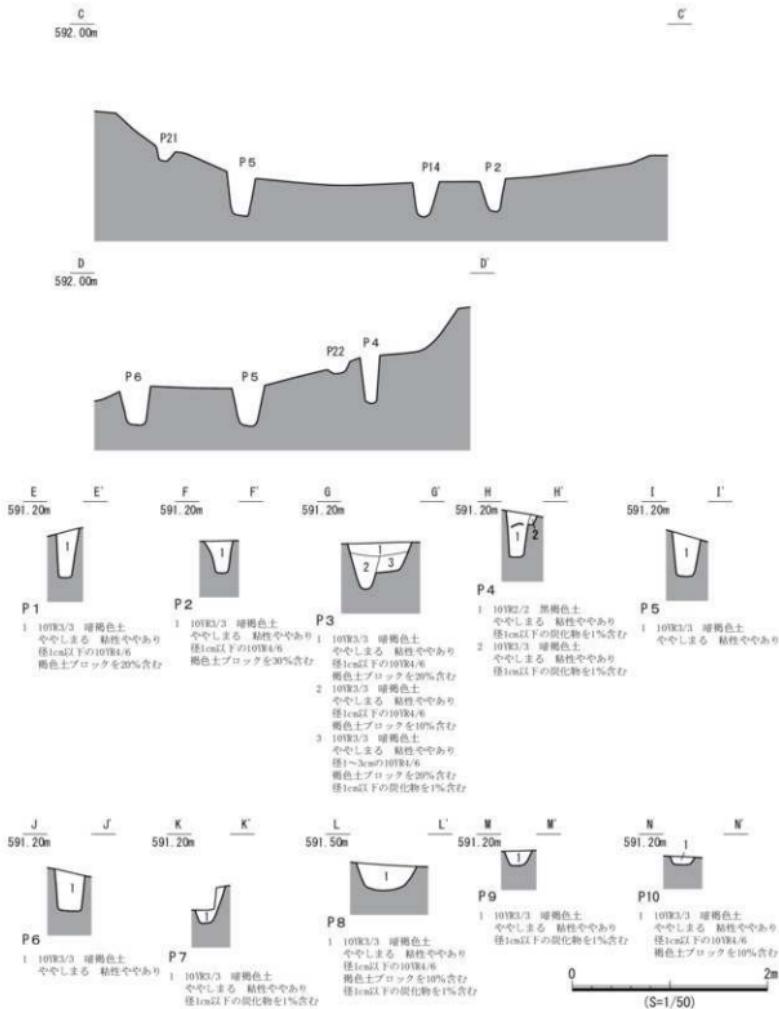


図152 SI49 遺構図(2)

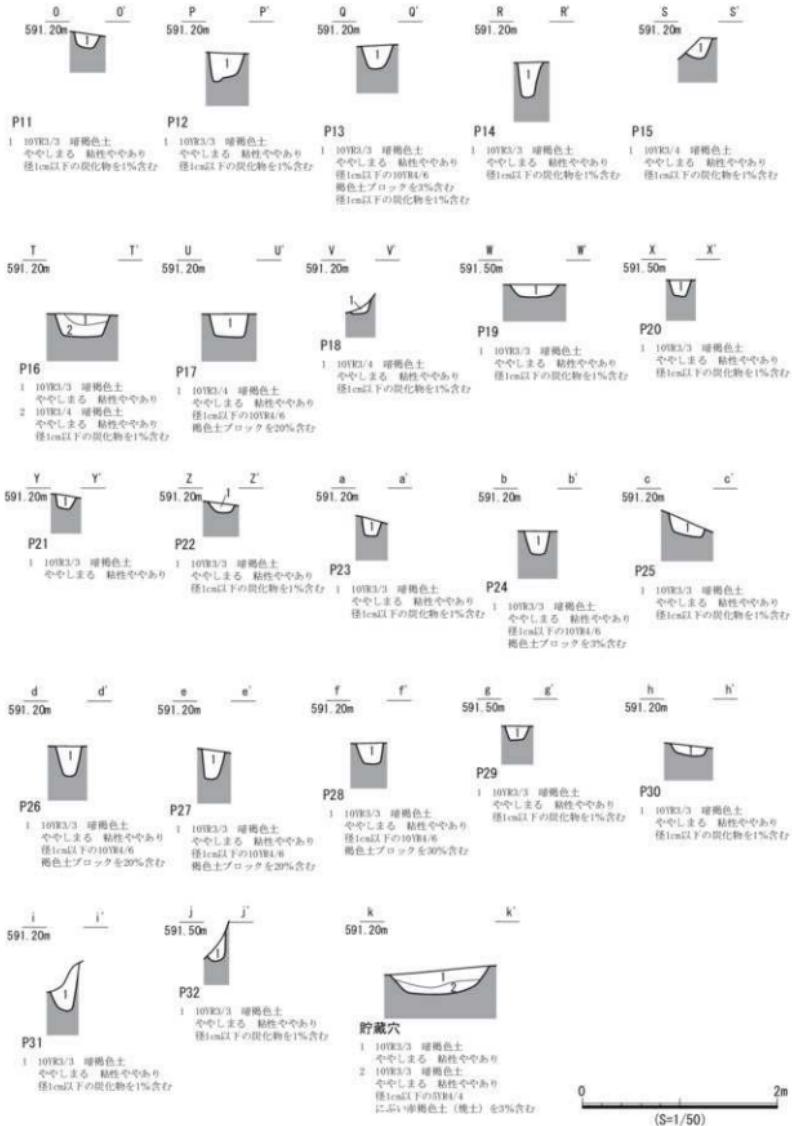


図 153 S149 遺構図（3）

外寄りであることや、柱配置Bの炉は柱配置Aの堅穴建物が構築された時点で削平されるはずであることから、特定することはできない。

床下 貼床がないため、床下の調査は実施していない。

遺物出土状況 堅穴建物の埋土c・d・f・2層から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、中期中葉のものも認められるが、床面検出遺構出土の土器はすべて前期後葉のものである。なお、P3から398が出土した。

出土遺物 398はZ2群3a1類で外傾する口縁部の外面に口縁と平行する6条の突帯を貼り付け、突帯上を縦に刻む。口唇部に短い縦の突起を貼り付ける。399・400はZ2群3a2類である。399は内湾する口縁部の外面に口縁と平行する3条の細い突帯を貼り付け、突帯上及び口唇部を斜めに刻む。400は内湾する口縁部の外面に口縁と平行する2条の突帯を貼り付け、突帯上を縦に刻む。口唇部に円環状の突起を貼り付ける。401はZ2群3d類で外傾する口縁部の外面に口縁と平行する3条の細い突帯を貼り付ける。402はZ2群12c類で口唇部から胴部外面にかけて羽状縄文を施す。口唇部には小突起が付く。403・404はZ2群15類である。403は複段内湾浅鉢で頸部が短く屈曲する。屈曲部外面に口縁と平行する沈線を施し、沈線内に多孔円孔が巡る。外面に半截竹管状施工具による連続爪形文で入組木葉文を施す。404は有稜浅鉢で外面に半截竹管状施工具による幅狭の連続爪形文で入組文を施す。405はZ2群16類で外面に口縁と平行する細い突帯を貼り付け、突帯上を斜めに刻む。外面全体と内面の口縁部に赤彩が認められる。406・407は磨石・敲石類である。406は表面・裏面・左側面・下部に敲打痕と磨痕、右側面に磨痕、上部に敲打痕を残す。407は表面に敲打痕、裏面・左側面に敲打痕と磨痕、右側面に磨痕、上部・下部に敲打痕を残す。408は打欠石錐で長楕円窓を利用し、

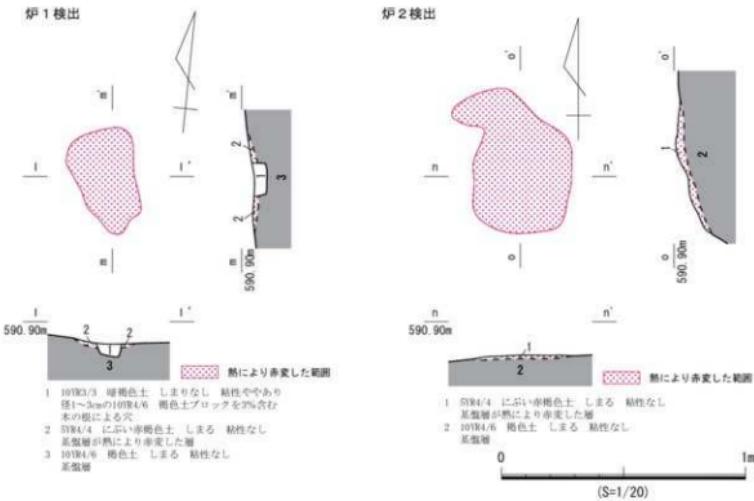


図154 SI49 遺構図(4)

紐掛かり部は両面から打ち欠き、作出する。

時期 遺構の重複関係は、中期のSI50、前期末葉のSK684よりも古い。遺構の重複と出土土器から前期後葉以降前期末葉以前と考えられ、前期後葉の可能性が高い。

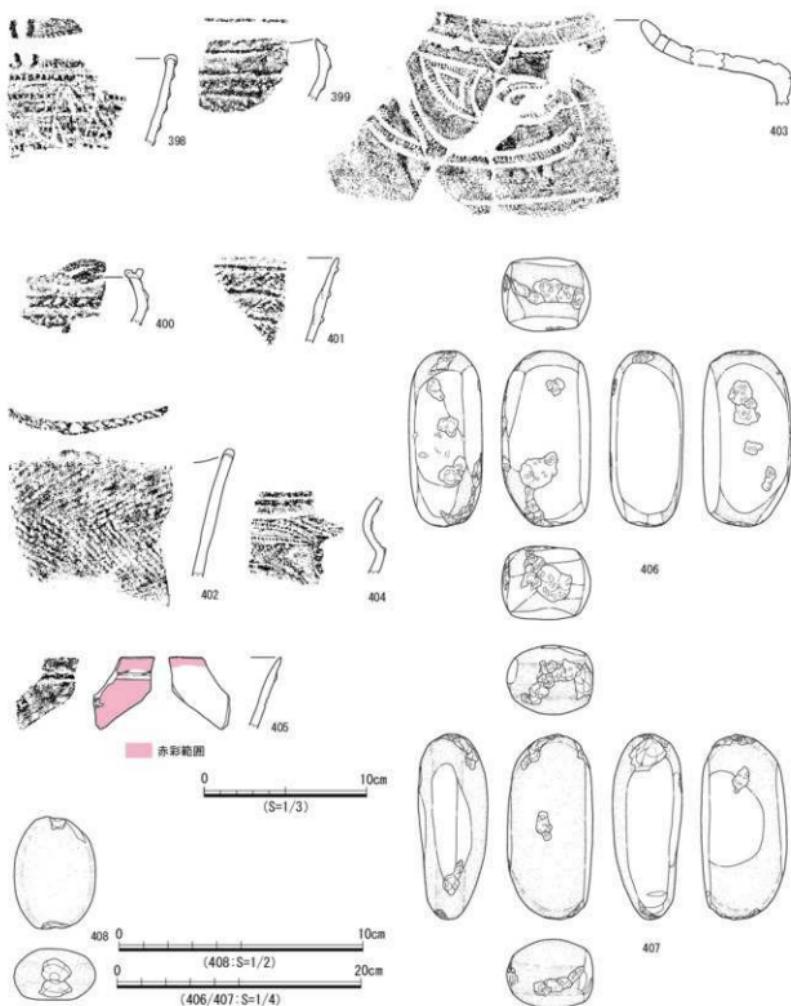


図 155 SI49 出土遺物

SI53(図156~図159)

検出状況 A19~AJ10 グリッド、III層上面で検出した。SK713・SK714・SP278 と重複関係があり、それらよりも古い。平面形は各辺が直線的で、東辺が長く西辺が短いことから、台形のような形状をとる。

埋土 暗褐色土が4層堆積する。3層は北壁と西壁の際のみに認められ、1・2層はその結果生じた中央部の窪地に堆積する。4層はにぶい赤褐色土を含む焼土で、炉に関する堆積と思われる。2層は褐色土ブロック、1・3層は炭化物を含む。

壁 III層を掘り込み、北側の壁面は開く。壁の残存高は最大で0.33mである。

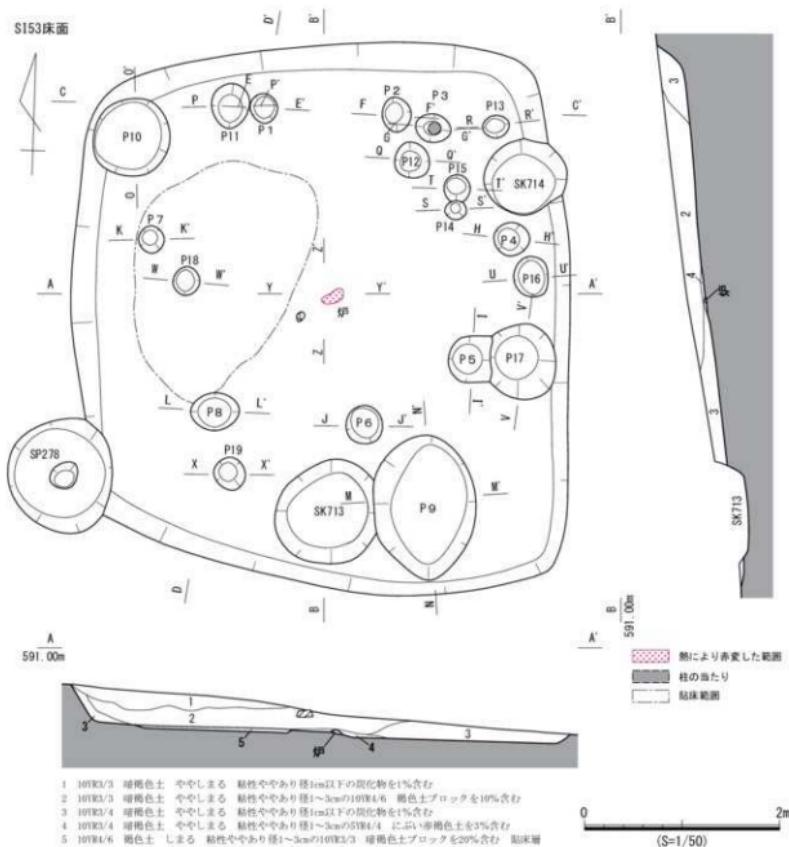


図156 SI53 遺構図(1)

床面 ほぼ平滑で、南東方向に傾斜する。掘方床面中央からやや西寄り約2m×1.5mの範囲で、貼床（5層）を確認した。床面で検出した構造は炉1基、土坑19基である。このうち、P7・P8・P18が貼床上面から掘削される。主柱穴はP1・P2（P3）・P4・P5・P6・P7・P8を想定できるが、P11やP12などもこの配置に含めることができることから、柱の建て替えがあったと考えられる。なお、P3・P4・P5・P16で柱痕跡、P3で柱の当たりを確認した。壁際溝は確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

炉 床面に熱による赤変がわずかに認められ、この範囲を炉とした。掘り込みは認められない。先述

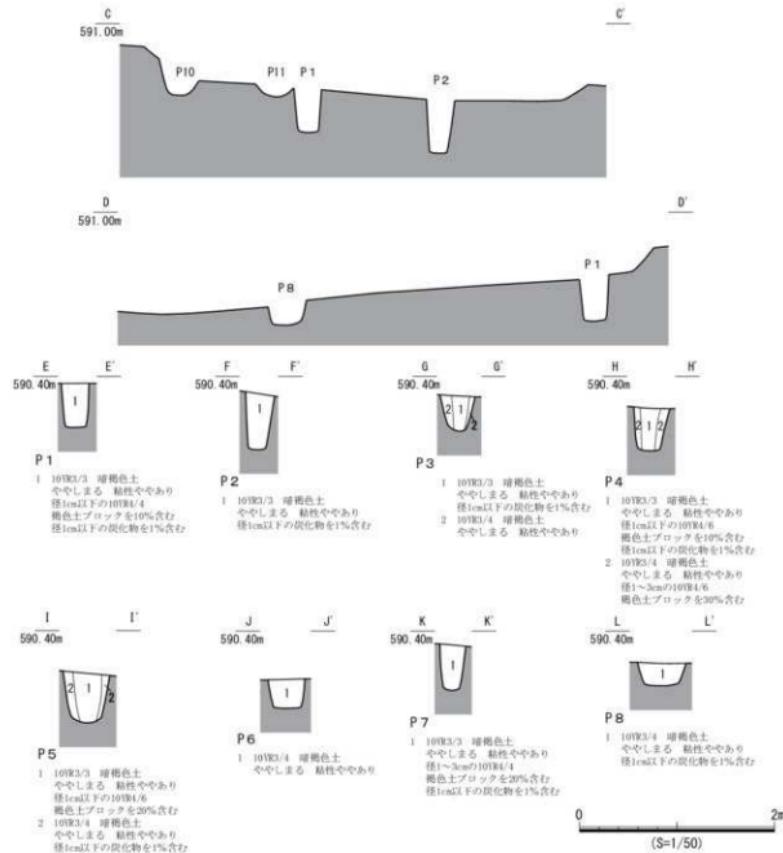


図157 SI53 遺構図(2)

したように、土層断面で確認した4層が炉に伴う焼土と考えられる。

床下 貼床を除去したが、遺構は確認できなかった。

遺物出土状況 壁穴建物の埋土b・1・2層・床面から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。

時期が特定できる土器は、前期後葉と中期中葉のものがあるが、大半は前期後葉である。床面で検出した遺構から出土した時期の特定できる土器はすべて前期後葉で、P17から409・411が出土した。

出土遺物 409はZ2群5b類で外面に半截竹管状施文具による円管状刺突を施す。410～412はZ2群15類である。410は複段内湾浅鉢で頸部が短くわずかに屈曲する。屈曲部外面に口縁と平行する幅

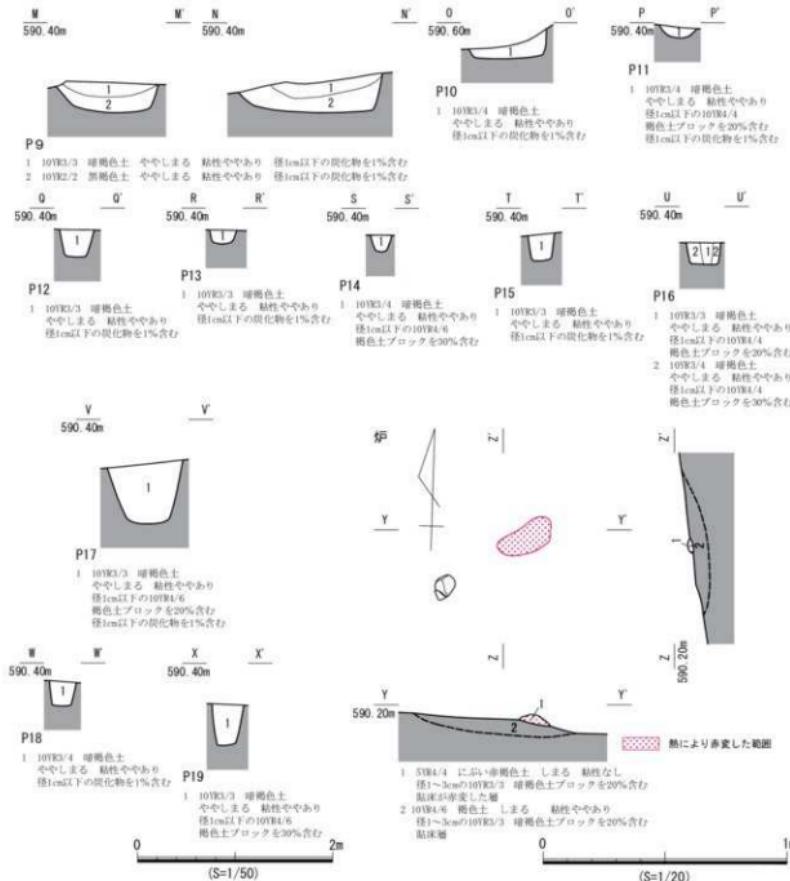


図 158 SI53 遺構図 (3)

狹の連続爪形文を2条施し、その上を円孔する。また、胴部外面に半截竹管状施文具による2条の連續爪形文で弧状の文様を施す。411は内湾浅鉢で外面の口縁部下に口縁と平行する多孔円孔が巡る。

412は有稜浅鉢で胴部上半の外面を半截竹管状施文具による細い平行沈線による横線文と縱の沈線で区画し、その内側に曲線の文様を施す。また、横線文上には斜めの短い刻みを入れる。胴部下半の外面は入組木葉文を施す。413は石匙で横長な剥片を素材とし、縁辺下部に外湾する刃部を作り出す。

時期 遺構の重複関係は、前期後葉以降のSK713・SK714・SP278よりも古い。また、床面遺構の出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

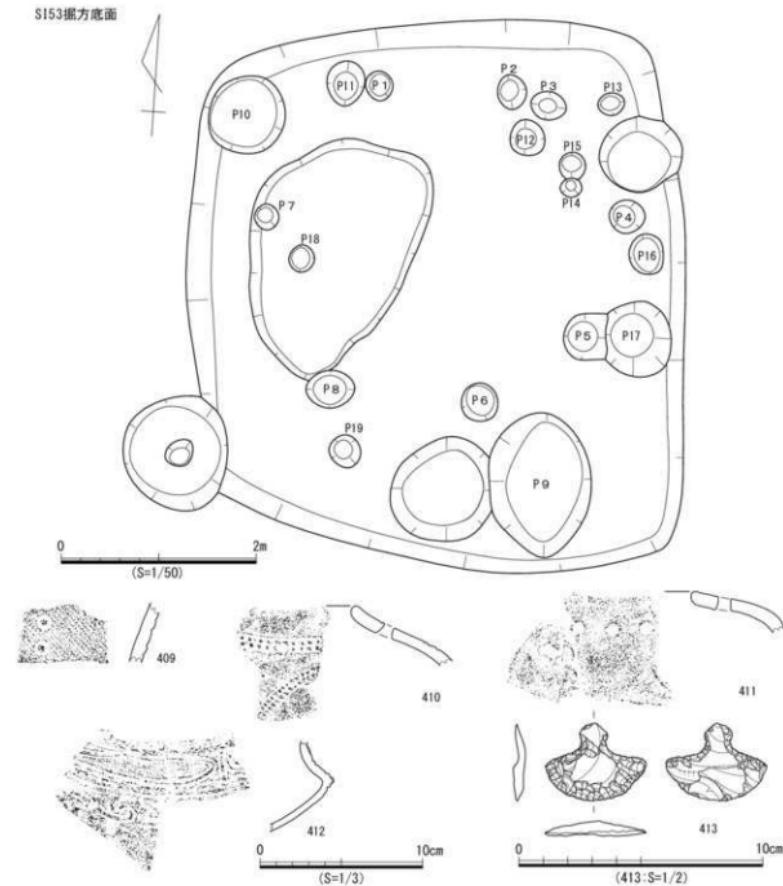


図 159 SI53 遺構図(4)・出土遺物

SI54（図160～図167）

検出状況 AK9・10 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。南側へ向かって傾斜する台地の縁に立地する。斜面側に造成されていたと思われる整地土は確認できなかった。残存した掘方を見る限り、平面形は円形と思われる。

埋土 暗褐色土と黒褐色土が5層堆積する。5層は主に壁際に堆積するが、B-B'断面南側の床面上に認められる「5層」は、壁際の5層と堆積原因は異なると思われる。また、5層の堆積後に掘方全体に1～3層が堆積するが、1層は斜面上方からの流出土であり、斜面下方まで認められる。1・3層には褐色土ブロック、2層には亜角礫や炭化物、4・5層には炭化物を含む。

壁 Ⅲ層を掘り込み、北側の壁面はやや開く。壁の残存高は最大で0.87mである。

床面 ほぼ平滑で、南方向に傾斜する。掘方床面中央部で貼床を確認した。床面で検出した遺構は炉3基、土坑37基、貯藏穴2基である。掘方の規模・形状が類似し、炉1の北側を中心環状に配置されるP1～P6が主柱穴の候補としてあげられる。また、一定の間隔で床面上に配置される土坑を抽出すると、P1・P2・P21・P25・P29・P30・（貯藏穴1）・（P7）（柱配置A）、P1・P15・P20・P3・P26・P5・P10・P6（柱配置B）、P8・P16・P37・P24・P4・P28・P33・P35・（P7）（柱配置C）の3種類が考えられる。P1は明らかに3基以上の遺構であり、柱穴の重複と考えられる。また、P7は埋土に別の掘り込みが認められるため、土坑状の遺構といずれかの柱配置の柱穴が重複していると思われる。各配置で直接重複する柱穴がないため柱配置の先後関係は不明であるが、各柱配置は西から東へずれており、3基の炉もそれに対応している可能性がある。また貯藏穴とした2基とP7は類似する規模で、P7が柱穴と重複した古い貯藏穴とすれば、これも3基が設置されていることになる。この他にも、ここで挙げなかつた柱穴状の土坑は複数あり、建て替えがあったことが示唆される他、掘方の北部の下端に沿って穿たれた連続する小土坑についても建物の構造と関連する可能性がある。なお、床面で検出した土坑のうち最も規模の大きいP34は、どの柱配置においても柱穴が重複する。貼床や掘方の下端を切ることからも、上面からの掘り込まれた遺構を見逃した可能性が高い。

貯藏穴 上記のとおり、貯藏穴1・2の他、P7も貯藏穴の可能性がある。平面形は円形や梢円形でいずれも類似する。

炉 掘方床面中央付近に3箇所の熱による赤変が認められ、この範囲を炉1・炉2・炉3とした。掘り込みは認められない。炉1は露出した基盤に含まれる礫も被熱している。炉3はP31と重複し、これより古い。

床下 貼床下では、遺構は確認できなかった。

遺物出土状況 壁穴建物の埋土a・b・c・e・j・l・m・n・1・2・3層・床面から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。床面直上で块状耳飾（438）、縄文土器（426）が出土した。時期が特定できる土器は、中期のもの3点を除き、前期後葉である。この他に貯藏穴2から縄文土器（414・415）が出土した。

出土遺物 414・415はZ2群b類である。414・415は口縁部から頸部にかけてやや丸みをもつが、頸部から胴部にかけて窄まる形状である。口縁部の外面に半截竹管状施文具による幅狭の連続爪形文による横線文を2条施す。また、414は横線文の内側に半截竹管状施文具による幅狭の連続爪形文によ

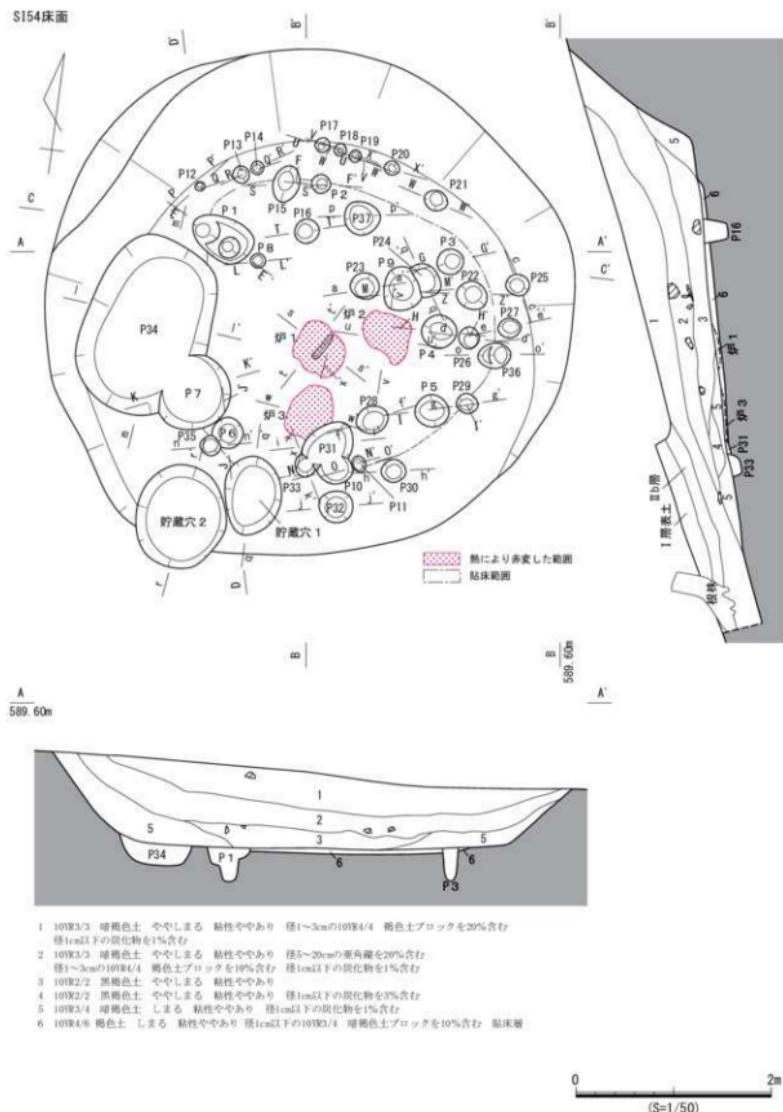


図 160 SI54 遺構図 (1)

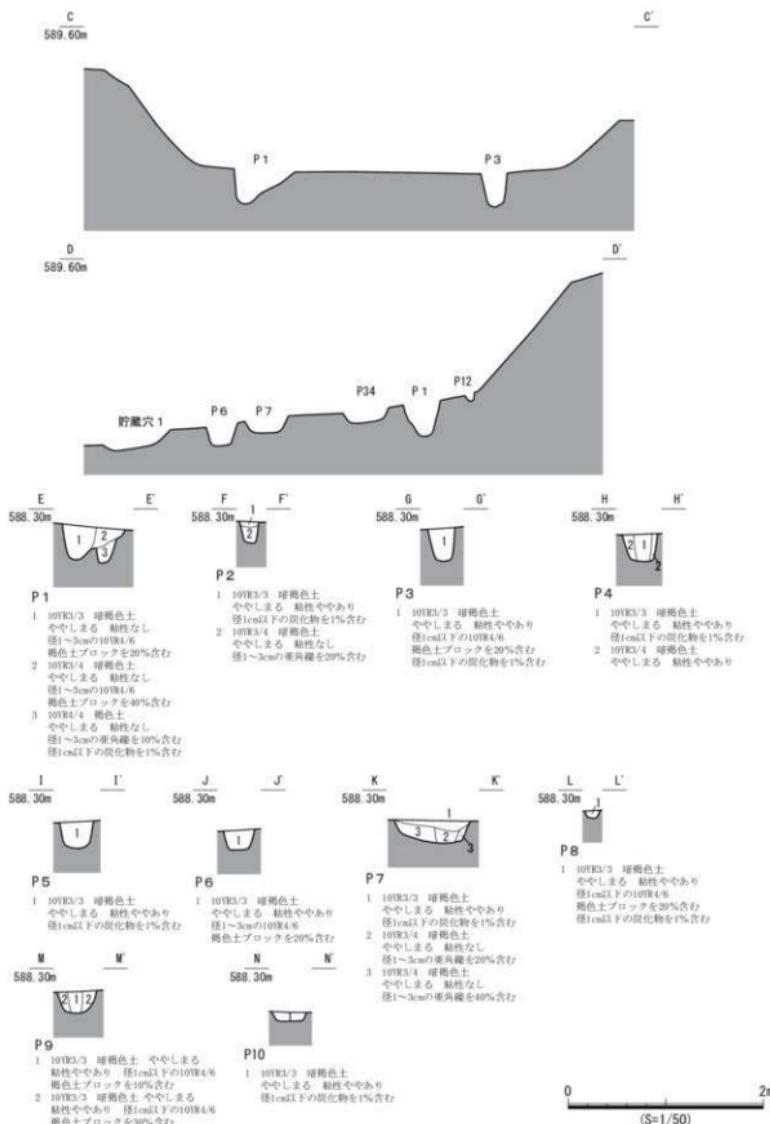


図 161 SI54 遺構図 (2)

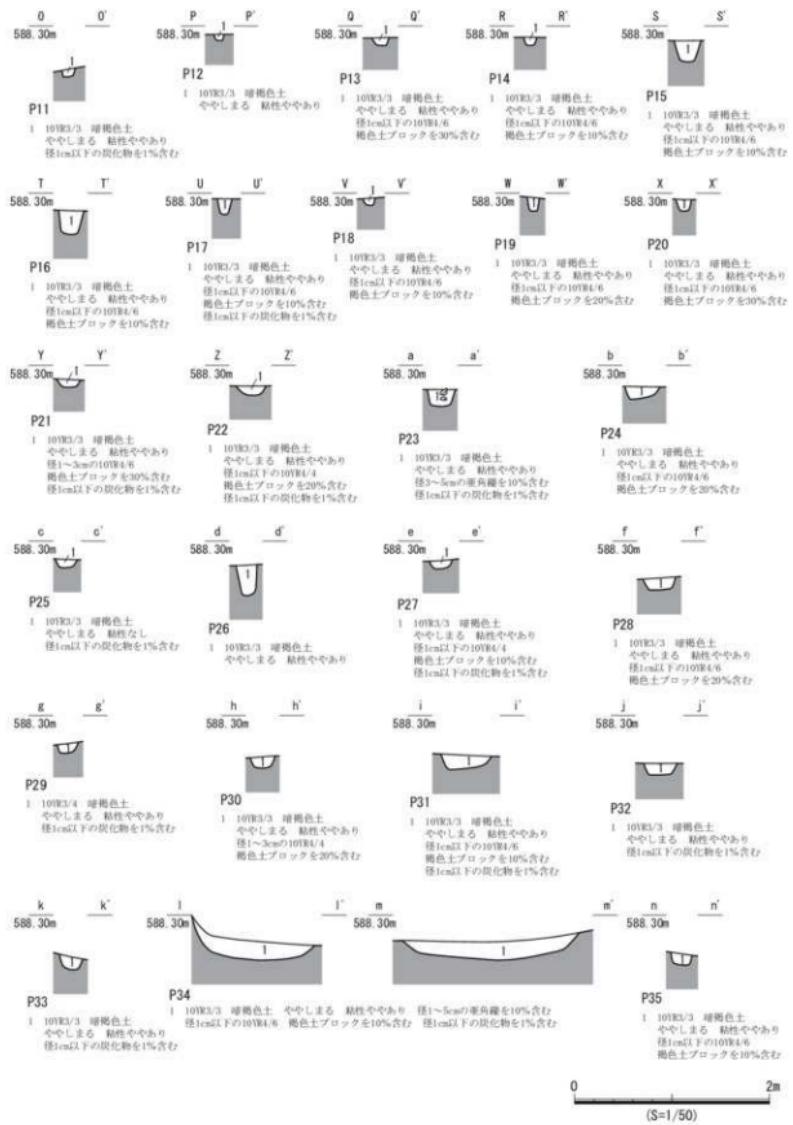


図 162 SI54 離構図 (3)

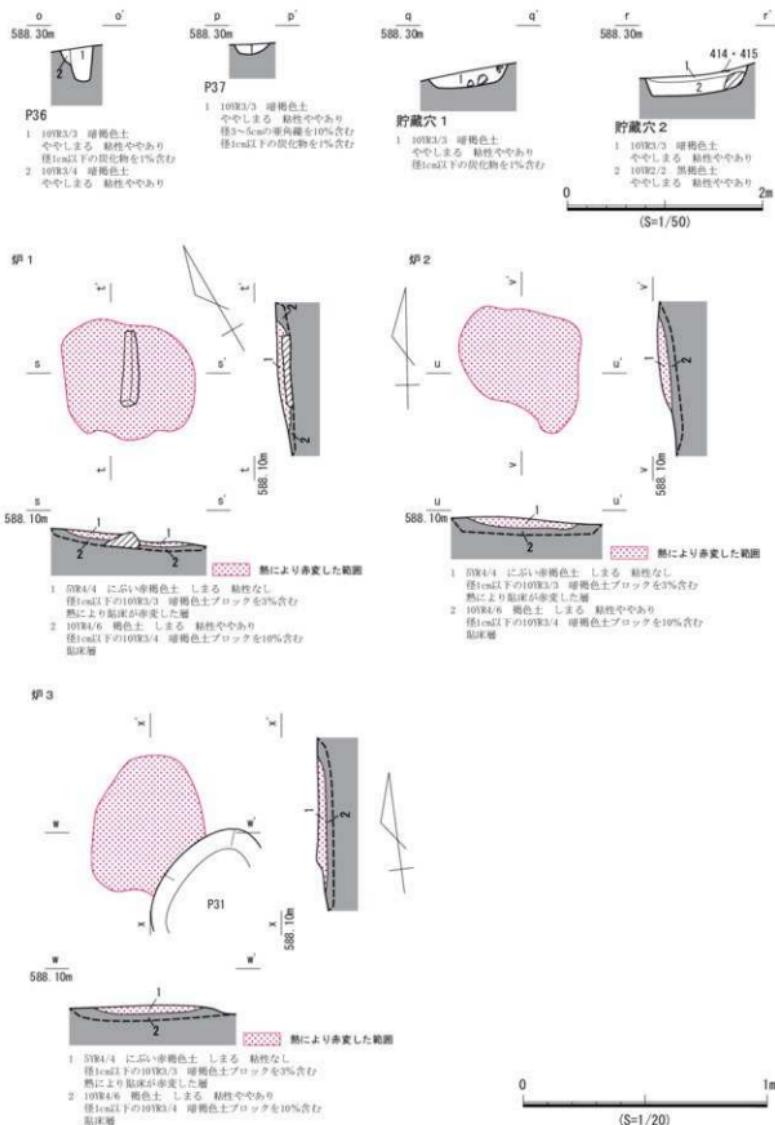


図163 SI54 遺構図(4)

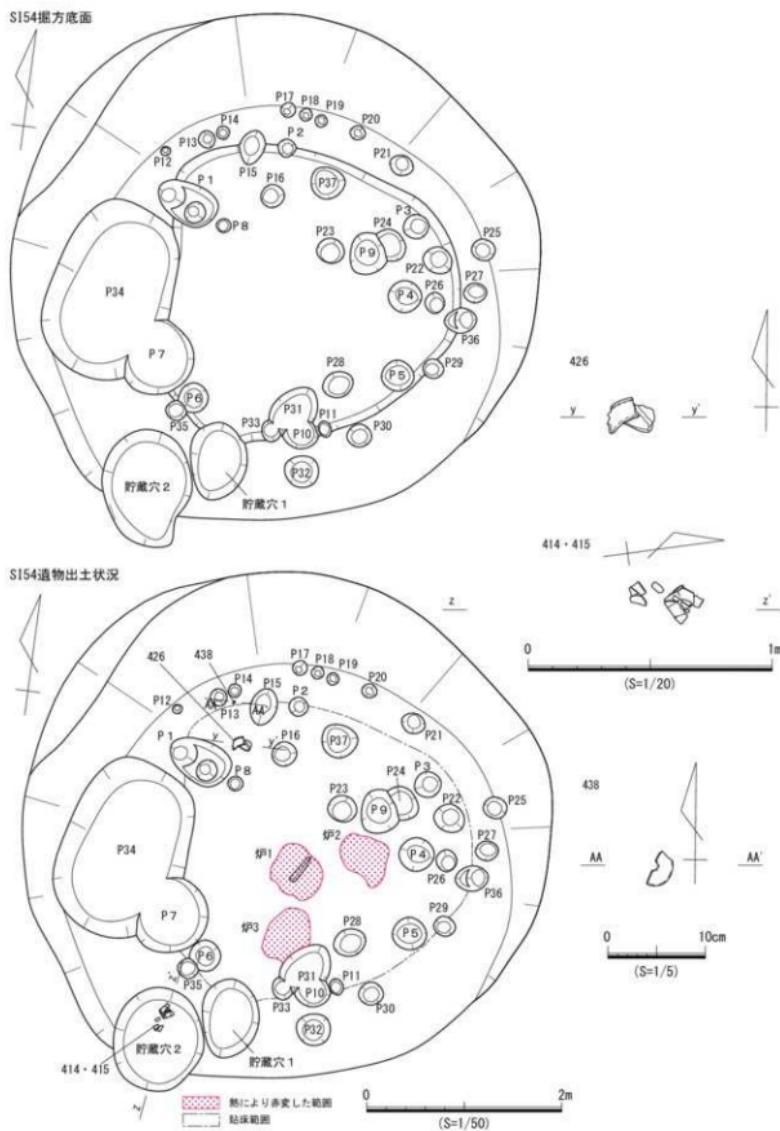


図 164 SI54 遺構図 (5)

る木葉状と弧状の文様、415 は縦方向に 2 条の直線文と木葉状の文様、頸部から胴部にかけて縄文を施す。接合関係はないが、口径や器厚や文様が同じことから同一個体と考えられる。416～419 は Z 2 群 3 a 2 類である。416 は直立する口縁部外面に口縁と平行する細い突帯を 6 条貼り付け、突带上を斜めに刻む。突帶と突帯の間を突帶により梯子状に結ぶ。口唇部は肥厚し、小突起が付く。417 は直立する口縁部外面に口縁と平行する突帯を 3 条貼り付け、突带上を鋸歯状に刻む。肥厚した口唇部上面に刻みを入れる。418 は内湾する口縁部外面に口縁と平行する突帯を 2 条貼り付け、突带上を鋸歯状に刻む。口唇部は内面に突帶を貼り付け肥厚させる。肥厚した口唇部上面に蛇行する突帯を貼り付ける。419 は直立する口縁部外面に口縁と平行する突帯を 2 条貼り付け、突带上を斜めに刻む。口縁に近い突帯は棒状になり、口唇部に接する。420 は Z 2 群 6 a 類で、直立した口縁部外面に半截竹管状施文具による幅広の連続爪形文を 3 条施す。連続爪形文の間の隆起線に斜めの刻みを入れる。421 は Z 2 群 6 c 類で、内湾する口縁部外面に半截竹管状施文具による横位集合沈線を施す。422・423 は Z 2 群 12 c 類で、頸部から胴部にかけての外面に羽状縄文を施す。423 は頸部から口縁部にかけて外傾する器形で、口唇部に半截竹管状施文具による刺突を施す。424～427 は Z 2 群 15 類である。424 は内湾浅鉢である。底部は丸みをもち、底部の接地部が外側に張り出す。口縁部外面に半截竹管状施文具による斜めの刻み、頸部から胴部にかけて半截竹管状施文具による平行沈線で渦巻状と入組状の

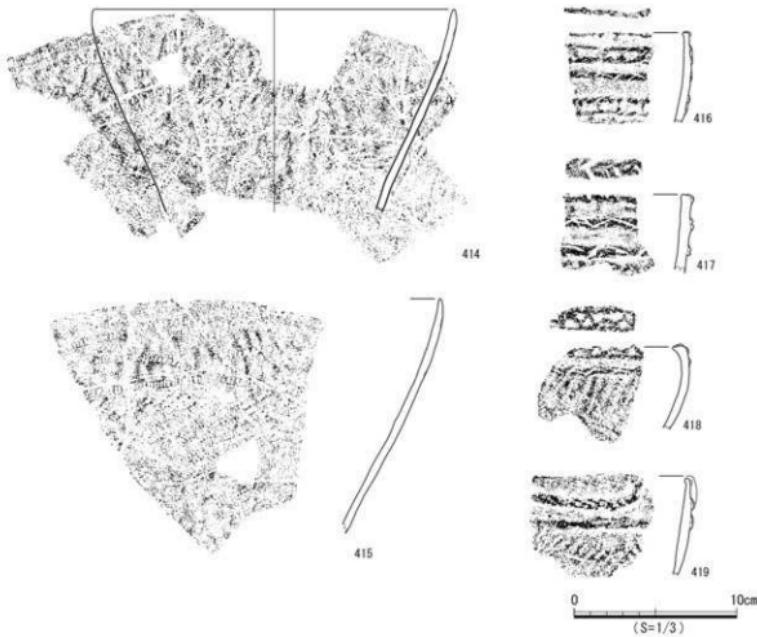


図 165 SI54 出土遺物（1）

文様を施す。口唇部は内面に突帯を貼り付け肥厚させる。肥厚した口唇部上面に小突起を付ける。425は有稜浅鉢で内屈した口縁部の外面に細い隆帯による横線文と波状文を施す。口縁部の外面全体に赤彩が認められる。426も有稜浅鉢で、口縁部の外面に半截竹管状施文具による平行沈線で入組木葉文を施す。427も有稜浅鉢で、外面に細い突帯が巡る。底部は上底で、底部の接地部が外側に張り出す。428はZ2群16類の鉢で、口縁部の外面に半截竹管状施文具による平行沈線で直線・曲線的な文様を施す。頸部の外面全体に赤彩が認められる。429は石錐で縦長剥片を素材とし、剥片の側辺全体に剥離調整を施す。基部と錐部の境は不明瞭である。430・431は石匙である。縦長剥片を素材とし、左部と下部にやや外湾する刃部を作り出す。432は石錐で長楕円礫を利用し、紐掛かり部は両面から打ち欠き作成する。433は石核で上部を打面とし、側面を作業面として剥片剥離する。434～436は磨石・

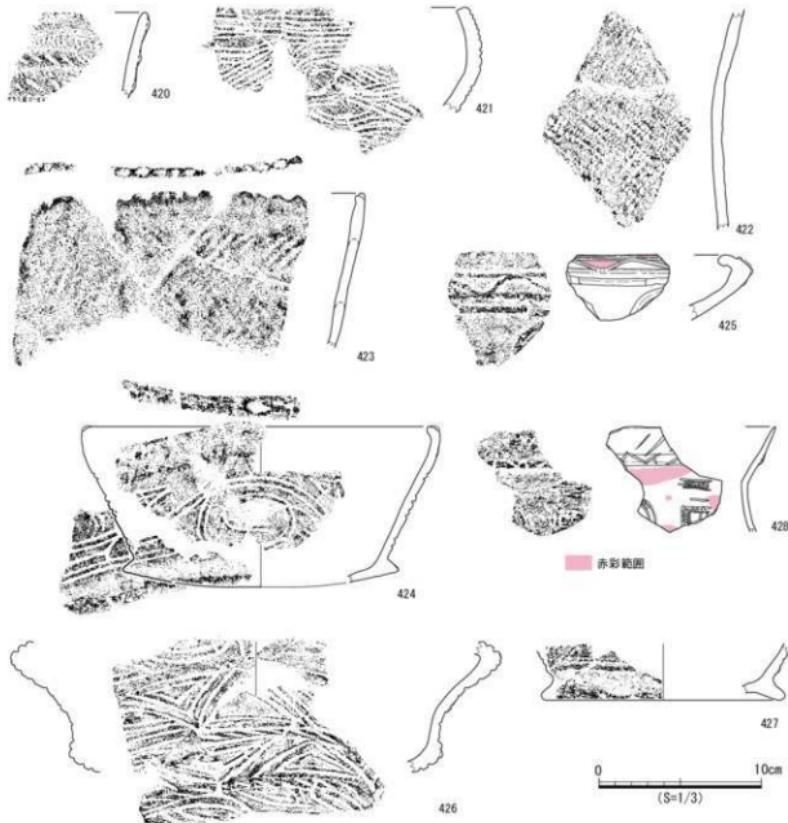


図 166 SI54 出土遺物 (2)

敲石類である。434・435は表面に磨痕、両側面に敲打痕と磨痕、上部・下部に敲打痕を残す。436は表面に左側面からの剥離痕、左側面に剥離痕・敲打痕・磨痕、下部に敲打痕と磨痕を残す。437は砥石で欠損部以外に磨面を残す。438は块状耳飾で半分が欠損する。両側穿孔で欠損部以外の表面に磨痕・線状痕を残す。

時期 床面及び床面遺構の出土土器から前期後葉の遺構と判断した。

SI55(図168~図170)

検出状況 AJ11~AK11、III層上面で検出した。北側はSI48・SK720と重複し、SI48・SK720よりも古い。残存する掘方や貼床の範囲から、方形に近い形状と考えられる。

埋土 暗褐色土が4層堆積する。3・4層で掘方全体が埋没しており、1・2層は南東部のみ認められる。埋土中に2・4層は褐色土ブロック、3・4層は炭化物を含む。

壁 III層を掘り込み、北側の壁面は大きく開く。壁の残存高は最大で0.30mである。

床面 ほぼ平滑で、南東方向に傾斜する。重複するSI48の床面南部で貼床(5層)を確認したが、SI48の掘方の外側まで広がること、貼床北部の範囲が直線的でSI55の掘方に一致することから、本遺構に伴うものとした。なお、時期差のあるSI48とSI55の床面の高さがほぼ同じであることから、SI48の構築の際、固く締まったSI55の貼床が参照されたことも考えられる。また、貼床はSI55床面の北部のみ認められる。床面で検出した遺構は炉2基、土坑15基、壁際溝1条である。床面上で一定の間隔に配置されるP1・P3・P5・P4・P8・P6が主柱穴として挙げられるが、P13・SI48-P9も含めて配置を考えることもできることから、これらも主柱穴に関係する可能性がある。なお、壁際溝はSI48の床面で検出しており、北辺の貼床に沿って掘り込まれる。

貯蔵穴 P14は竪穴建物SI55の遺構の中では大きく深い遺構であるが、主柱穴の可能性があるP8より新しくため貯蔵穴とはしなかった。また、P9も炉2と重複することから貯蔵穴としなかったが、いずれも建て替えが前提とすれば貯蔵穴の可能性はある。

炉 掘方底面中央のやや北寄りの貼床上面で熱による赤変が認められ、この範囲を炉1・炉2とした。炉2は柱配置のほぼ中央に位置するが、炉1はやや北に寄る。掘り込みは伴わない。

床下 贼床を除去したが、遺構は確認できなかった。

遺物出土状況 竪穴建物の埋土b・c・1・2層・床面から縄文土器や石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、中期と前期後葉があるが、大半は前期後葉である。床面で検出した遺構から出土した時期の特定できる土器は、すべて前期後葉である。この他にP9から439が出土した。

出土遺物 439・440はZ2群3c類である。439は外傾する口縁部の外面に口縁と平行する突帯を3条貼り付け、突带上に縄文を施す。440は口唇部の内側が肥厚し、外傾する口縁部外面に口縁と平行する突帯を3条貼り付け、突带上に縄文を施す。441はZ2群3d類で外傾する口縁部外面に口縁と平行する素文の突帯を4条貼り付ける。口唇部は肥厚する。442~444はC群1a3類である。442は外面に隆帯と隆帯に沿って半截竹管状施文具による平行沈線を施す。443は外面に弧状の隆帯と半截竹管状施文具による平行沈線を施す。444は外面に区画隆帯と隆帯に沿って半截竹管状施文具による沈線と押引沈線を施す。

時期 重複関係は、中期中葉のSI48、前期後葉以降のSK720よりも古い。中期中葉より古いくことや床面遺構の出土土器から前期後葉と考えたい。

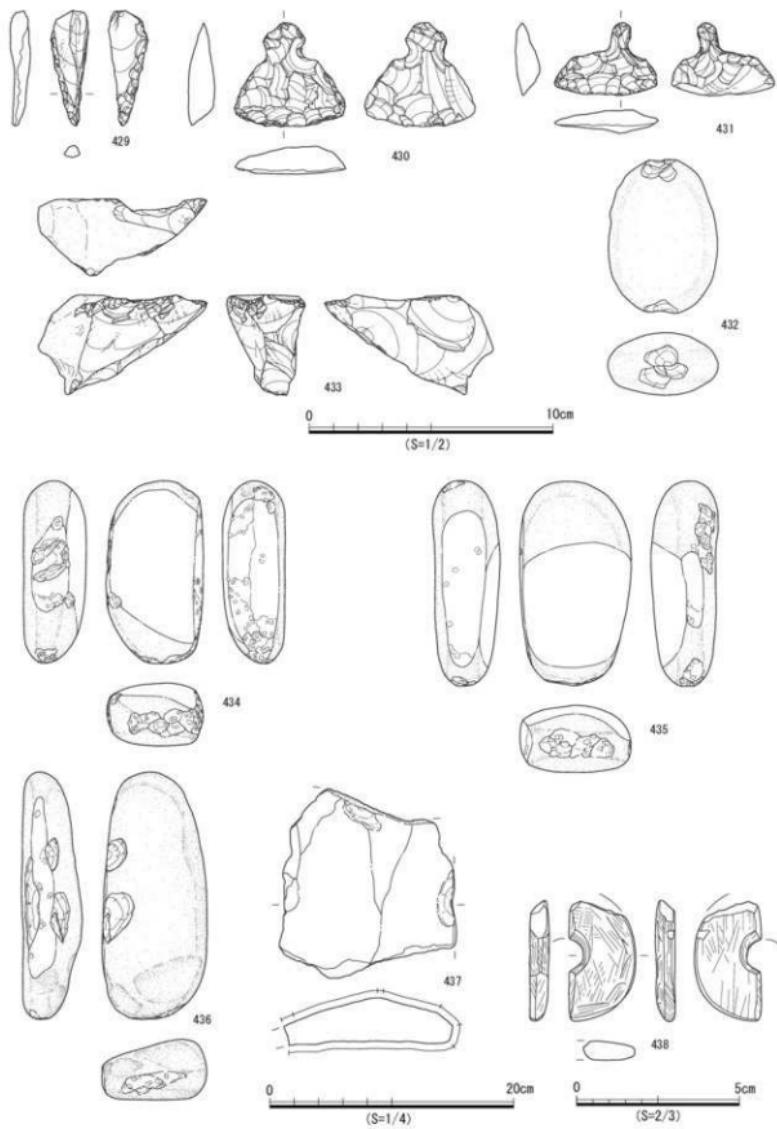


図 167 SI54 出土遺物 (3)

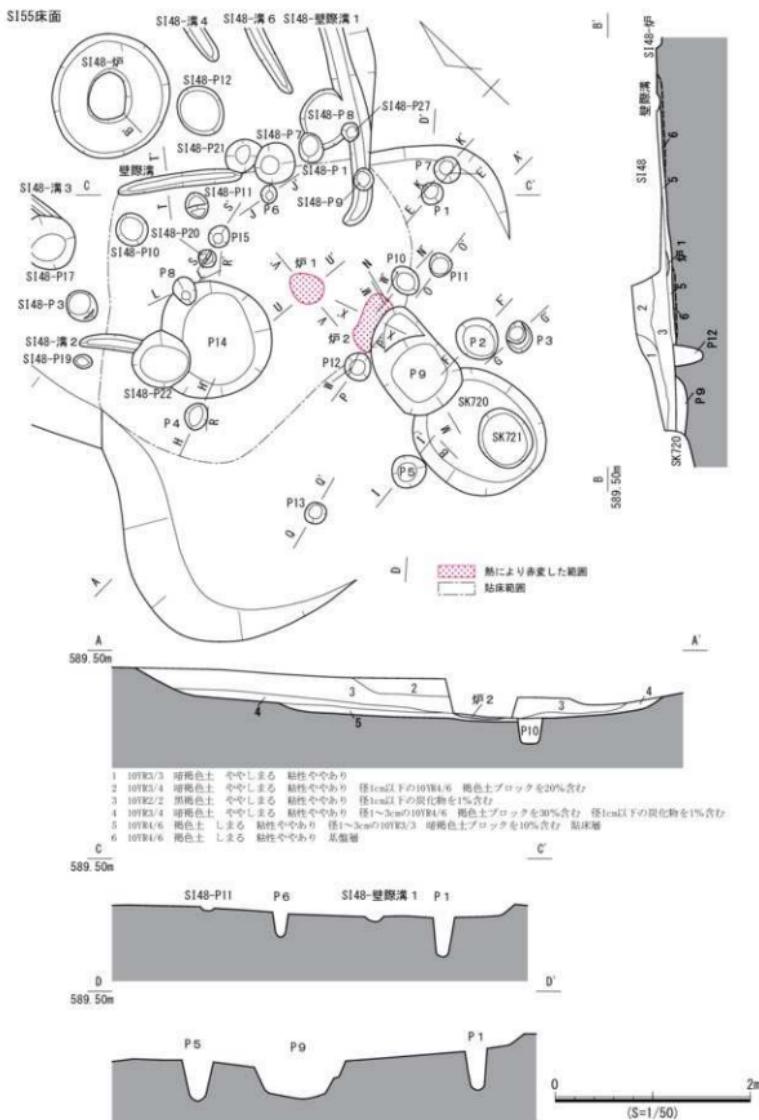


図 168 SI55 遺構図 (1)

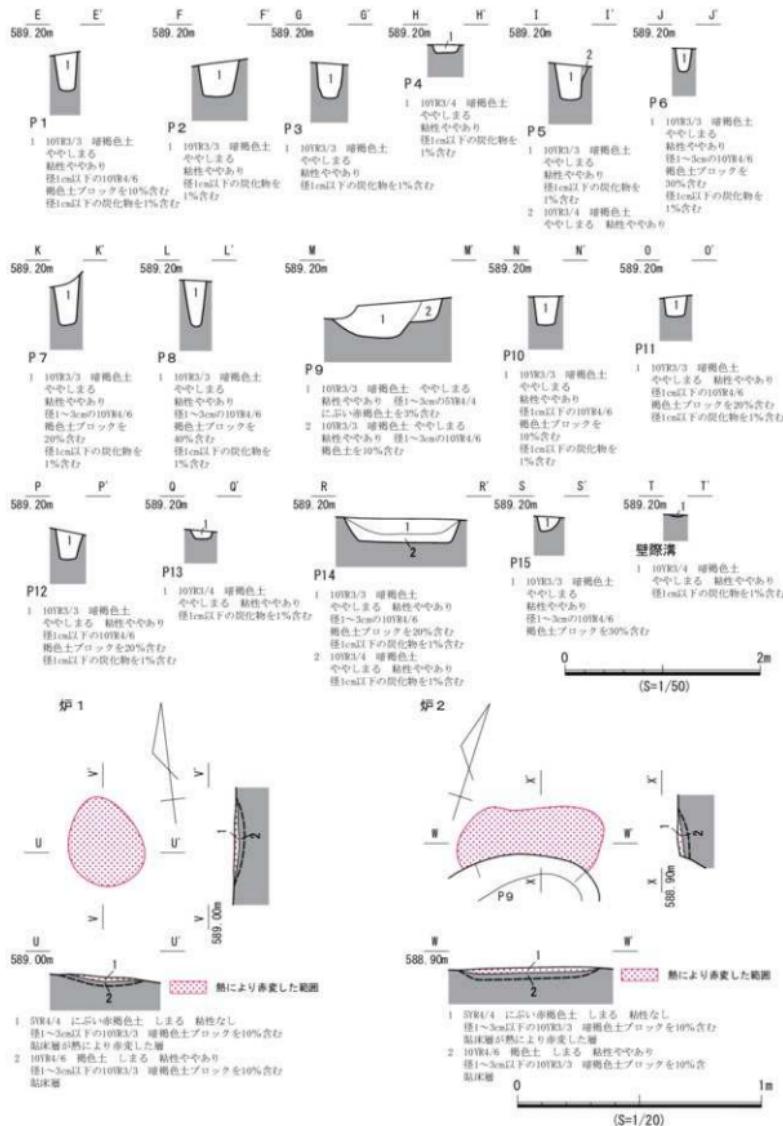


図169 SI55 遺構図(2)

SI55掘方底面

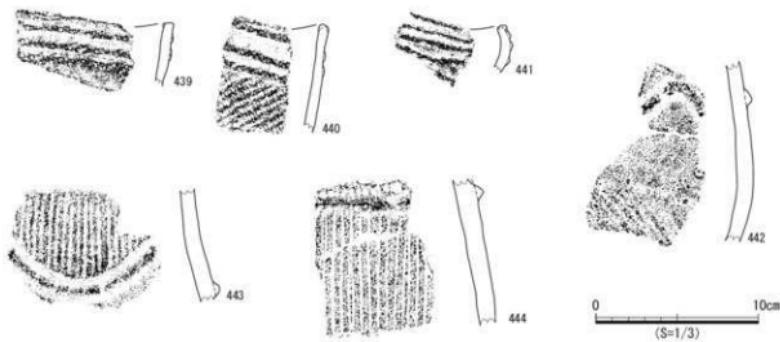
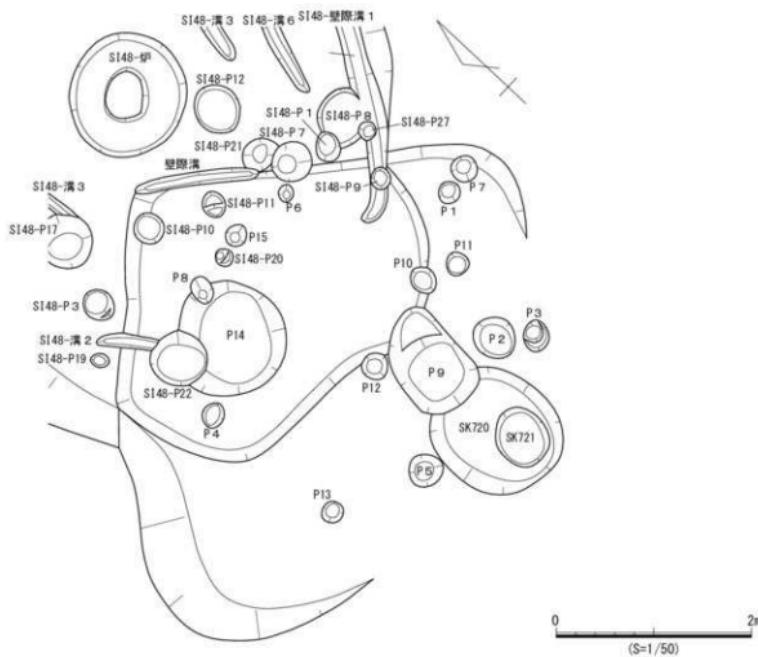


図 170 SI55 遺構図（3）・出土遺物

(2) 土器埋設構造

SJ1 (図171・図172)

検出状況 AE16 グリッド、III層上面で検出した。SK3と重複関係があり、SK3よりも古い。平面形はSK3と重複するため本来の形状は不明であるが、残存状態から楕円形に近い形状と考えられる。

土器埋設状況 墓土は暗褐色土と褐色土が5層堆積する。墓土の上層を誤ってSK3の埋土として掘削したため消失した部分がある。また、1層～3層の堆積する掘方が4層・5層が堆積する掘方を切ることから別遺構の重複の可能性があり、土器は後者に属すると考えられる。埋設土器である351は4層と5層の境で確認したことから、5層が掘方の埋土と考えられる。351は体部の3分の1程度が残存しているが、底部は認められない。土器が埋設される4層中から、長さ10cm～20cmの角礫が4個まとまって出土した。角礫は4層と5層の境で直立した状態、4層と5層上面で平坦な面を上に向けた状態で出土した。

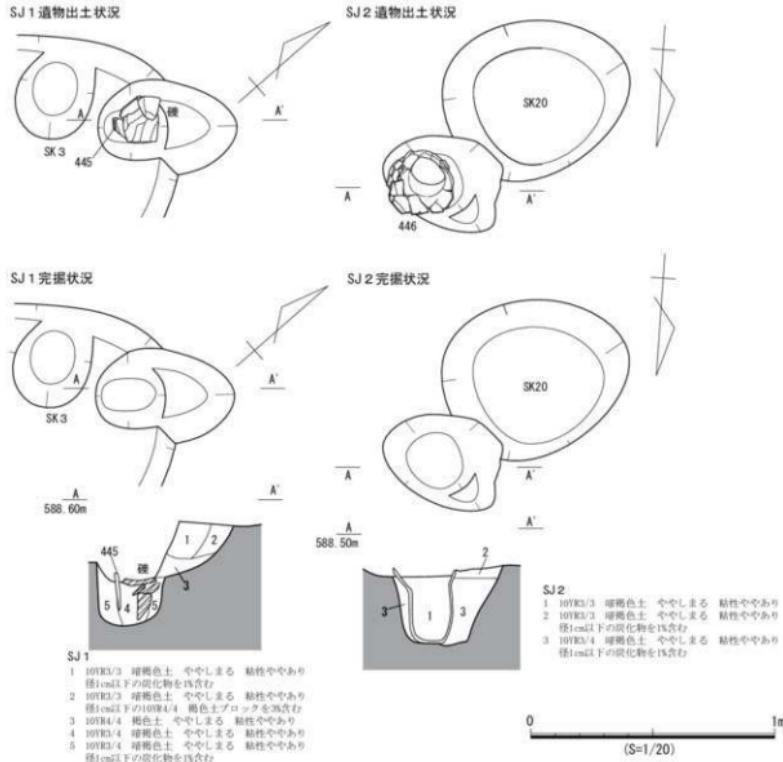


図171 SJ1・SJ2遺構図

出土遺物 445はZ1群4a類で胎土に雲母を多く含む。4単位の波状口縁で、口縁部は肥厚し内湾する。胴部は中央よりやや上方で括れ、下半は張り丸みをもつ。口縁部から胴部上半にかけて外面に櫛歯状施文具による集合沈線で菱形の区画文を施し、集合沈線に沿うように櫛歯状施文具による刺突文を施す。波頂部の下の外面に粘土紐による渦巻文がはがれた痕跡が認められる（図版53-445）。胴部の括れよりも下方の外面に羽状繩文を施す。

時期 445から、前期中葉の遺構と判断した。

SJ2（図171・図172）

検出状況 AH16・AI16グリッド、III層上面、SK363の底面で検出した。SK20と重複関係があり、SK20よりも古い。平面形は全体的に楕円形に近い形状であり、北西部にテラスを伴う突出部があるがその性格は不明である。

土器埋設状況 埋土は暗褐色土が3層堆積する。1層は土器内の堆積土、2層・3層は埋設した土器の掘方埋土である。埋設土器（446）は深鉢で正位に設置されていた。SK363の掘削に伴い、446の口縁部が失われたと考えられるが、本来は1個体をそのまま埋設したと考えられる。

出土遺物 446はZ2群5a類で胎土に雲母を多く含む。胴部上半から口縁部にかけて緩やかに外反する。底部は平底である。外面の口縁に近い位置の外面に半截竹管状施文具による連続爪形文で横線文を2条施す。

時期 446から、前期後葉の遺構と判断した。

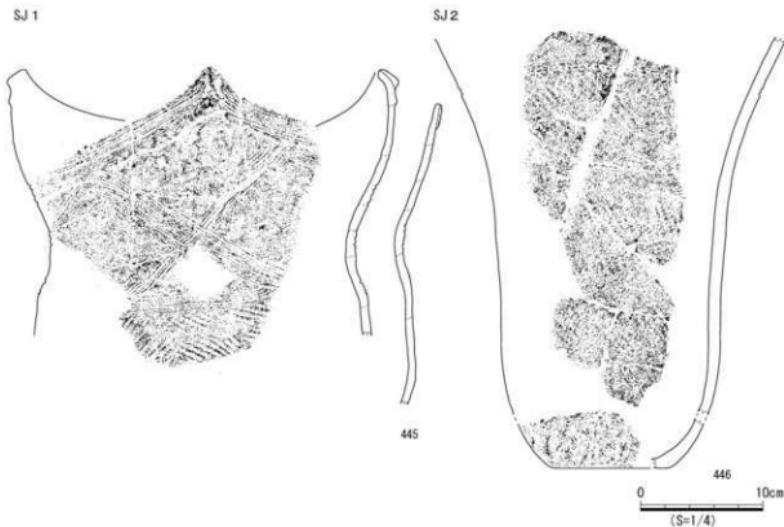


図172 SJ1・SJ2出土遺物

(3) 土坑墓

ST 1 (図173・図176)

検出状況 AH14 から AG15 グリッド、III層上面で検出した。ST 2 と重複関係があり、ST 2 より新しい。平面形は円に近い形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土の単層で炭化物を含む。1 層上面で、径 40 cm 程度の亜円礫が平坦面を上に向けた状態で出土した。また、縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 447 は Z 2 群 3 a 1 類で外面に低い 2 条の突帯を貼り付ける。突帯上に先端の細い施文具で縦に短い刻みを入れる。口唇部に半截竹管状施文具の内側で刻みを入れる。448 は外面に Z 2 群 3 a 2 類で突帯上に斜めの刻みを入れる。449 は Z 2 群 15 類で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文で曲線的な文様を施す。

時期 本遺構が ST 2 より新しい遺構であることや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

ST 2 (図173・図176)

検出状況 AF14 から AG15 グリッド、III層上面で検出した。ST 1 と重複関係があり、ST 1 より古い。平面形は東西方向に長い楕円に近い形状と考えられる。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土が 2 層堆積する。1 层上面で、径 60 cm 程度の緑色片岩の角礫が平坦面を上に向けた状態で出土した。また、1 層から縄文土器（452・453）がまとまって出土した。出土状況の記録がないため、詳細は不明である。この他に縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から前期後葉のものがあるが、ほとんどが前期後葉である。

出土遺物 450 は Z 1 群 1 c 類で外面に半截竹管状施文具による刺突文を施す。内面に羽状縄文を横位に施す。451 は Z 2 群 3 a 2 類で外面に突帯により梯子状文を施し、突帯上に斜めの刻みを入れる。452・453 は Z 2 群 12 c 類である。452 は胴部上半でやや括れ、口縁部に向けて外反する。胴部下半はやや丸みをもつ。外面の器面全体に羽状縄文を横位に施す。内面に指頭圧痕が残る。453 は外面に縄文を施す。

時期 本遺構が ST 1 よりも古い遺構であることや出土土器から前期後葉の遺構と判断した。

ST 3 (図173・図176)

検出状況 AH16・AH17 グリッド、III層上面で検出した。平面形は南北方向に長い楕円に近い形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土と褐色土が 2 層堆積する。1 層・2 層ともに褐色土ブロックを含む。1 层上面で、径 40 cm 程度の扁平円礫が平坦面を上に向けた状態で 1 点、1 层中から径 40 cm 程度の楕円礫 1 点と径 20 cm 程度の円礫が 2 点出土した。また、縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から前期後葉まであるが、ほとんどが前期後葉である。

出土遺物 454 は Z 1 群 2 b 類で外面に先端が二又に割れた施文具で押し引きし、横線文を 3 条施す。口唇部は半截竹管状施文具の内側で刻みを入れる。内面に指頭圧痕が残る。455 は Z 2 群 12 a 類で外面に粒の細かい羽状縄文を施す。

時期 出土土器は前期中葉から前期後葉のものがあるが、ほとんどが前期後葉であることから前期後葉以降の遺構と判断した。

ST 4（図 173・図 176）

検出状況 AH15 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は東辺がやや直線的であるが、梢円に近い形状である。

縄・遺物出土状況 埋土は暗褐色土と褐色土が2層水平堆積する。1層は褐色土ブロックを含む。1層上面から径 60cm 程度の割れた長楕円礫が斜めに傾いた状態で出土した。また、2層上面から径 50cm 程度の石皿（457）が平坦な面を上にした状態で出土した。その他、1層中から縄文土器（456）がまとまって出土した。出土状況の記録がないため、詳細は不明である。この他に縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 456 は Z 2 群 5 c 類で口縁部が短く外反する。外面に半截竹管状施文具による平行沈線文と連続爪形文で横線文を施す。457 は扁平円礫を利用した平板の石皿で表面に磨痕を残す。

時期 出土土器（456）から前期後葉の遺構と判断した。

ST 5（図 173・図 176）

検出状況 AH14 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は東西方向に長い梢円に近い形状である。

縄・遺物出土状況 埋土は暗褐色土が4層堆積する。1層・2層・3層は褐色土ブロックを含む。3層・4層は炭化物を含む。遺構のほぼ中央の4層上面で、径 20cm 程度の扁平円礫 1 点と亜角礫 1 点がともに平坦面を上にした状態で出土した。また、4層上面で縄文土器深鉢（461）が外面を上にした状態で出土した。461 と礫とはほぼ同じ高さで出土しており、頭部等を被覆していた可能性が考えられる。この他に縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 458～460 は Z 2 群 3 c 類である。いずれも接合しないものの出土位置が同じで、胎土や文様が類似することから同一個体の可能性が高い。458・459 はやや内湾する口縁部で、口唇部内側に突帯を貼り付け、肥厚させる。外面に突帯による横線文を 2 条施し、突带上に縄文を施す。460 は外面に突帯による横線文を 2 条施す。突带上に縄文を施す。461 は Z 2 群 12 c 類で口縁部が緩やかに外反する。外面全体に羽状縄文を施す。462 は凹基無茎石鐵で基部の抉りが丸く浅い。右基部は折損後、再生剥離を施す。

時期 出土土器（458～461）から前期後葉の遺構と判断した。

ST 6（図 173・図 177）

検出状況 AH13・AH14 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は南北方向に長い梢円に近い形状である。

縄・遺物出土状況 埋土は褐色土がほぼ水平に 2 層堆積する。1 層は褐色土ブロックや炭化物、2 層は炭化物を含む。1 层上面で、径 30cm 程度の円礫 1 点が平坦面を上にした状態で出土した。また、縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 463 は Z 2 群 7 c 類で外面に集合沈線を施し、浮線文を貼付する。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

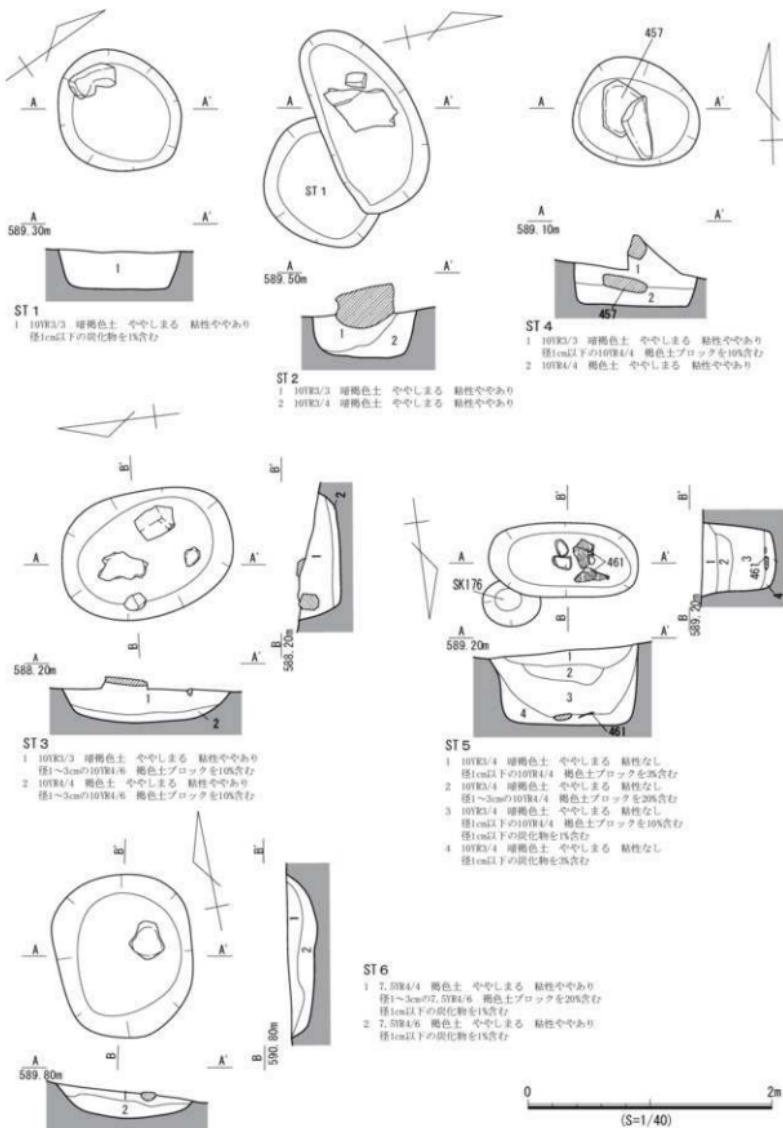


図 173 ST 1～ST 6 遺構図

ST 7（図 174・図 177）

検出状況 AH12・13 グリッド、III層上面で検出した。ST 8 と重複関係があり、ST 8 より古い。平面形は円に近い不定な形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土と褐色土が3層堆積し、このうち1層は遺構東部にのみ堆積する。1層・2層は褐色土ブロックを含む。掘方北部の2層と3層中から径20cm程度の亜角礫1点、径20cm程度の扁平円礫1点、径40cm程度の扁平円礫1点、径50cm程度の扁平円礫1点、径40cm程度の長円礫3点が平坦面を上にした状態で出土した。また、掘方南部の2層中から径40cm程度の扁平円礫と楕円礫が1点出土した。いずれも平坦面を上に向けた状態で出土した。遺物は縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 464はZ 2群2 b類で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文で連結木葉文を施す。465はZ 2群3 a 2類で外面に突帯による梯子状文を施す。突带上及び口唇部に先端の細い施文具で斜めに刻む。466はZ 2群7 a類で外面に半截竹管状施文具による平行沈線文を施す。467はZ 2群7 b類で外面に半截竹管状施文具の外側で浅くナデ引きし、3条の横線文を施す。波頂部の下に短線状の浮文を貼付する。468・469はZ 2群12 c類で外面に羽状縄文を横位に施す。それぞれは接合しないものの出土位置が同じで、胎土や文様が類似することから同一個体の可能性が高い。

時期 本遺構がST 8より古い遺構であるが、ST 8 出土の時期が特定できる土器は、すべて前期後半であることから、ST 8 とそれほど時期差がないため、前期後葉以降の遺構と判断した。

ST 8（図 174・図 177）

検出状況 AH12 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。ST 7 と重複関係があり、ST 7 より新しい。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土と褐色土が4層堆積する。1層・2層は褐色土ブロックを含む。掘方のほぼ中央の1層中で、径50cm程度の長楕円礫1点が平坦面を上に向けた状態で出土した。縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 470はZ 2群3 a 2類で外面に低い突帯による横線文を2条施し、突带上に先端の細い施文具で鋸歯状文を施す。471は異形石器で裏面を丁寧に剥離調整し、弧状の刃部を作り出す。472は用途不明の石製品で、礫の一部に磨痕のような滑らかな部分が認められる。礫の大きさと比べ重みがあり、磁性がある。

時期 本遺構がST 7より新しい遺構であるが、ST 7 出土の時期が特定できる土器は、すべて前期後半であることから、ST 8 とそれほど時期差がないため、前期後葉以降の遺構と判断した。

ST 9（図 174・図 177）

検出状況 AH12 グリッド、III層上面で検出した。平面形は南北方向に長い楕円に近い形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は褐色土が水平に2層ほぼ水平に堆積し、明褐色土ブロックを含む。掘方中央北寄りの1層と2層の間から径50cm程度の長楕円礫1点、径30cm程度の扁平円礫1点、径10cm～20cmの亜角礫4点が平坦な面を上にした状態で出土した。また、掘方の東側からも径30cm程度の扁平円礫1点、径20cm程度の亜角礫2点が平坦な面を上にした状態で出土した。縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

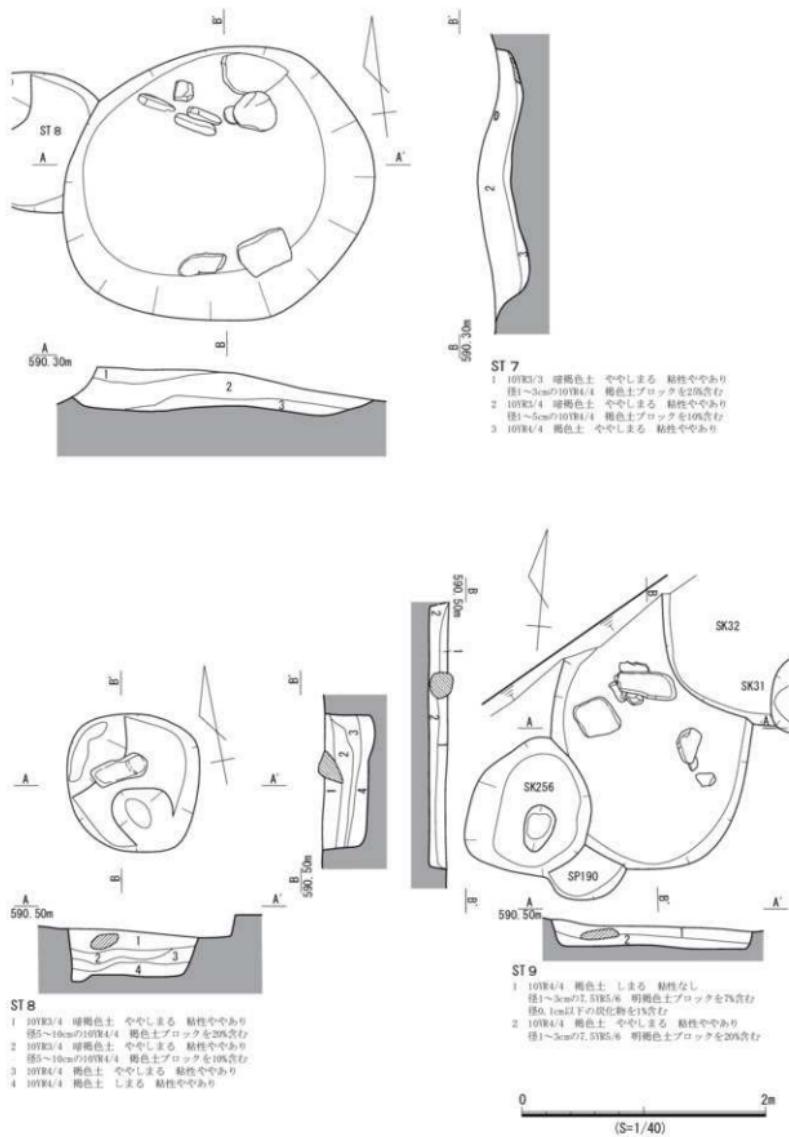


図 174 ST 7 ~ ST 9 遺構図

出土遺物 473はZ2群12c類で外面に半截竹管状施文具による沈線を施す。

時期 出土土器から前期後葉の遺構と判断した。

ST10（図175・図177）

検出状況 AH11からAH12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。ST11・SK344と重複関係があり、ST11よりも新しくSK344よりも古い。平面形は東西方向に長く、西辺は直線的、東辺は丸みがある不定な形状をとる。

礎・遺物出土状況 埋土は暗褐色土と褐色土が7層堆積する。3層は褐色土ブロック、1層・5層は炭化物を含む。掘方の西側の2層上面で径50cm程度の長楕円窪が2点出土した。また、掘方中央南寄りの2層と3層の間で径40cm程度の扁平円窪が出土した。平坦な面を上にした状態で出土した。遺物は縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 474はZ2群5b類で波状の口縁である。外面に半截竹管状施文具による平行沈線文・連続爪形文を施す。波頂部の下に竹管状施文具による円形刺突する。

時期 本遺構が前期後葉以降のSK344よりも古い遺構であることや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

ST11（図175・図177）

検出状況 AH12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。ST10・SK344と重複関係があり、いずれよりも古い。平面形は東西方向に長い楕円に近い形状である。

礎・遺物出土状況 埋土は暗褐色土とぶい黄褐色土と褐色土の3層である。中央が窪む堆積をする。1層・2層は褐色土ブロックを含む。掘方ほぼ中央の1層内で径20cm程度の石皿1点（475）と亜角窪1点、径10cm～20cmの亜角窪5点が出土した。縄文土器・石器が散在した状態で出土した。土器は細片であるが、器厚が薄いため前期後葉の可能性がある。

出土遺物 縄文土器は細片であったため図化していない。475は安山岩製の有縁石皿である。敲打整形により石皿外形及び凹部平面形を直線的に加工し、断面も角張った縁を形成する。外面の側面は敲打による抉りを入れることで円に近い浮文を作り出す。

時期 出土土器は細片3点であるため時期を特定できないが、本遺構が前期後葉以降のSK344やST10よりも古い遺構であることから前期後葉の遺構と判断した。

ST12（図175・図177）

検出状況 AH12～AH13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平成26年度の試掘確認調査TP4が掘方南側にかかるが、当時は確認できなかったため、本来の平面形は不明である。

礎・遺物出土状況 埋土は暗褐色土と褐色土が2層堆積する。2層は褐色土ブロックを含む。底面で径10cm～20cmの亜角窪が10点出土した。遺物は掘方中央の2層中から丸玉（476）が1点出土した。この他に縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。土器は細片であるが、器厚が薄く、外面に羽状縄文を施すことから前期後葉の可能性がある。

出土遺物 縄文土器は細片であったため図化していない。476は丸玉である。穿孔は両面穿孔で側面には溝を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

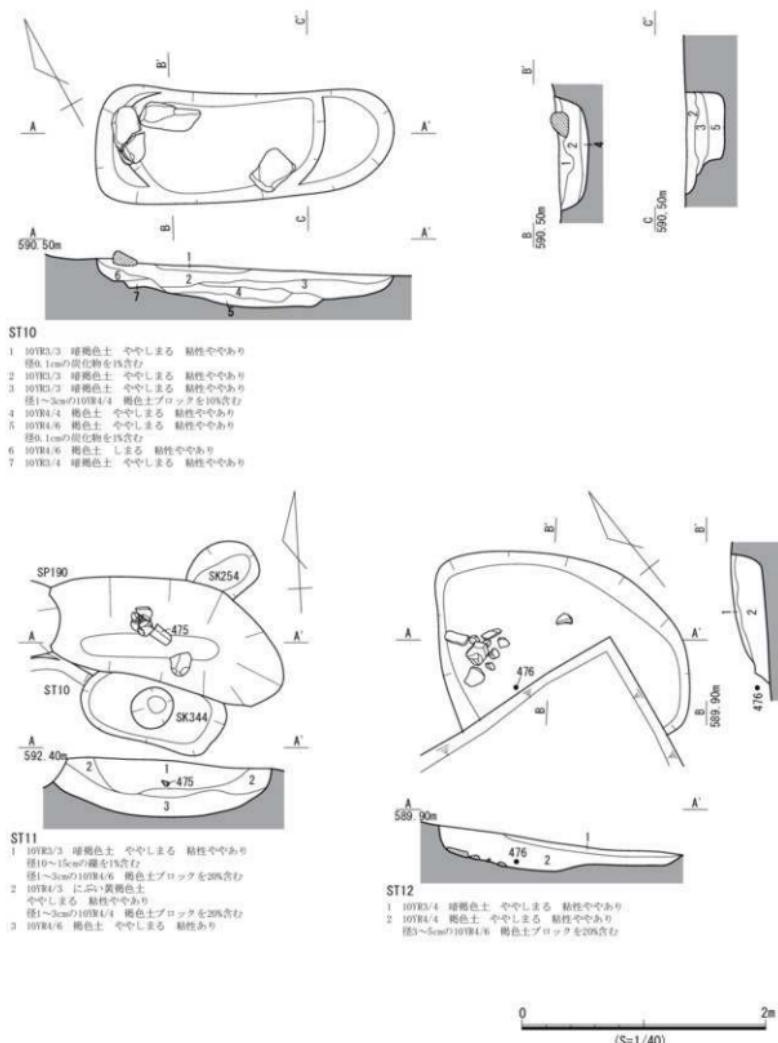


図 175 ST10～ST12 遺構図

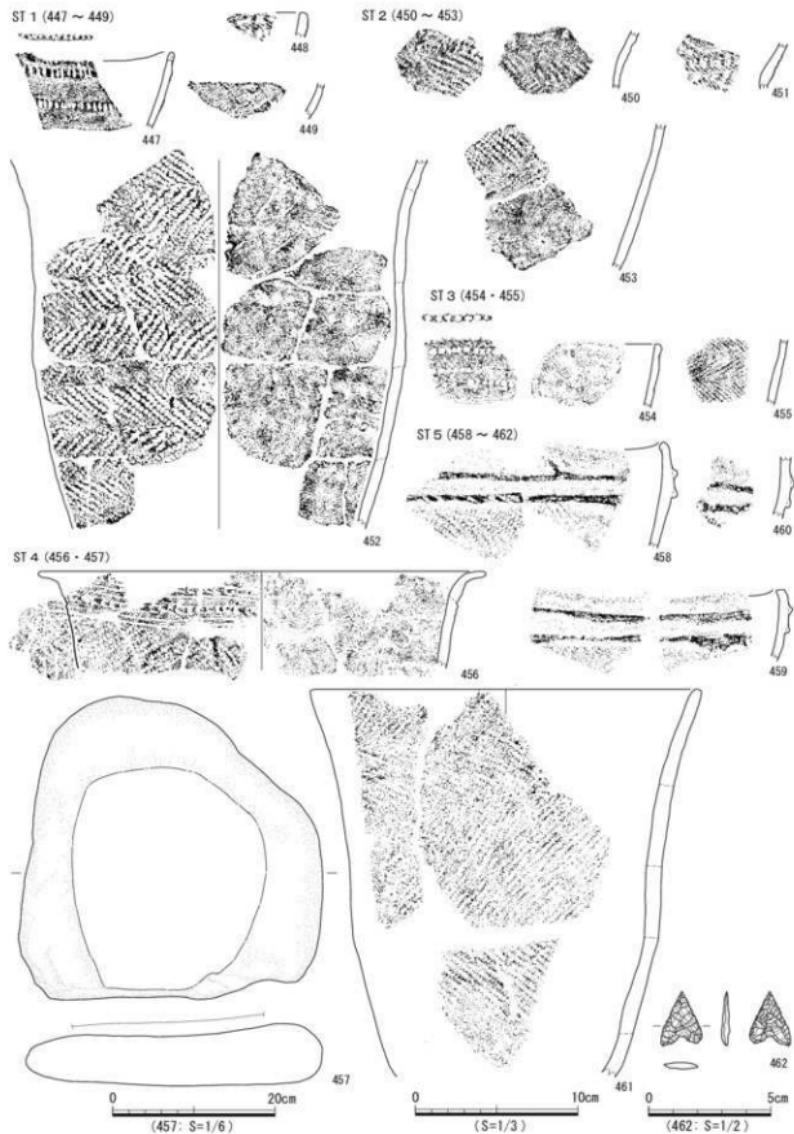


図 176 ST 1 ~ ST 5 出土遺物

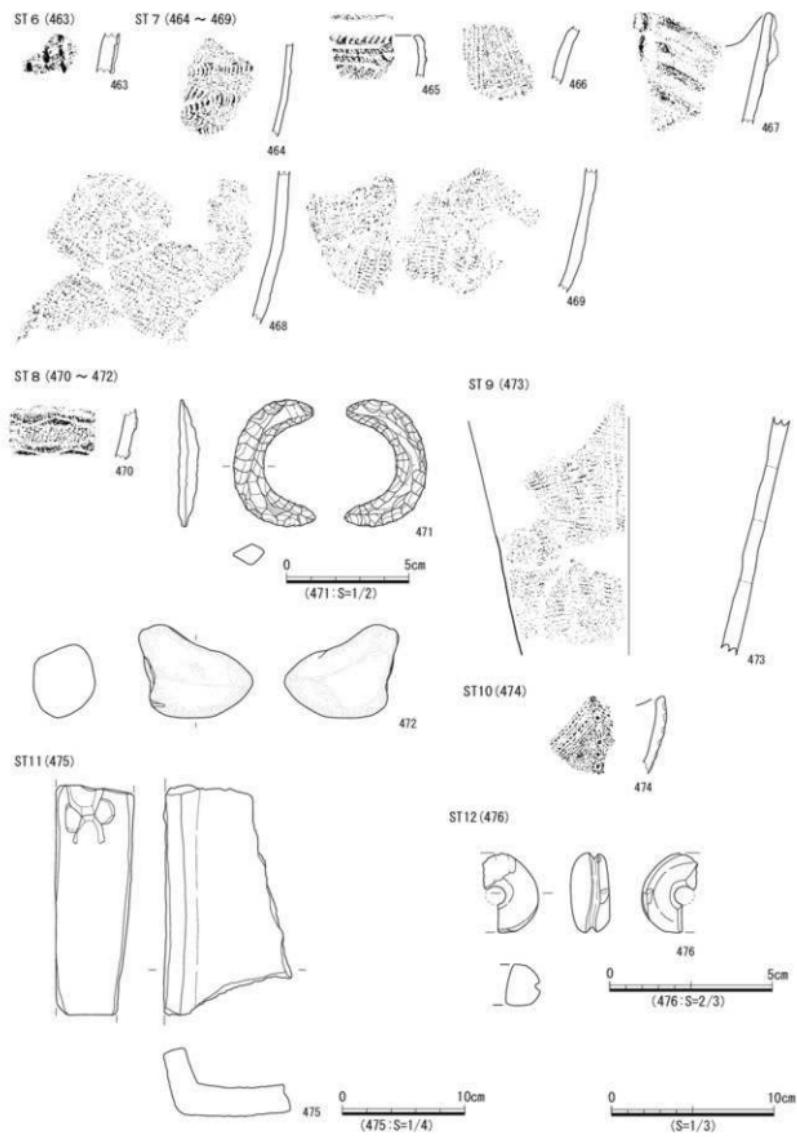


図 177 ST 6 ~ ST 12 出土遺物

ST16（図178・図185）

検出状況 AC8 グリッド、III層上面で検出した。SK403 と重複関係があり、SK403 より古い。平面形は東西に長い不定な形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は褐色土が3層堆積する。いずれの層も褐色土ブロックや炭化物を含む。掘方中央の3層上面で径 20 cm 程度の扁平な亜角礫 1 点、径 30 cm 程度の扁平円礫 1 点が平坦な面を上にした状態で出土した。掘方西部で縄文土器の深鉢（479・480）1 個体の破片が c・d 層から外面を上にした状態で出土した。その他、縄文土器や石器が c・d・e・1 層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 477 は Z 2 群 2 a 類で内湾する口縁部の外面に半截竹管状施文具による平行沈線で横位弧線文を施す。478～480 は Z 2 群 3 a 2 類である。478・479 は内湾する口縁部の外面に突帯を 3 条巡らせ、突帯上に斜めの刻みを入れる。479 は口縁に近い外面の突帯は棒状になり、口唇部に接する。480 は外面に縄文を施す。478～480 は接合関係がないが、器厚や胎土や縄文が類似することから同一個体と考えられる。

時期 478～480 から前期後葉の遺構と判断した。

ST17（図178・図185）

検出状況 AD5 グリッド、III層上面で検出した。SK527 と重複し、SK527 より新しい。北西部分が発掘区分外のため、平面形は不明である。

礫・遺物出土状況 埋土は褐色土、黒褐色土、暗褐色土が6層堆積するが、1・2層、3・4層、5層、6層がそれぞれ別の遺構であった可能性がある。2層は暗褐色土ブロックと炭化物、6層は明褐色土ブロックを含む。掘方のほぼ中央の6層上面から径 30 cm 程度の扁平円礫 1 点が平坦な面を上にした状態で出土した。また、掘方西部の6層上面から縄文土器の深鉢底部（481）と胴部（483）が外面を上にした状態で出土した。その他、縄文土器や石器が a・b・c・d・e・1・3 層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 481 は Z 2 群 6 c 類で縄文地の外面に半截竹管状施文具による平行沈線を施す。482・483 は Z 2 群 12 a 類である。482 は内湾する口縁部の外面に縄文を施す。口唇部は半截竹管状施文具による刻みを入れる。内面に指頭圧痕が残る。483 は外面に縄文を施す。内面に指頭圧痕が残る。482・483 は接合関係がないが、器厚や胎土や調整が類似することから同一個体と考えられる。484 は Z 2 群 15 類で外面に半截竹管状施文具による弧状の平行沈線を施す。外面に赤彩が認められる。485 は石匙で横長の剥片を素材とし、縁辺下部に直線的な刃部を作り出す。

時期 481・483 から前期後葉の遺構と判断した。

ST18（図178・図185・186）

検出状況 AF5・6 グリッド、III層上面で検出した。平面形は東西に長い梢円に近い形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土、褐色土が2層堆積するが、1層は別の遺構であった可能性がある。1層に炭化物を含む。埋土中から径 20 cm 程度の扁平円礫 3 点と長楕円礫 1 点、径 10 cm 程度の亜円礫 11 点が掘方東部の 1・2 層の上面から平坦な面を上にした状態で出土した。熱による赤変した亜円礫が認められた。また、掘方西部の 1・2 層から 490・491 とほぼ同じ高さで縄文土器の深鉢胴部（486・487）が外面を上にした状態で出土した。その他に縄文土器や石器が a・1・2 層から散在し

た状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 486～488 は Z 2 群 12 a 類で外面に縄文を施す。486～488 は接合関係がないが、出土位置も近く、器厚や胎土や調整が類似することから同一個体と考えられる。489 はスクレイバーで上部に原礫面を残す肉厚な剥片を素材とし、縁辺左部にやや曲線的な刃部を作り出す。490 は磨石・敲石類で表面に磨痕、両側面に敲打痕と磨痕、上面に潰れ状の剥離痕、下面に敲打痕を残す。491 は有縁の石皿で表面に磨痕を残す。

時期 486・487 から前期後葉の遺構と判断した。

ST20 (図 178・図 186)

検出状況 AD11・12 グリッド、III層上面で検出した。SK445、SD 1 と重複し、いざれより古い。平面形は東西に長い長方形に近いが、東辺は若干丸みがある。

礫・遺物出土状況 埋土は褐色土の単層である。掘方東部において底面から浮いた状態で径 40cm 程度の扁平礫 1 点と径 25cm 程度の扁平礫 1 点が平坦な面を上にし重なる状態で出土した。その他に縄文土器が a・1 層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 492 は Z 2 群 6 c 類で外面は縄文地の上に半截竹管状施文具による平行沈線を施す。493 は Z 2 群 15 類の有稜浅鉢で外面に半截竹管状施文具による矢羽根状の刻みを施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST21 (図 179・図 186)

検出状況 AE11 グリッド、III層上面で検出した。SI30-P8 と重複関係があり、SI30-P8 より新しい。平面形は東西に長い楕円形に近い形状をとる。

礫・遺物出土状況 埋土は褐色土・黄褐色土が 3 層堆積する。1 層は黄褐色土ブロックと炭化物を含む。掘方西部で縄文土器の深鉢（494～497）の胴部が 2 層上面から外面を上にした状態で出土した。また、掘方中央で縄文土器の深鉢（494～497）とほぼ同じ高さで径 30cm 程度の石皿（498）と径 20cm 程度の石皿（499）が平坦な面を上にした状態で出土した。その他に縄文土器や石器が c・1 層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 494～497 は Z 2 群 12 c 類で外面に縄文を施す。494～497 は接合関係がないが、出土位置が近く、器厚や胎土や縄文が類似することから同一個体と考えられる。498・499 は平板の石皿である。498 は表面に磨痕を残す。499 は表面に敲打痕と磨痕、左側面と下面に敲打痕を残す。

時期 前期後葉の SI28 よりも新しいが、494～497 からそれほど時期差がないと考えられることから、前期後葉の遺構と判断した。

ST23 (図 179・図 187)

検出状況 AH6 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円形に近いが、北辺のみ直線的である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土が 2 層堆積する。2 層は炭化物を含む。掘方中央の床面から浮いた状態で径 40cm 程度の扁平な円礫 1 点と径 10cm 程度の円礫 1 点が平坦な面を上にした状態で出土した。また、掘方中央で縄文土器の深鉢（500・502）の口縁から胴部にかけての破片が外面を上にして、底面から浮いた状態で出土した。その他に縄文土器や石器が a・c・d・1・2 層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 500 は Z 2 群 3 a 1 類で口縁部は波状で内湾する。口縁部の外面に突帯による棒状文を施

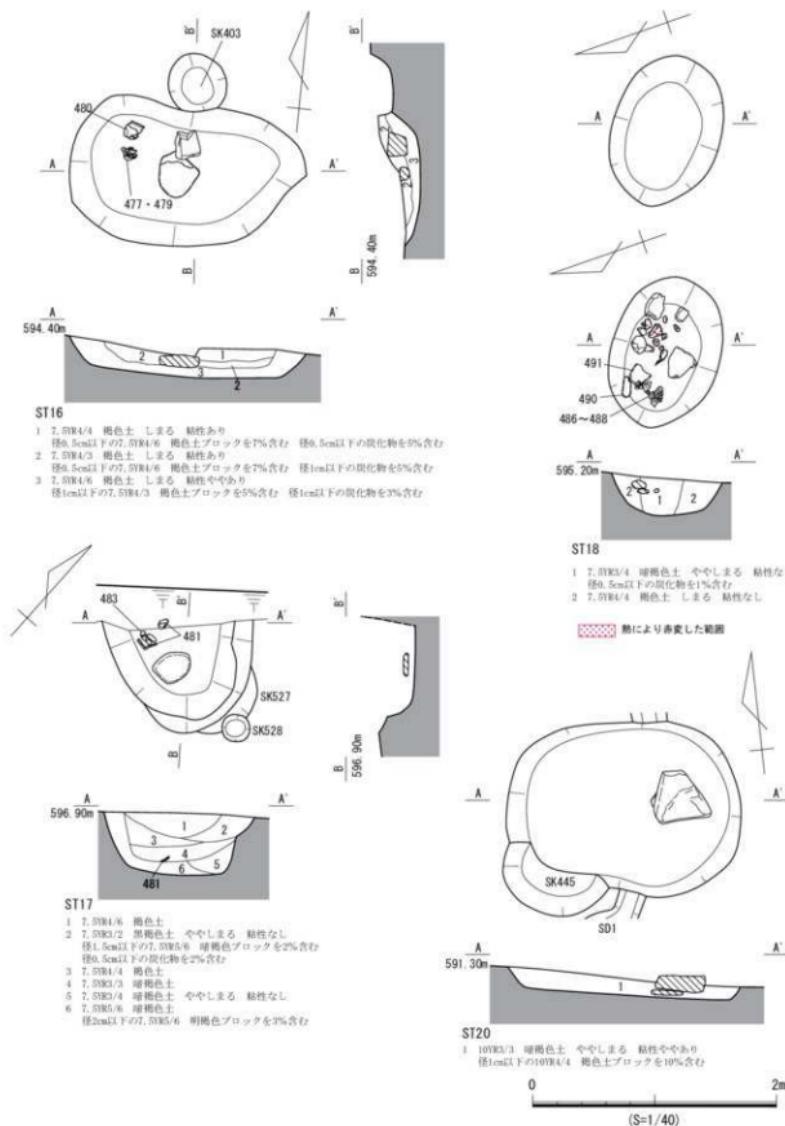


図 178 ST16～ST18・ST20 遺構図

す。突带上に縦の短い刻みを施す。内面に指頭圧痕が残る。501はZ2群3d類で外面に幅広の素文の突帶を施す。502はZ2群12a類で外面に縄文を施す。内面に指頭圧痕が残る。

時期 500・502から前期後葉の遺構を考えられる。

ST25(図179・図187)

検出状況 AH6・AI6グリッド、III層上面で検出した。SK671と重複し、SK671より古い。平面形は東西に長い隅丸長方形に近い形状である。

磚・遺物出土状況 埋土は暗褐色土の单層で炭化物を含む。南寄りから径25cm程度の扁平礫が平坦な面を上にした状態で出土した。その他に縄文土器がc層から散在した状態で出土した。時期が特定で

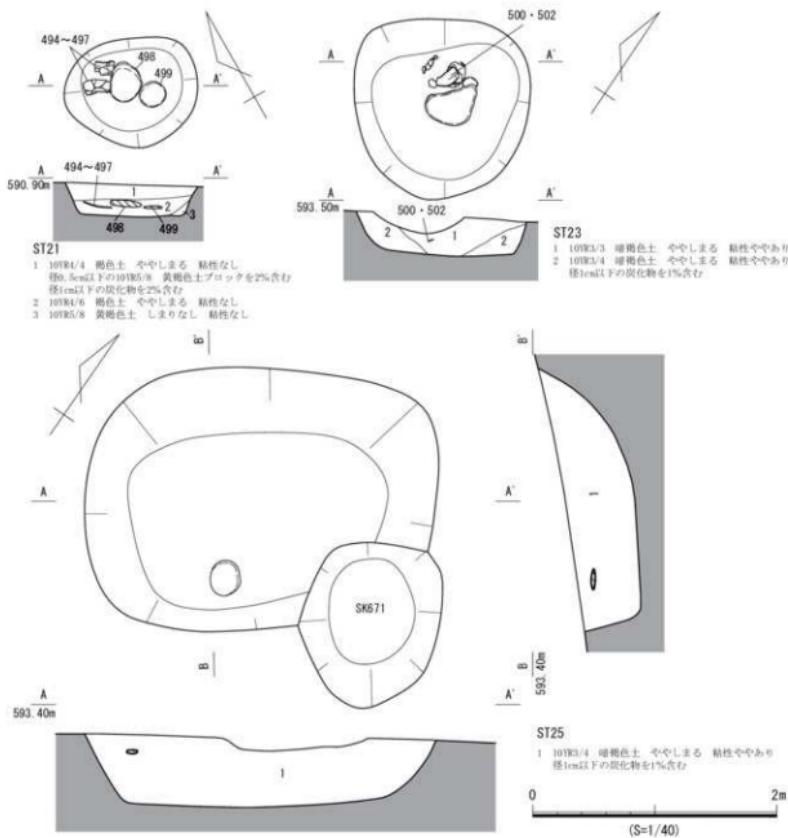


図179 ST21・ST23・ST25 遺構図

きる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 503はZ2群7a類で外面に集合沈線を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST26(図180・図187)

検出状況 A16グリッド、III層上面で検出した。平面形は南北に長い楕円に近い形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土の単層で褐色土ブロックを含む。掘方北西部の上面に近い1層中面から、磨石・敲石類(505)が平坦な面を上にした状態で出土した。その他に縄文土器や石器が1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 504はZ2群3a2類で外面に細い突帯を貼り付け、突帯上に斜めの刻みを入れる。505は磨石・敲石類で左側面に敲打痕・磨痕、右側面・上面・下面に敲打痕を残す。506は平板の石皿で表面に磨痕を残す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST27(図180・図187)

検出状況 AJ5・6グリッド、III層上面で検出した。ST28と重複し、ST28より新しい。平面形は三角形に近いひびつな形状をとる。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土が2層堆積する。2層は炭化物を含む。掘方北西部の1層上面から径30cm程度の扁平礫1点と磨石・敲石類(509)1点が出土した。その他、縄文土器や石器がc・

The figure consists of several line drawings illustrating the archaeological features of structures ST26 and ST27.

- Top Left:** Plan view of Structure ST26. It shows an irregular, elongated polygonal shape with a small circular feature labeled "505" near the center. A vertical scale bar indicates 592.80m.
- Bottom Left:** A cross-section of Structure ST26, showing a single layer of dark brown soil (1) resting on a lighter-colored base. A horizontal scale bar at the bottom indicates 0 to 2m, with a ratio of S=1/40.
- Center:** A large plan view of Structure ST27, showing a more complex, angular polygonal shape. Inside, two small circles are labeled "509". A vertical scale bar indicates 592.60m.
- Right:** A vertical cross-section of Structure ST27, showing multiple layers of soil. The top layer is labeled "1" and contains a small circle labeled "509". Below it is layer "2". A vertical scale bar indicates 592.60m.
- Bottom Right:** A detailed description of the soil layers in Structure ST27:
 - 1: 100% 2 暗褐色土 ややしまる
粘性ややあり 硬さ1cm以下の10%未満
褐色土ブロックを10%含む
 - 2: 100% 1 暗褐色土 ややしまる
粘性ややあり 硬さ1cm以下の炭化物を1%含む

図180 ST26・ST27 遺構図

1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 507はZ2群12c類である。口唇部が肥厚し、上端に棒状施文具による刺突を施す。508はZ2群14類で平底の底部である。底部外面の接地部分に刻みを入れる。509は磨石・敲石類で右側面に磨痕を残す。

時期 前期後葉以降のST28よりも新しいことや出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST28(図181・図188)

検出状況 AJ6・AK6グリッド、III層上面で検出した。SI47・ST27と重複し、いずれよりも古い。平面形は東西に長い不定な形状を取り、南部は削平されているため形状は不明である。

礎・遺物出土状況 埋土は暗褐色土の単層で、褐色土ブロックや炭化物を含む。北部の床面から径30cm程度の扁平礎1点が出土した。その他に縄文土器や石器がc層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 510はZ2群2c類で外面半截竹管状施文具による平行沈線を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST30(図181・図188)

検出状況 AH5グリッド、III層上面で検出した。SI40と重複関係があり、SI40より新しい。平面形は梢円に近い形状である。

礎・遺物出土状況 埋土は暗褐色が4層堆積し、炭化物を含む。掘方の中央の3層と4層にまたがって径70cm程度の長梢円礎1個が出土した。上を向いた礎の平坦面に熱による赤変が認められた。その他、縄文土器や石器がd・2・3層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 511はZ2群12c類で外面に縄文を施す。512はZ2群14類である。底部は平底で接地部が外に大きく張り出す。

時期 前期後葉のSI40よりも新しいことや出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST31(図181・図188)

検出状況 AB8グリッド、III層上面で検出した。平面形は梢円に近い形状である。

礎・遺物出土状況 埋土は暗褐色土、褐色土が2層堆積する。1層は褐色土ブロック、2層は暗褐色土ブロックと炭化物を含む。掘方ほぼ中央の2層上面から、径20cm程度の扁平円礎1点が出土した。その他、縄文土器や石器がa・1・2層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 513はZ2群14類である。底部は平底で接地部が外に張り出す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST38(図182・図188・図189)

検出状況 AG7グリッド、SI36床面及びSK602底面で検出した。SI36、SK602と重複関係があり、いずれよりも古い。平面形は北東-南西方向に長い梢円に近い形状である。

礎・遺物出土状況 埋土は暗褐色土の単層で、炭化物を含む。掘方上面の北から径10cm程度の円礎1点、中央から径20cm~30cm程度の扁平礎2点、縄文土器の深鉢の胴部片(518・519)が、上面を上にして底面から浮いた状態で出土した。その他、縄文土器や石器がa・c・d・1層から散在した状態

で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 514～516はZ 2群3 d類である。514は外面に口縁と平行する細い3条の突帯に3条やその間を結ぶ棒状の突帯を貼り付ける。口縁部の内面に指頭圧痕が残る。515・516は外面に横方向の突帯を1条貼り付ける。内面に指頭圧痕が残る。514～516は接合関係がないが、胎土中に長石を多く含み、器厚や調整が類似することから同一個体と考えられる。517はZ 2群7 a類で外面に集合沈線を施す。518・519はZ 2群13 c類で内外面に指頭圧痕が残る。518・519は接合関係がないが、出土位置が近く、器厚や胎土や調整が類似することから同一個体と考えられる。

時期 514～516から前期後葉の遺構と判断した。

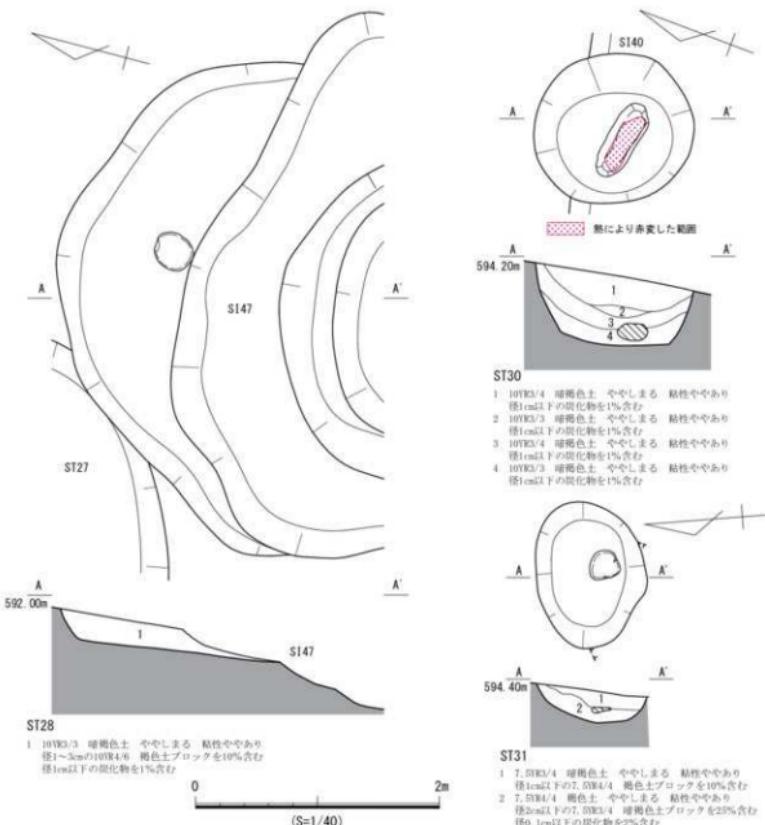


図 181 ST28・ST30・ST31 遺構図

ST39(図182・図189)

検出状況 AG10グリッド、III層上面で検出した。SK652・SK658と重複関係があり、いずれよりも古い。

平面形は南北に長い不定な形状で、東部に平面が円形の落ち込みがある。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土の単層で、褐色土ブロックと炭化物を含む。掘方の上面中央から径20cm程度の円礫2点、南寄りから径20cm程度の石皿(520)と円礫2点が出土した。そのうち、2点は熱による赤変が認められたが、赤変した向きは一定ではない。その他、縄文土器や石器がb・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 520は平板の石皿で表面に磨痕を残す。

時期 前期後葉のSK652・SK658よりも古いくことや出土土器から前期後葉の遺構と判断した。

ST41(図183・図189)

検出状況 AH10・11グリッド、III層上面で検出した。SI39・SK637・SK650と重複関係があり、いずれよりも古いく。平面形は西辺と南辺が直線的、東辺は丸みをもつ不定な形状である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土の単層で、炭化物を含む。掘方の北東部から縄文土器(521)が底部を上にして出土した。その他、縄文土器が1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 521はZ2群14類で平底の底部である。

時期 前期後葉のSI39よりも古いくことや521から前期後葉の遺構と判断した。

ST42(図184・図189)

検出状況 AK7グリッド、III層上面で検出した。ST24、SI50と重複関係があり、ST24より古く、SI50より新しい。平面形は南辺が直線的、その他の辺は丸みをもつ不定な形状である。

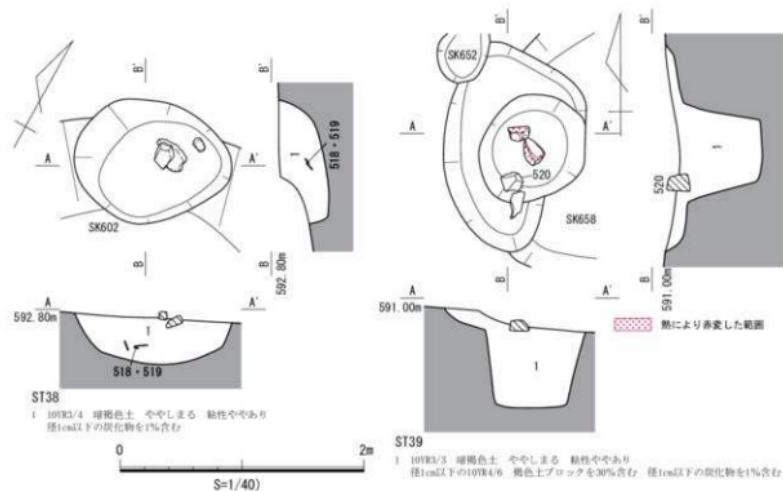


図182 ST38・ST39 遺構図

礫・遺物出土状況 埋土は黒褐色土の単層で、褐色土ブロックを含む。西部から径35cm程度の石皿(528)と径20cm程度の扁平縄1点が平坦な面を上にした状態で出土した。また、繩文土器の深鉢(522~525)が1個体分出土した。その他に繩文土器や石器がa・b・c・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 522はZ2群3a2類で外面に突帯による直線文や渦巻文を施す。523~525はZ2群12c類で外面に羽状繩文を施す。526・527はZ2群15類の複段口縁浅鉢で外面に半截竹管状施文具による入組木葉文を施す。526は口縁に沿って多孔円孔が巡る。528は平板の石皿で表面に磨痕・敲打痕を残す。

時期 522~525から前期後葉の遺構と判断した。

ST44(図184・図190)

検出状況 AC6グリッド、III層上面で検出した。SK409と重複関係があり、SK409より古い。平面形は北部が発掘区外となるため不明である。

礫・遺物出土状況 埋土は暗褐色土、褐色土が2層堆積する。1層は赤褐色土ブロックと炭化物、2層は炭化物を含む。掘方ほぼ中央の2層上面から径30cm程度の扁平円縄1点が出土した。その他、繩文土器がa・c層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 529はZ2群3a2類で外面に口縁に平行する突帯を4条貼り付け、突带上に斜めの刻みを入れる。口唇部は突帯の貼り付け部分が沈線状になる。内面に指頭圧痕が残る。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

ST45(図184・図190)

検出状況 AB9グリッド、III層上面で検出した。平面形は大半が擾乱溝に切られており、北側のトレンチ部は掘削の際に掘りすぎてしまった。その他は隅丸方形である。

礫・遺物出土状況 埋土は褐色土、暗褐色土が4層堆積する。2層は3層を掘り込むが、それ以外はほぼ水平に堆積する。1層は褐色土ブロック、2・3層は褐色土ブロックや炭化物、4層は炭化物を含む。掘方ほぼ中央の3層中で径50cm程度の長楕円縄2点、石皿1点(534)、西部の3層から径25cm程度の円縄1点・亜円縄1点が出土した。その他、繩文土器や石器がb・c・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉まであるが、ほとんどが前期後葉のものである。

出土遺物 530はZ2群7a類で底部の接地部が外側に張り出す。胴部外面に半截竹管状施文具によ

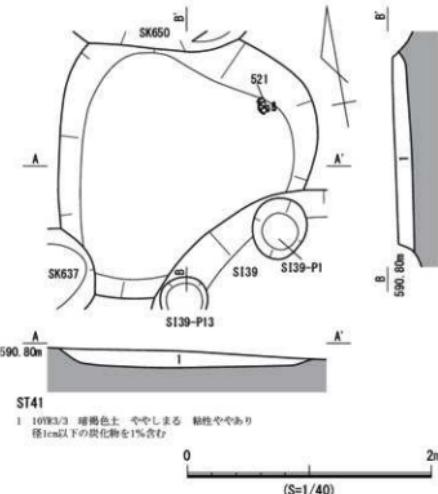


図183 ST41 遺構図

る集合沈線、内面に突帯を貼付する。531はZ2群7b類で外面に円形と短線状の浮文を貼付する。532はZ2群8類で外面に口縁に平行する結節浮線文を2条貼付し、その間にソーメン状浮線文を格子状に貼付する。533はZ2群12c類で外面に網文を施す。534是有縁の石皿で表面に磨痕を残す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

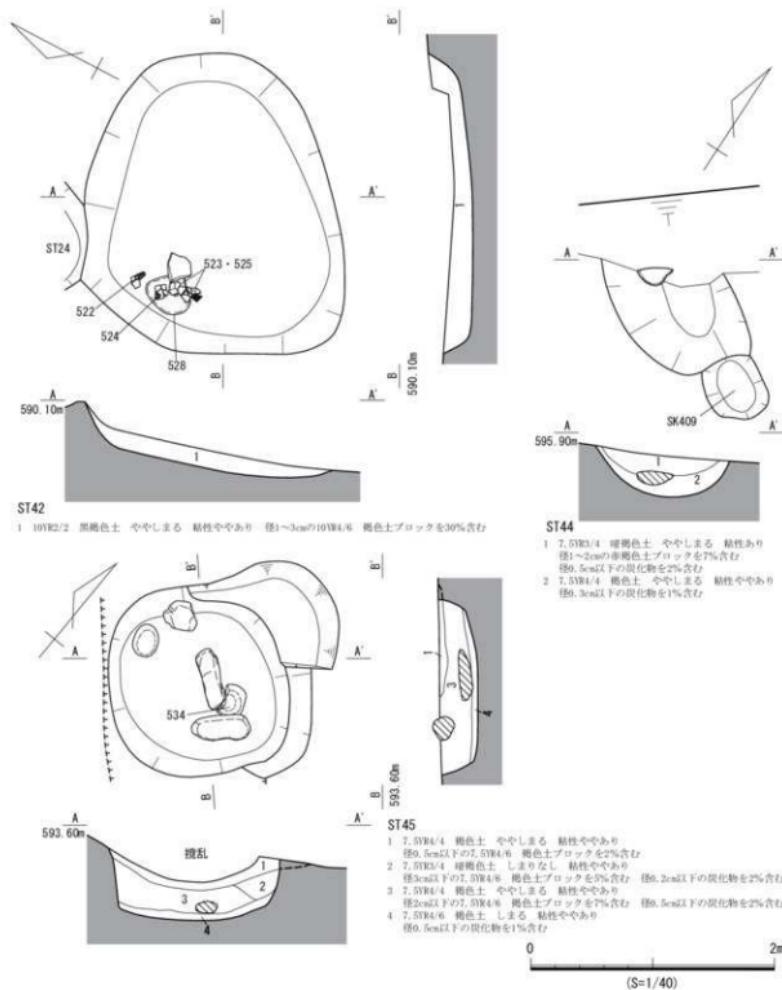
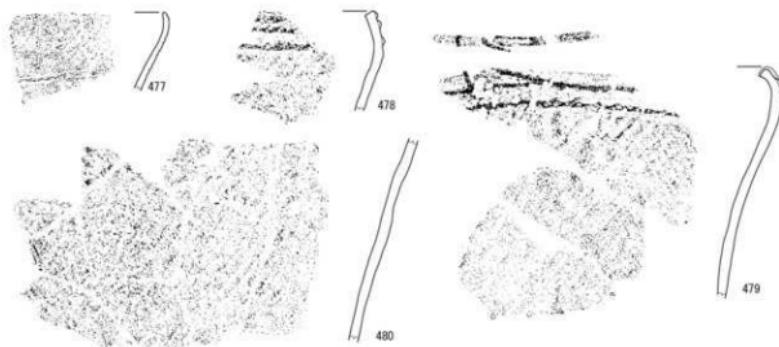
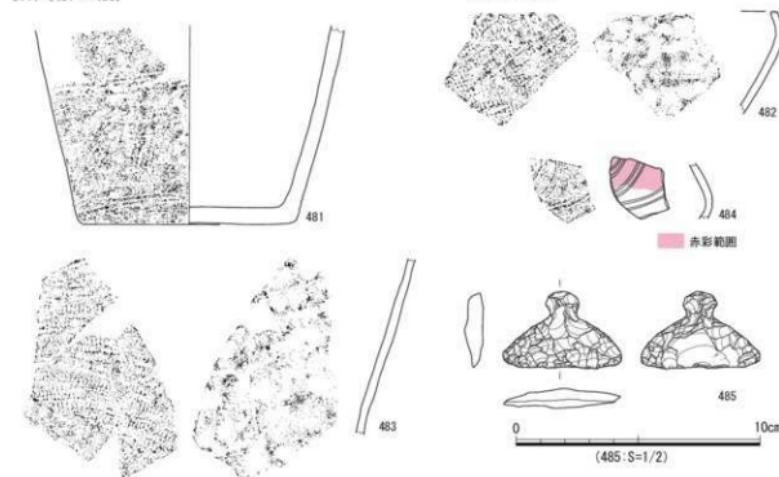


図 184 ST42・ST44・ST45 遺構図

ST16 (477 ~ 480)



ST17 (481 ~ 485)



ST18 (486 ~ 488)

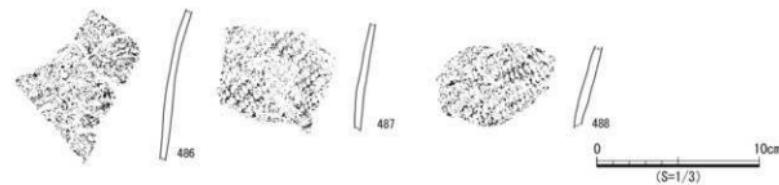


図 185 ST16～ST18 出土遺物

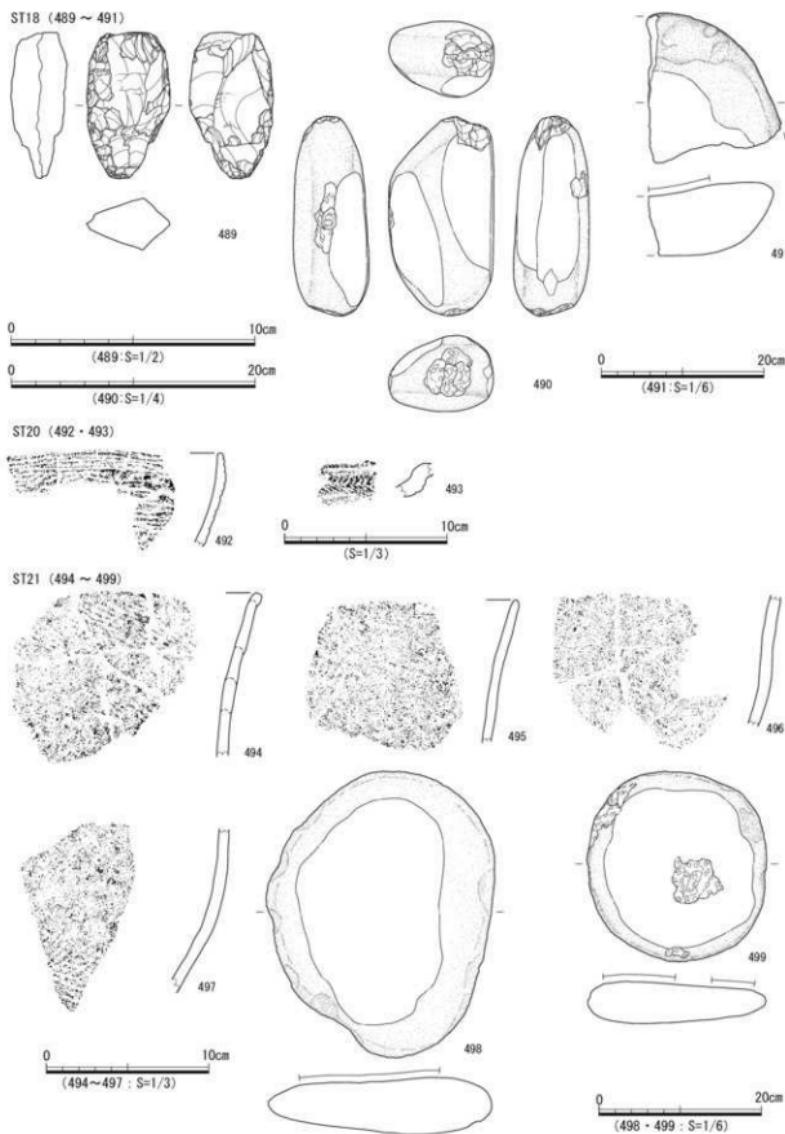


図 186 ST18・ST20・ST21 出土遺物

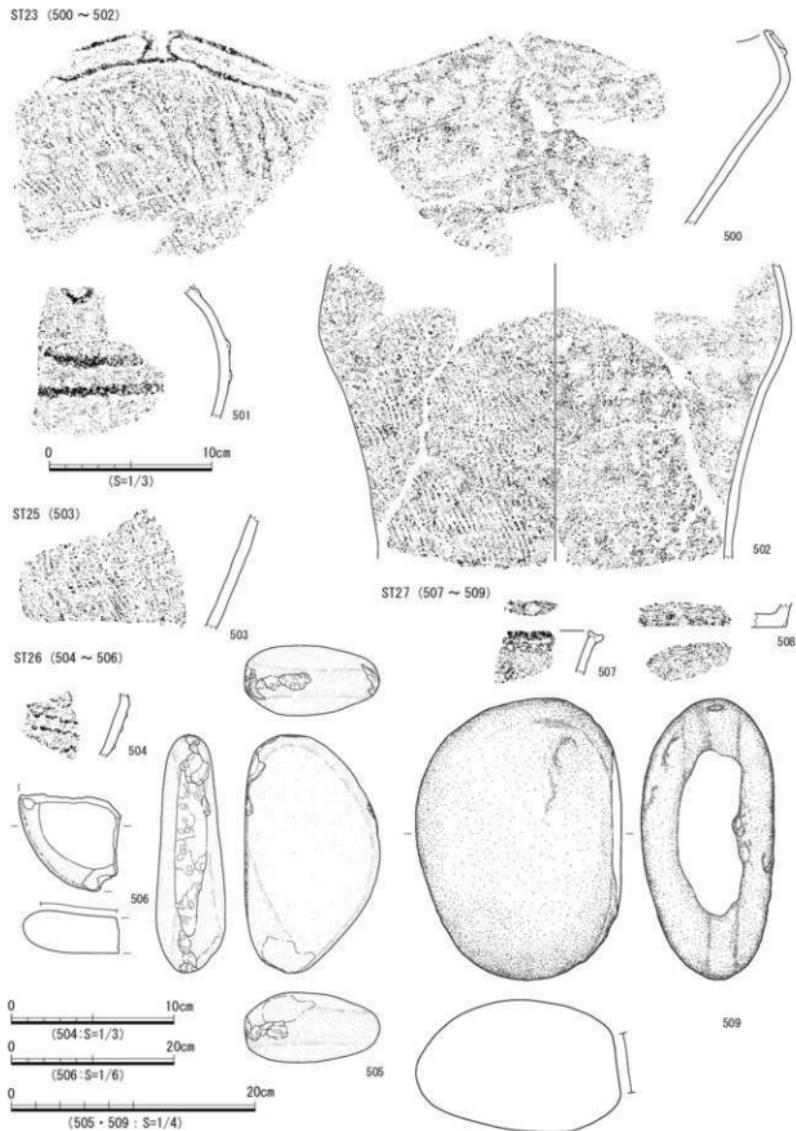


図 187 ST23・ST25~ST27 出土遺物

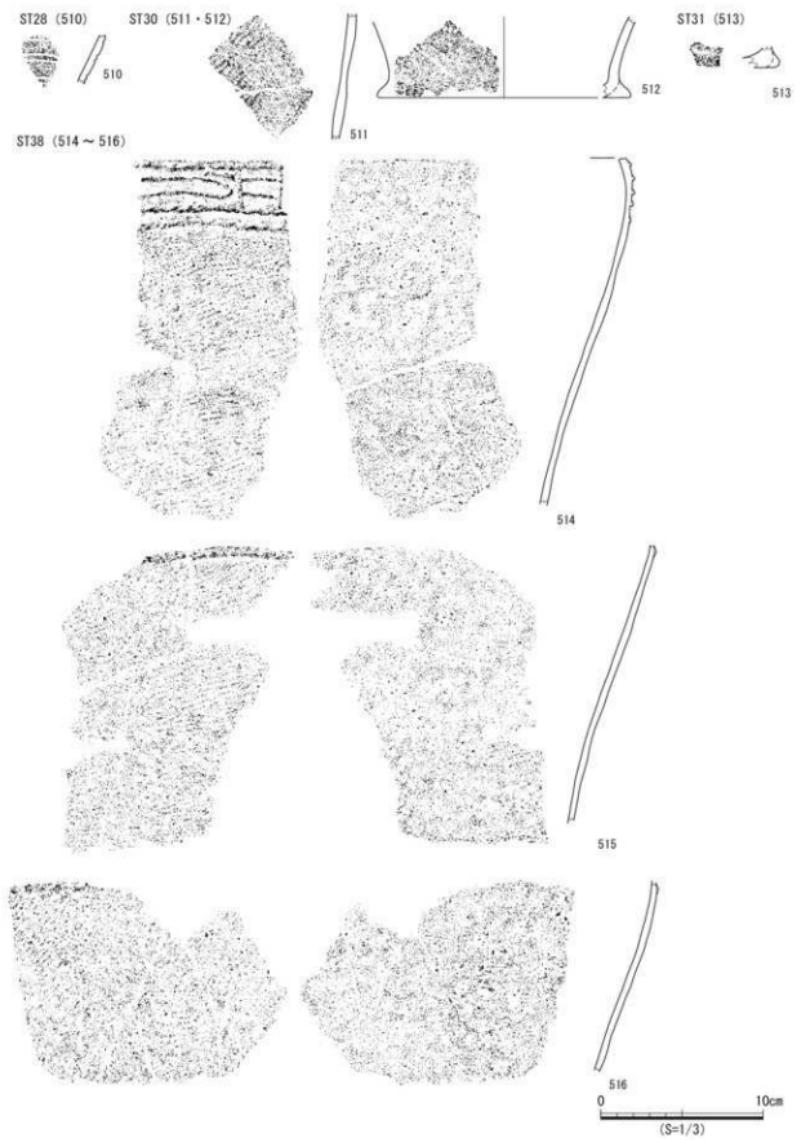


図 188 ST28・ST30・ST31・ST38 出土遺物

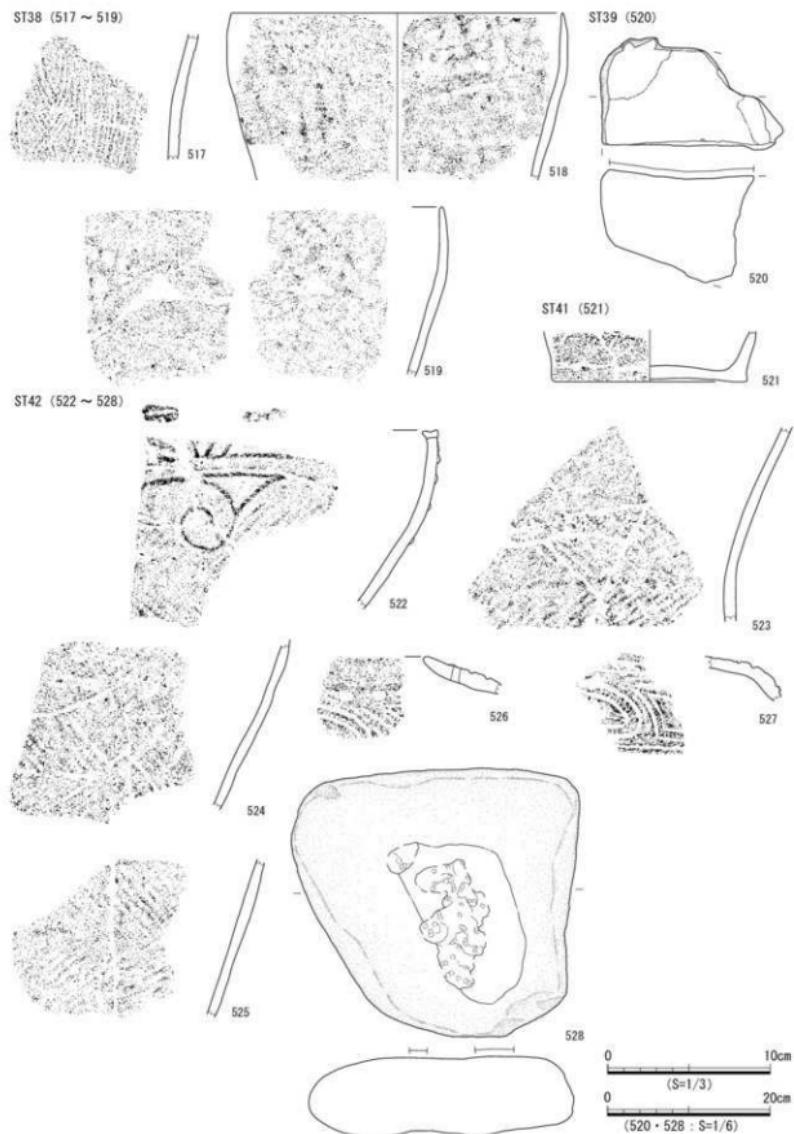


図 189 ST38・ST39・ST41・ST42 出土遺物

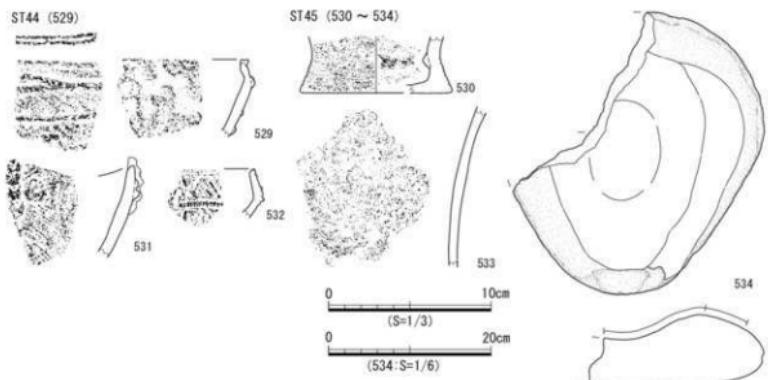


図 190 ST44・ST45 出土遺物

(4) 土坑

SK 1 (図 191・図 197)

検出状況 AE16 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が2層堆積する。2層は褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 535はZ 2群7c類で外面に半截竹管状施文具による集合沈線を施し、その上に浮線文を貼付する。浮線文上を半截竹管状施文具により押し引く。536はZ 2群7a類で外面に半截竹管状施文具による集合沈線を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK 2 (図 191・図 197)

検出状況 AE16 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が2層堆積する。1層は亜角縁・円窓を含む。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 537はZ 2群2c類で外面に半截竹管状施文具により平行沈線を施す。538はZ 2群7c類で外面に半截竹管状施文具による集合沈線を施し、その上に浮線文を貼付する。浮線文上に半截竹管状施文具により押し引く。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK 3 (図 191・図 197)

検出状況 AE16 グリッド、III層上面で検出した。平面形は南北方向に長い椭円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。褐色土ブロックを含む。1層は2層を切るように堆積することから別遺構の可能性が高い。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉のもので、大半が後葉のものである。

出土遺物 539はZ1群2c類で外面に先端の角張った施文具で連続刺突文を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK4(図191・図197)

検出状況 AE15・AF15グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が5層堆積する。2層～5層は褐色土ブロックを含む。1層は炭化物を含む。

遺物出土状況 1層から縄文土器の口縁部から胴部にかけての破片(540)が出土した。埋葬者の頭部等を被覆するための土器の可能性もあるが、出土状況の記録がないため詳細は不明である。これ以外には縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 540はZ2群12c類である。口縁部から胴部にかけて直線的に外傾する。外面に羽状縄文を施す。内面に指頭圧痕が残る。

時期 出土土器(540)から前期後葉の遺構と判断した。

SK5(図191・図197)

検出状況 AF15グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層である。埋土中から角礫が詰め込まれた状態で出土した。

遺物出土状況 角礫と角礫の間から石皿(541)が出土した。この他に縄文土器・石器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 出土した土器は細片のため図化しなかった。541は有縁の石皿で表面に磨痕・敲打痕、側面に敲打痕が残る。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK6(図191・図197)

検出状況 AF15グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。円礫が土坑の東寄りで1層の上部を中心に底面から浮いた状態で円を描くようにまとまって出土した。

遺物出土状況 縄文土器・石器が礫と礫の間から散在した状態で出土した。出土した土器は細片であるが前期後葉である。

出土遺物 542はZ2群3d類で外面に突帯を1条貼付する。543はZ2群13c類で内外面に赤彩が認められる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK7(図191・図197)

検出状況 AF15グリッド、III層上面で検出した。埋土の上層をSP251・SK296に切られる。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が3層堆積する。1層は褐色土ブロックを含む。3層は炭化物を含む。1層中から径40cm程度の楕円礫1点と径20cm程度の角礫1点が平坦面を下にした状態で出土した。

遺物出土状況 縄文土器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期

後葉のものである。

出土遺物 544 は Z 2 群 2 a 類で外面に半截竹管状施文具による連続刺突文で横線文を施す。口唇部は内側が肥厚し、上端に小突起が付く。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK8 (図 191・図 197)

検出状況 AG15・AG16・AH16 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近いが、南部が突出する不定な形状である。

埋土 暗褐色土の単層である。掘方中央の 1 層上部で径 10 cm~20 cm の角礫・円礫が底面から浮いた状態で出土した。礫は詰め込まれた状態で、一部の礫に熱による赤変が認められた。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 545 は Z 2 群 15 類の複段内溝浅鉢で口唇部が肥厚する。546 は有縁の石皿で表面に磨痕・敲打痕が残る。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK9 (図 191・図 197)

検出状況 AG14・AG15 グリッド、III層上面で検出した。平面形は南北方向に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が 2 層堆積する。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 547 は Z 2 群 2 a 類で外面に低い突帯を施し、突带上に先端の細い施文具で縦に短い刻みを入れる。548 は Z 2 群 12 a 類で外面に粒の細かい羽状繩文を施す。549 は Z 2 群 13 d 類で外面を横向に条痕調整する。550 は Z 2 群 17 類で外面に稜をもつ。内面に指頭圧痕が残る。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK10 (図 192・図 197)

検出状況 AG15・AH15 グリッド、III層上面で検出した。SK165 と重複関係があり、SK165 よりも古い。平面形は東西方向に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が 2 層堆積する。

遺物出土状況 1 層から縄文土器の深鉢（551）が出土した。埋葬者の頬部等を被覆した土器の可能性もあるが、出土状況の記録がないため詳細は不明である。この他に縄文土器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 551 は Z 2 群 12 a 類で口縁部から胴部にかけて直線的に外傾する。外面は口縁部から胴部にかけて羽状繩文を施す。内面は口縁部に羽状繩文を施し、内面全体に指頭圧痕が残る。口唇部に半截竹管状施文具の内側で刻みを入れる。

時期 551 が埋設されていたと考えられることから前期後葉の遺構と判断した。

SK11 (図 192・図 198)

検出状況 AG14・AH14 グリッド、III層上面で検出した。SK158 と重複関係があり、SK158 よりも古い。

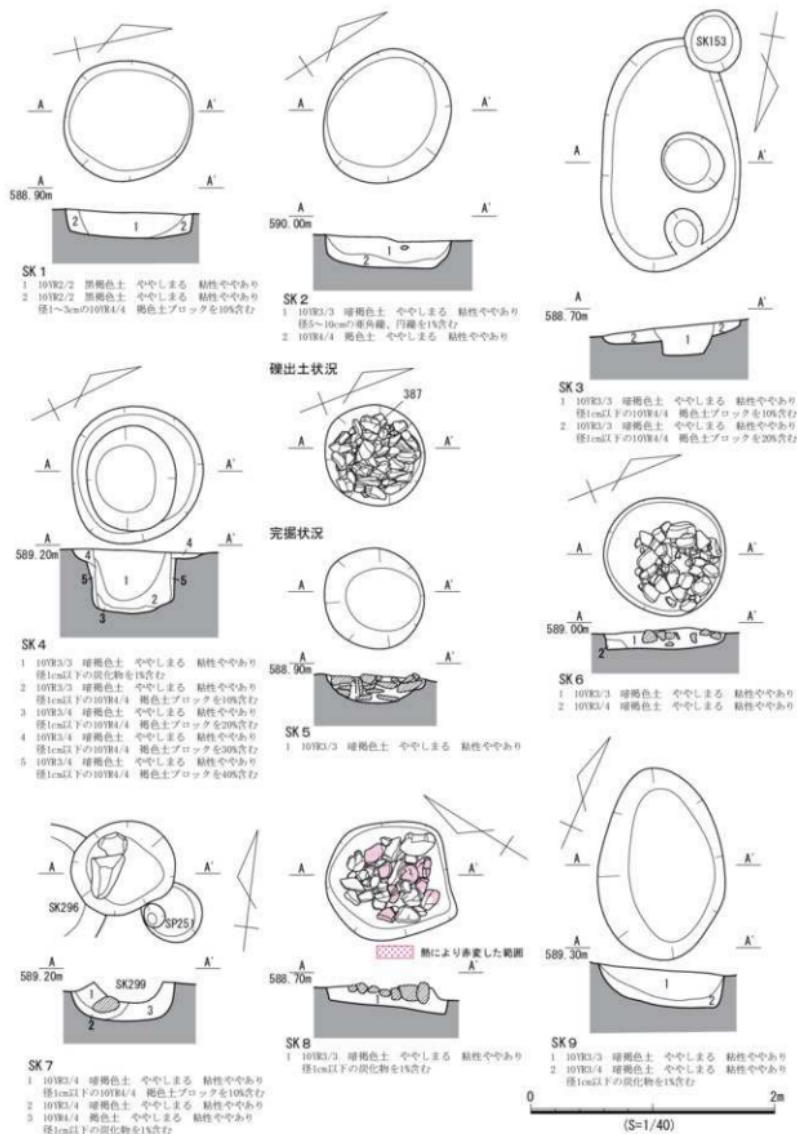


図 191 SK 1 ~ SK 9 遺構図

平面形は東西方向に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で褐色土ブロックを多く含む。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉のものである。

出土遺物 552・553はZ2群2a類である。552は外面に半截竹管状施文具による連続刺突文を2条施す。胎土に雲母を多く含む。553は直線的に外傾する口縁部の外面に半截竹管状施文具による連続刺突文を2条施す。554はZ2群3b類で外面に低い突带上に半截竹管状施文具による押し引きを施す。555はZ2群12a類で外面に羽状繩文を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK12(図192・図198)

検出状況 AG14グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層である。

遺物出土状況 埋土上面の掘方中央付近で内面を上にした状態の繩文土器の深鉢(556)が出土した。この他に繩文土器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 556はZ2群7b類である。口縁部は直線的に直立し、胴部は若干丸みをもつ。外面に横向の条痕調整後、口縁部外面に半円形と短線状の浮文を貼付する。

時期 556が埋設されていたと考えられることから前期後葉の遺構と判断した。

SK13(図192・図198)

検出状況 AG14グリッド、III層上面で検出した。SK14・SK73と重複関係があり、SK14より新しく、SK73よりも古い。平面形はSK73・SK74に切られているため不明である。

埋土 暗褐色土と褐色土が2層堆積する。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉のもので、大半は後葉である。

出土遺物 557はZ1群1b類で外面にヘラ状施文具によりI字状の刺突列を5条施す。

時期 遺構の重複関係は前期後葉以降のSK14より新しいことや出土遺物から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK14(図192・図198)

検出状況 AG14グリッド、III層上面で検出した。SK13と重複関係があり、SK13より古い。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉のもので、大半は後葉である。

出土遺物 559はZ2群3d類で外面に突帶による横線文を2条施し、梯子状に連結させる。558・560はZ2群15類である。558は有稜浅鉢で口縁部の外面に突帶による梯子状文と棹状文を施す。突帶上に斜めの刻みを入れる。胴部の外面に半截竹管状施文具による連続刺突文で木葉文を施す。560は有稜浅鉢で外面に半截竹管状施文具による連続刺突文で蕨手文を施す。

時期 本遺構がSK13より古い遺構であることや出土土器から前期後葉以降と判断した。

SK15（図192・図198）

検出状況 AG13 グリッド、III層上面で検出した。平面形は東西方向に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が2層堆積する。

遺物出土状況 1層から縄文土器の深鉢（561）がまとまって出土した。埋葬者の頭部等を被覆した土器の可能性もあるが、出土状況の記録がないため詳細は不明である。この他に縄文土器が散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 561はZ2群12c類で口縁部から胴部にかけて直線的に外傾する。外面全体に羽状縄文を施す。内面全体に横方向のナデ調整を施す。562はZ2群15類の内湾浅鉢である。器面の摩耗が激しいため文様が不明瞭であるが、内面と外面に半截竹管状施文具による連続爪形文を施す。563はZ2群14類で底部接地面の外周が張り出す。

時期 まとまって出土した561から前期後葉の遺構と判断した。

SK16（図192・図198）

検出状況 AH18 グリッド、III層上面で検出した。平面形は東西方向に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。2層は褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 564はZ2群5c類で外面に幅の狭い半截竹管状施文具による連続爪形文を施す。565はZ2群14類で張り出した底部外部分に刻みを入れる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK17（図192・図198）

検出状況 AH17 グリッド、SI8・SI9埋土上面で検出した。平面形は東西方向に長く、四辺が直線的な楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の单層である。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉のものも含むが、大半が前期後葉である。

出土遺物 566はZ1群2a類で外面に貝殻腹縁文を施し、横位に連結させる。口唇部先端の細い施文具で刻みを入れる。567はZ2群5e類で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文を4条施す。568はZ2群13d類で外面全体に条痕調整する。内面全体に指頭圧痕が残る。

時期 出土土器から縄文時代前期後葉以降の遺構と判断した。

SK18（図193・図198）

検出状況 AH15 グリッド、III層上面で検出した。SI8・SI9と重複関係があり、これらより古い。平面形は円に近い形状である。

埋土 褐色土の单層で炭化物を含む。土坑中央の1層中で径50cm程度の亜角礫1点を中心とし、10cm～20cmの亜角礫がいずれも底面から浮いた状態で集中して出土した。

遺物出土状況 礪の下から縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 569はZ2群1a類で外面に幅広の半截竹管状施文具による連続爪形文を2条施す。570は

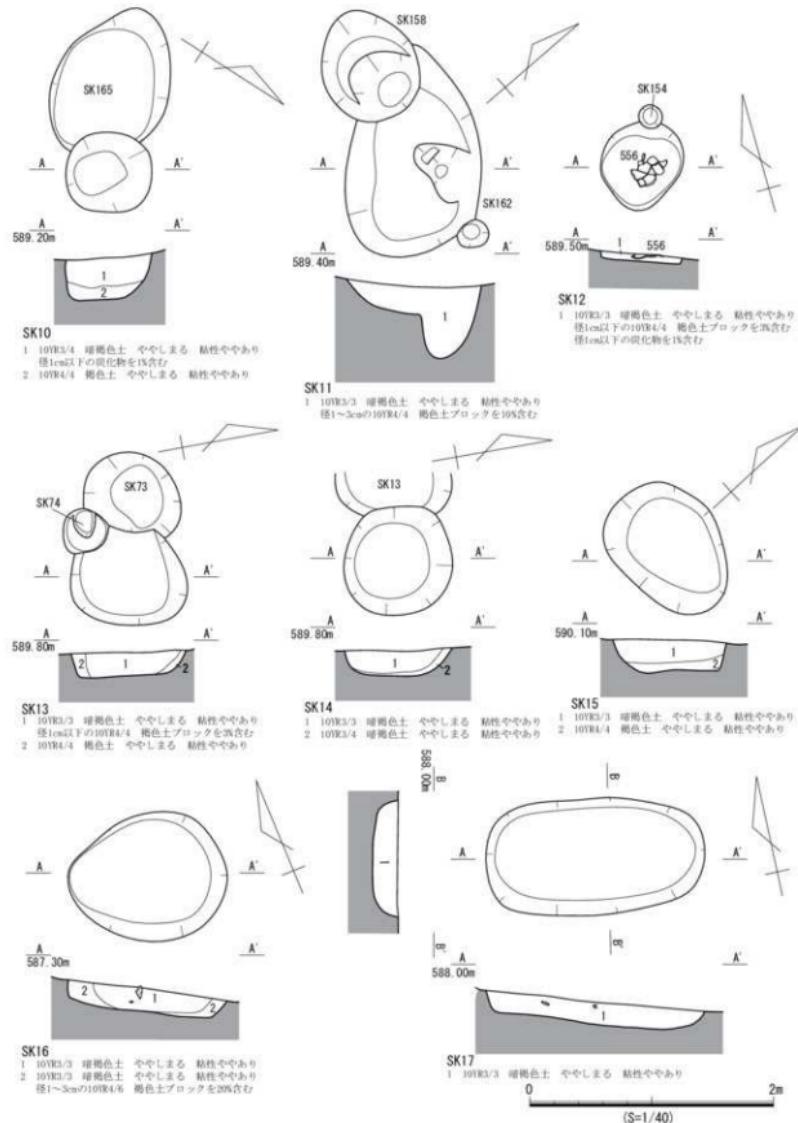


図 192 SK10~SK17 遺構図

Z 2群 15類で外面に複段内湾浅鉢で半截竹管状施文具による平行沈線文で入組木葉文を施す。571は打欠石錐で板状の剥片を素材とし、側辺を剥離調整し、上辺と下辺に剥離による抉りを入れる。

時期 前期後葉のSI8・SI9よりも古い遺構であること、出土土器から前期後葉以前の遺構と判断した。

SK19（図193・図199）

検出状況 AH15・AH16グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不整形である。

埋土 暗褐色土と褐色土が3層堆積する。1層・2層は炭化物、3層は褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 土坑の中央付近の2層から縄文土器の深鉢（574）が出土した。出土記録がないため詳細は不明である。この他に縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 572はZ2群1a類で外面に幅広の半截竹管状施文具による連続爪形文を2条施す。573はZ2群6a類で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文で横線文と波状文を施す。574はZ2群13c類で口縁部が外反する。

時期 574は埋設されていたと考えられることから前期後葉の遺構と判断した。

SK20（図193・図199）

検出状況 AH16・AI16グリッド、SK363埋土上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土の2層が水平に堆積する。1層は炭化物を含む。1層中で径10cm～30cmの亜円礫・亜角礫がまとまって出土した。

遺物出土状況 磨と礫の間から縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 575はZ2群1a類で外面に幅広の半截竹管状施文具による連続爪形文を2条施す。576はZ2群5e類で外面に半截竹管施文具により連続爪形文を1条施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK21（図193・図199）

検出状況 AH・AI13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。ST7と重複関係があり、ST7より古い。ST7に切られるため、平面形は不明であるが、残存部分は丸みのある不定な形状である。

埋土 暗褐色土の単層で炭化物を含む。掘方南部の1層上面で径10cm～20cmの亜角礫が集中して出土した。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 577はZ2群2a類で外面に縄文地に半截竹管状施文具による連続爪形文を施す。578・579はZ2群15類である。578は複段内湾浅鉢で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文を施し、爪形文内を円孔する。579は内湾浅鉢で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文で木葉文を施す。

時期 本遺構より古いST7が前期後葉の遺構であることや出土した土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

SK22（図194・図199）

検出状況 AH11～AH12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は梢円形である。

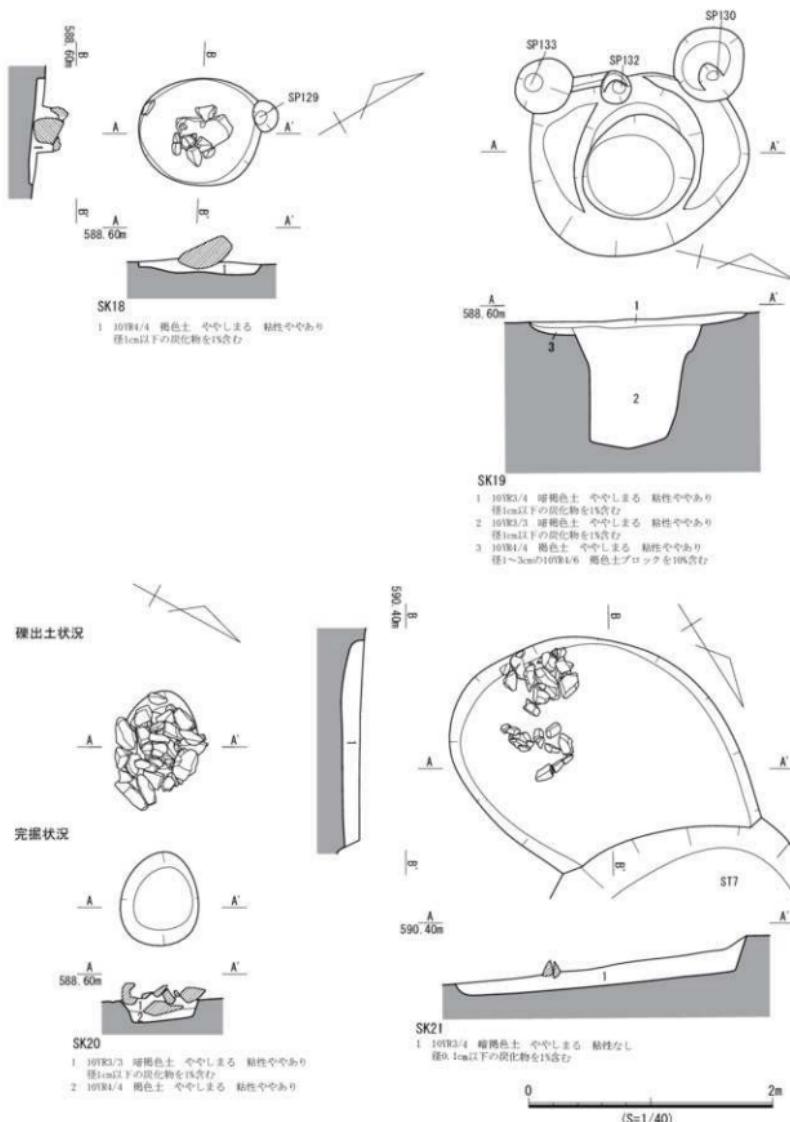


図 193 SK18～SK21 造構図

埋土 褐色土とにぶい黄褐色土が4層堆積する。1層・3層は炭化物、2・4層はにぶい黄褐色土ブロックを含む。1層・2層は長軸の北東部、3層・4層は南西部に堆積する。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉まであるが、大半は前期後葉である。

出土遺物 580はZ1群1c類で外面に半截竹管状施文具の外側で刺突する。581はZ2群15類で外面に先端の細い施文具で平行沈線を施し、沈線内に刻みを入れる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK23(図194・図199)

検出状況 AI15～AJ16グリッド、III層上面で検出した。検出時は掘方の規模や形状から竪穴建物と考えたが、柱穴や壁際溝や炉が確認できなかったことから土坑とした。SI13・SI14・SI15・SK28と重複関係があり、これらの遺構よりも古い。SI13・SI14・SI15に切られるため平面形は不明である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期中葉から後葉まであるが、大半は前期後葉である。

出土遺物 582はZ2群3a1類で外面に突帯を貼り付け、突带上に斜めの縦に短い刻みと山形の刻みを入れる。内面に指頭圧痕が残る。583はZ2群15類の複段内湾浅鉢で外面に半截竹管状施文具による平行沈線で入組木葉文を施す。括れ部分に半截竹管状施文具で山形に刻みを入れる。

時期 出土土器及びSI13・SI14・SI15との先後関係から、前期後葉の遺構と判断した。

SK24(図194・図199)

検出状況 AI15～AJ15グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。1層は褐色土ブロックや炭化物を含む。掘方のほぼ中央の1層上面で径20cm程度の亜円窪が1点出土した。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 584はZ2群1a類で外面に幅広の半截竹管施文具による連続爪形文を2条施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK25(図195・図199)

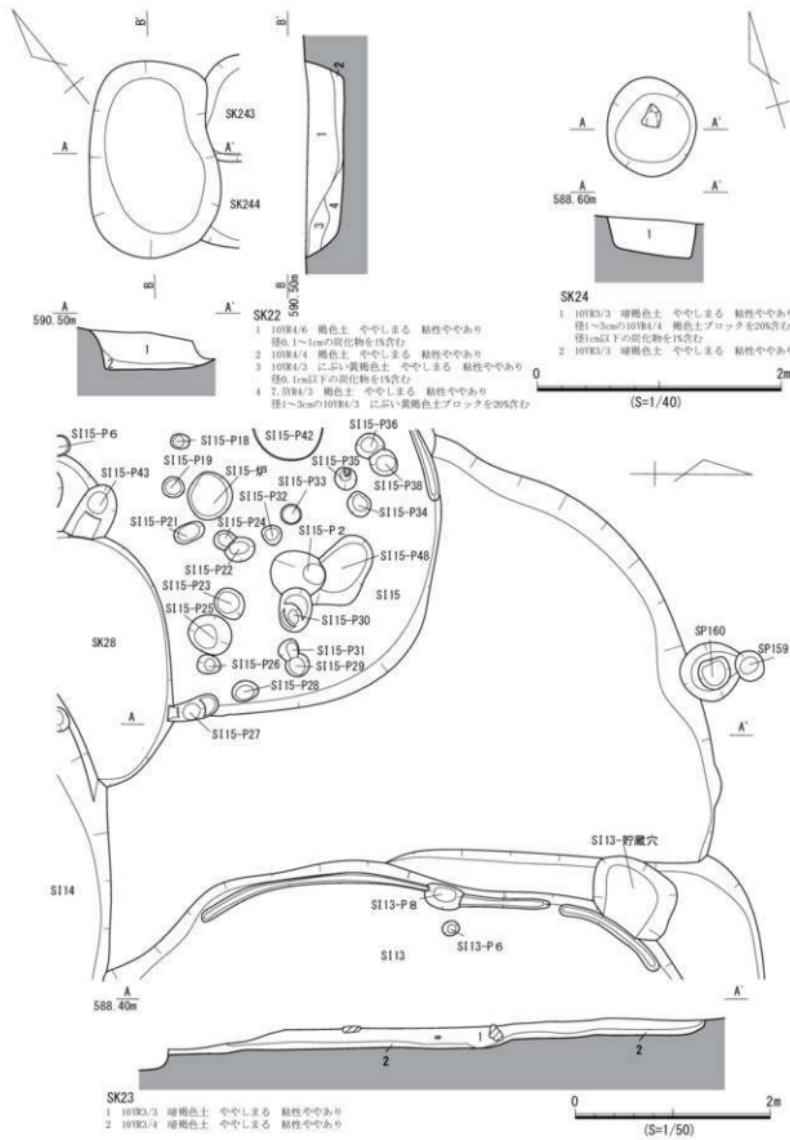
検出状況 AI14グリッド、III層上面で検出した。SK182と重複関係があり、SK182より古い。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土の4層が堆積する。1層は2層～4層を掘り込むことから別遺構の可能性がある。4層部分が一段深くなる。2層・3層は褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 585はZ2群3c類で外面に突帯を貼り付け、突带上に縄文を施す。586はZ2群6b類で外面に突帯を貼り付ける。胴部の括れ部分にある突带上に斜めの刻みを入れる。587はZ2群12c類で外面を条痕調整する。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。



SK26（図195・図199）

検出状況 AJ17 グリッド、SI12 埋土上面で検出した。平面形は南北方向に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で炭化物を含む。1層中から径5cm～20cmの亜角礫が散在した状態で出土した。

遺物出土状況 縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 588はZ2群14類で外面に半截竹管状施文具による平行沈線を施す。

時期 前期後葉のSI12より新しいことや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

SK27（図195・図199）

検出状況 AJ17・AK17 グリッド、III層上面で検出した。検出時は掘方の規模や3辺が直線的であることから方形の堅穴建物の可能性を検討したが、柱穴や壁際溝や炉が確認できなかつたことから土坑とした。遺構の南部が発掘区外のため、平面形は不明である。

埋土 暗褐色土と黒褐色土が2層堆積する。

遺物出土状況 1層を中心には縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 589はZ2群6c類で波状の口縁部が大きく内湾する。外面に半截竹管状施文具による平行沈線で多重渦巻文を施す。590～592はZ2群15類である。590は外反浅鉢で外面に半截竹管状施文具による連続爪形文で入組木葉文を施す。591は複段内湾浅鉢で外面に半截竹管状施文具による平行沈線で横位弧線文を施す。592は複段内湾浅鉢で外面に半截竹管状施文具による平行沈線で入組木葉文を施す。先端の細い施文具で刺突文を1条施す。

時期 出出土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK28（図195・図199）

検出状況 AJ16 グリッド、III層上面で検出した。検出時に規模から堅穴建物と考えたが、柱穴や壁際溝や炉を確認できなかつたため土坑とした。SI14・SI15・SK29・SK30と重複関係があり、これらより古い。

埋土 暗褐色土と褐色土が3層堆積する。2層は褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 1層を中心には縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 593はZ2群6c類で外面に半截竹管状施文具による横線文を3条施す。横線文の間に棒状施文具による山形文を施す。594は石匙で下辺に直線的な刃部を作り出す。

時期 本遺構より新しいSI14・SI15が前期後葉の遺構であることから、前期後葉の遺構と判断した。

SK29（図196・図199）

検出状況 AJ・AK15 グリッド、III層上面で検出した。SK288と重複関係があり、SK288より古い。平面形は南北方向に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が2層堆積する。1層中で長さ5cm～20cmの亜角礫がまとまって出土した。

遺物出土状況 礫と礫の間から縄文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 595はZ2群12a類で外面に羽状縄文を施す。596はZ2群15類の複段内湾浅鉢で外面に

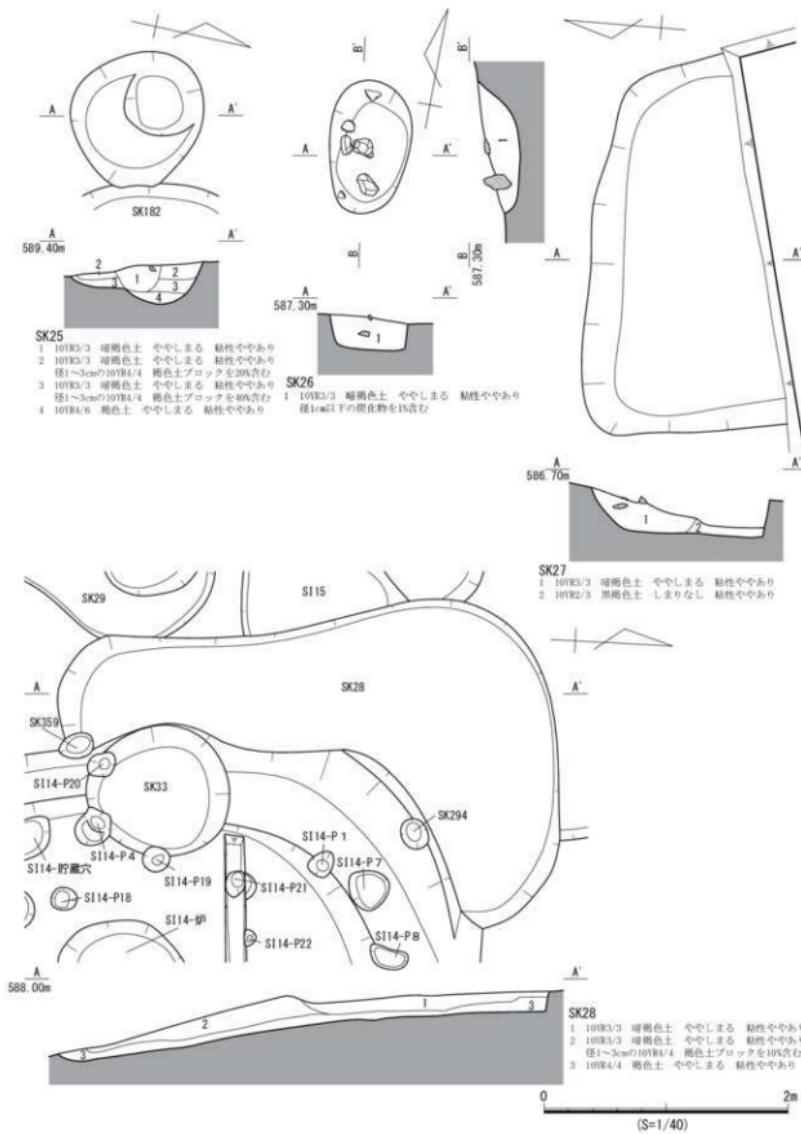


図 195 SK25～SK28 遺構図

半截竹管状施文具による木葉文を施す。

時期 本遺構より古い SK288 が前期後葉の遺構であることや出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK30(図196・図199)

検出状況 AJ13・14 グリッド、III層上面で検出した。SZ 1 の周溝・SK271・SK272 と重複関係があり、これより古い。平面形は SZ 1 一周溝に切られるため不明である。検出時に規模から竪穴建物の可能性を検討したが、柱穴・壁際溝・炉を確認できなかつたため土坑とした。

埋土 暗褐色土と褐色土が 2 層堆積する。いずれの層も褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 繩文土器・石器が埋土中に散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、すべて前期後葉である。

出土遺物 597 は Z 2 群 6 b 類で外面に浮線文で渦巻文を施す。598～600 は Z 2 群 7 b 類である。598 は外面に集合沈線を施し、短線状の浮文を貼り付ける。599・600 は外面に集合沈線を施し、円形の浮文を貼り付ける。

時期 出土土器から縄文時代前期後葉以降の遺構と判断した。

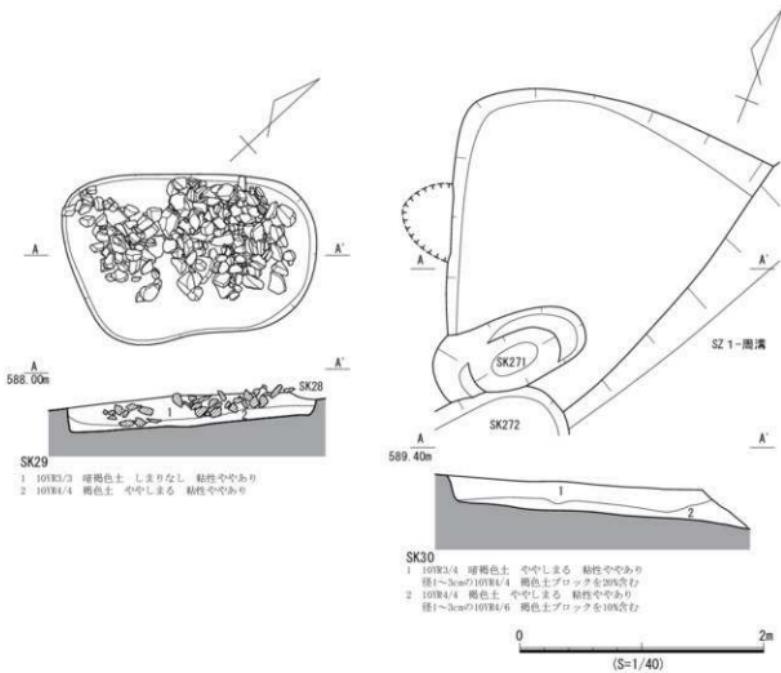


図196 SK29・SK30 遺構図

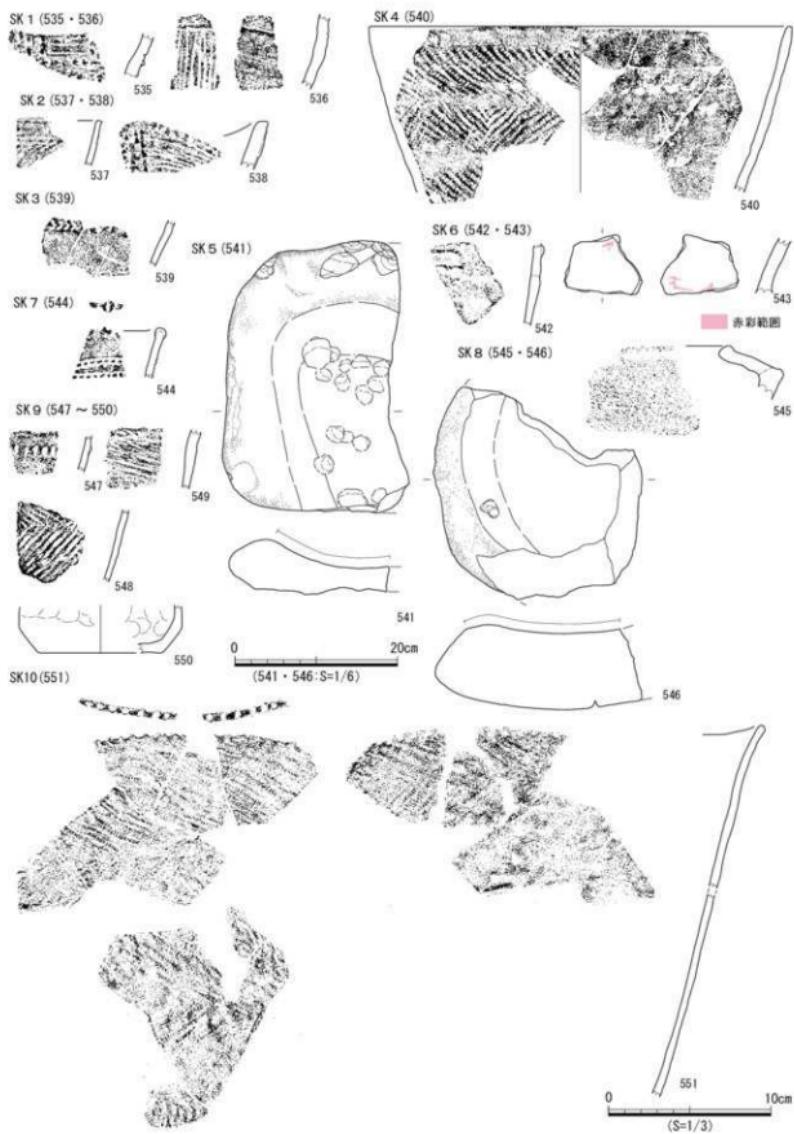


図 197 SK 出土遺物 (1)

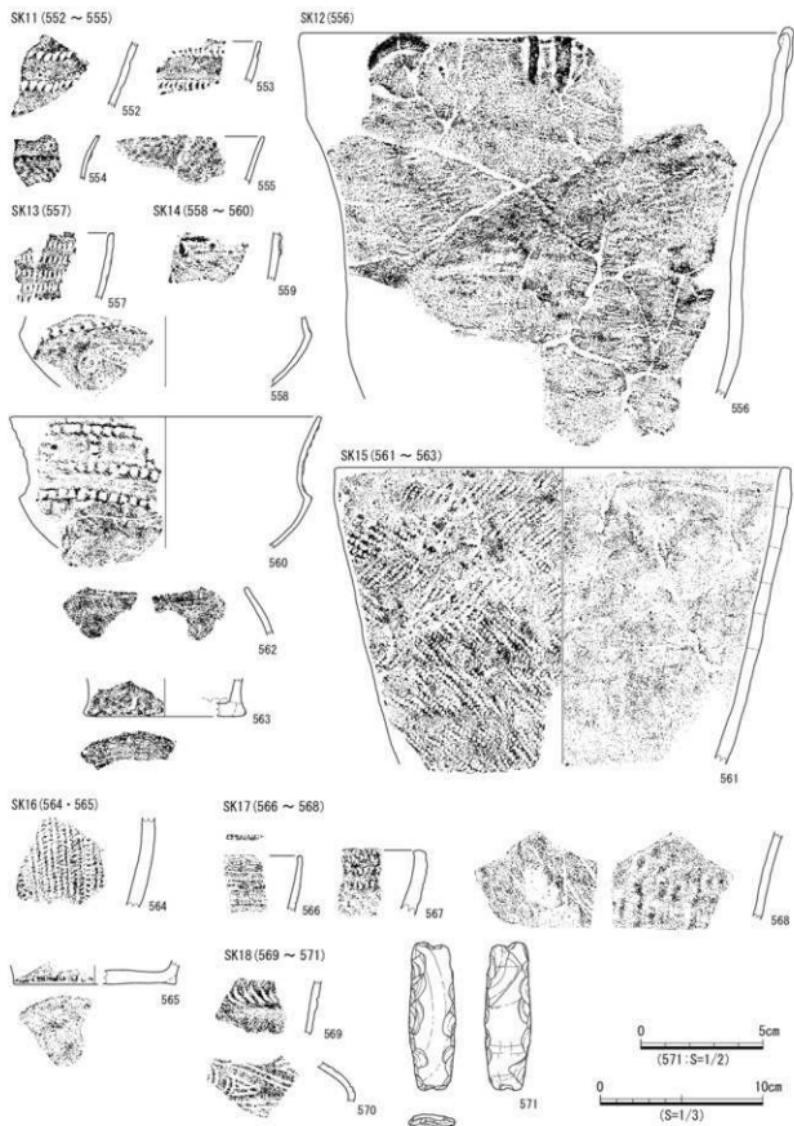


図 198 SK 出土遺物 (2)

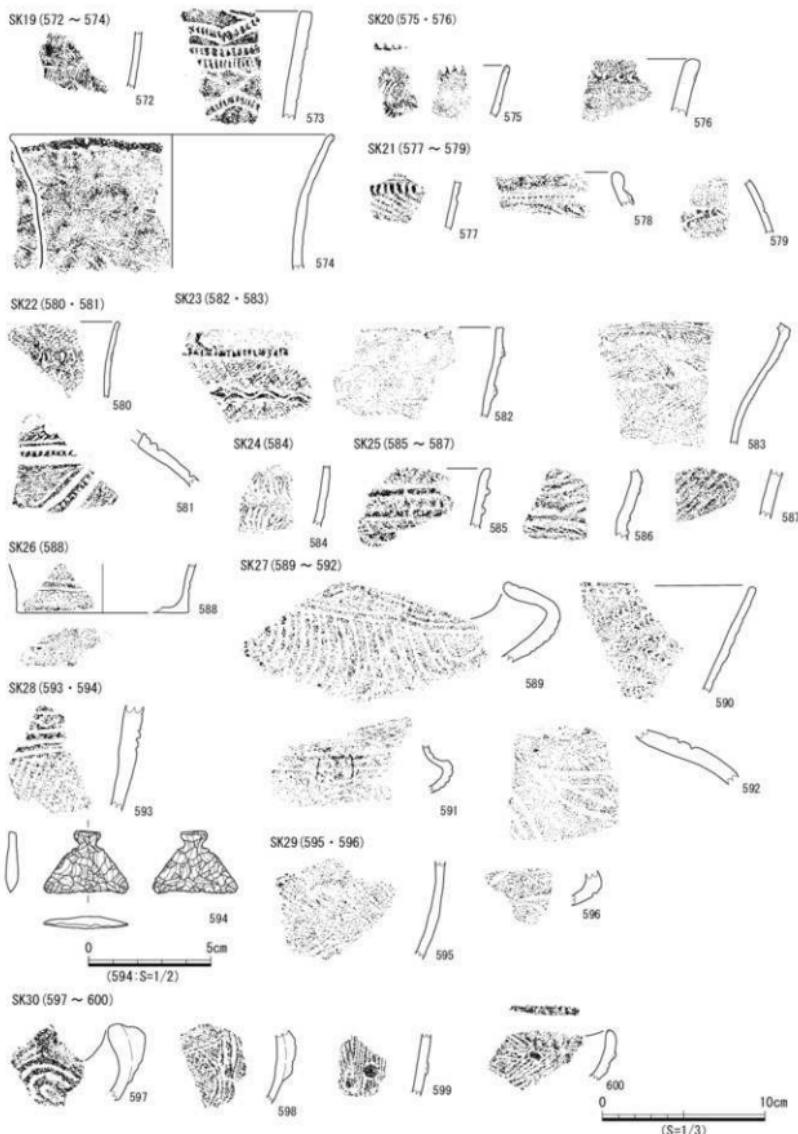


図 199 SK 出土遺物 (3)

SK372（図200・図210）

検出状況 AB10 グリッド、III層上面で検出した。北東部が発掘区外のため、平面形は不明である。

埋土 褐色土と暗褐色土が2層堆積する。1・2層ともに褐色土ブロックと炭化物を含む。

遺物出土状況 繩文土器がc層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 601はZ2群15類の複段内湾浅鉢で外面に細い突帯を貼付し、突带上に斜めの刻みを入れる。突帯と突帯の間に半截竹管状施工具による幅広の沈線を2条施す。外面の沈線内に赤彩が認められる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK393（図200・図210）

検出状況 AC8・AC9 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 褐色土の単層で、赤褐色土・黄褐色土ブロック、炭化物を含む。

遺物出土状況 挖方の中央上面から径15cm程度の円窪が1点出土した。その他に縄文土器や石器がa・b・d層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 602はZ2群3a2類で外面に細い突帯を3条貼付し、突带上に斜めの刻みを入れる。603はZ2群7c類で外面に集合沈線と浮線文を貼付する。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK397（図200・図210）

検出状況 AB9・AC9 グリッド、III層上面で検出した。SI24-P24～P26と重複関係があり、いずれよ

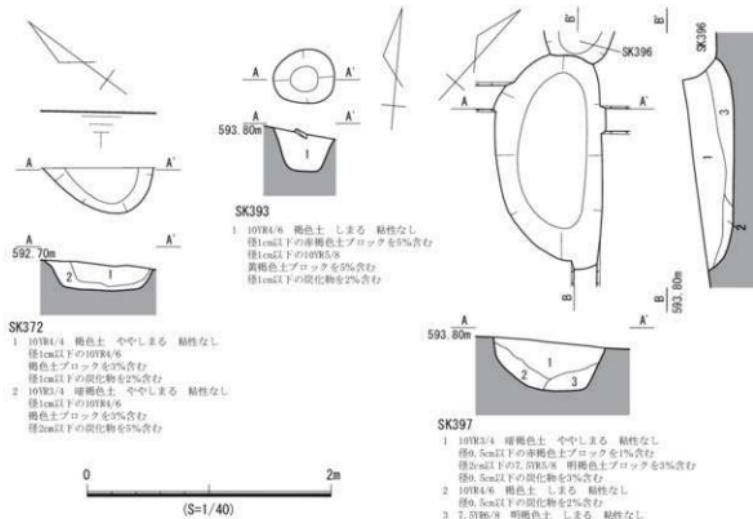


図200 SK372・SK393・SK397 遺構図

り新しい。平面形は東辺が直線的、その他の3辺は丸みをもつ不定な形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土と明褐色土が3層堆積する。1層は赤褐色土・明褐色土ブロックと炭化物、2層は炭化物を含む。

遺物出土状況 繩文土器や石器がa・c・1・2層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 604はZ2群3d類で外面に細い素文の突帯を貼付する。

時期 重複するSI24が前期後葉以降であることや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

SK406 (図201・図210)

検出状況 AC8～AE9グリッド、III層上面で検出した。SI27-P10・SI29・SK419と重複関係があり、

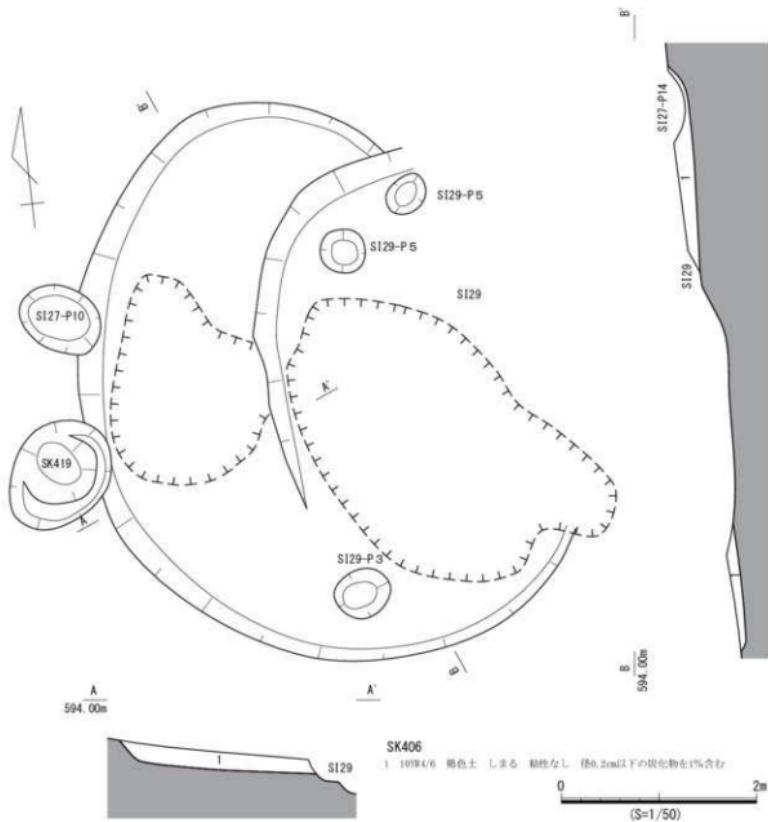


図201 SK406 遺構図

いずれよりも古い。平面形は南北方向に長い椭円に近い形状をとる。

埋土 褐色土の単層で、炭化物を含む。中央部から東側は、搅乱に切られているため土層は不明である。

遺物出土状況 縄文土器や石器がa層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 605～609はZ2群7b類である。605・606は外面に波状の口縁に沿う半截竹管状施文具による多条の結節沈線を施す。多条の結節沈線の上に縱方向の短線状の浮文を貼付する。607は外面に半截竹管状施文具による多条の結節沈線と羽状繩文を施す。608・609は外面に羽状繩文を施す。605～609は接合関係がないが、胎土中に長石を多く含み、器厚や調整が類似することから同一個体と考えられる。

時期 重複するSK419が前期後葉以降であることや605～609から前期後葉の遺構と判断した。

SK426(図202・図210)

検出状況 AC9～AD10グリッド、III層上面で検出した。ST19と重複関係があり、ST19より古い。平面形は円に近い形状をとる。

埋土 暗褐色土の単層で、赤褐色土ブロックや炭化物を含む。

遺物出土状況 縄文土器や石器がa・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 610はZ2群2b類で

外面に半截竹管状施文具による幅広の平行沈線と平行沈線内に連続爪形文、羽状繩文を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK428(図203・図210)

検出状況 AI4～AJ5グリッド、III層上面で検出した。SI42・SI44・SI45・SZ2周溝・SK683と重複関係があり、SI42・SI44・SI45・SZ2周溝より古く、SK683より新しい。平面形は北辺と西辺が直線的、東辺はSI42・SI44・SI45と重複するため形状は不明である。

埋土 暗褐色土が2層堆積し、1層は褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 縄文土器や石器がc・1層、底面から散在した状態で出土した。中期の土器3点を

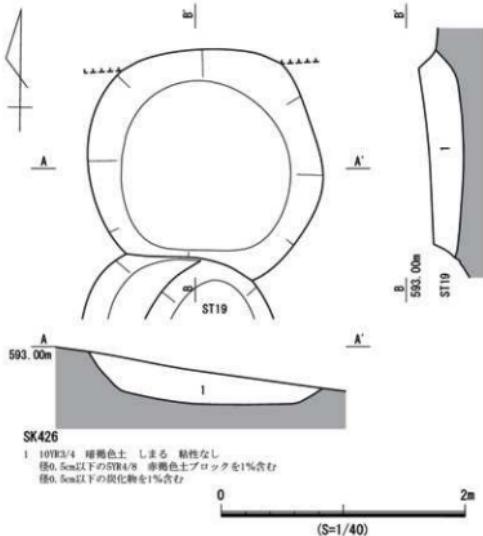


図202 SK426 遺構図

除き、時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 611はZ2群12c類で外面に縄文を施す。612はZ2群15類の複段内湾浅鉢で外面は無文である。

時期 前期後葉のSI42・SI44・SI45よりも古いくことや出土土器から前期後葉の遺構と判断した。

SK488（図204・図210）

検出状況 AD15グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 黒褐色土の単層で、褐色土ブロックや炭化物を含む。

遺物出土状況 縄文土器がb層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 613はZ2群15類の有稜浅鉢で外面に細い直線状の突帯を2条巡らせる。2条の突帯の内側に横方向や縦方向や斜め方向の突帯を貼付し、連結させる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

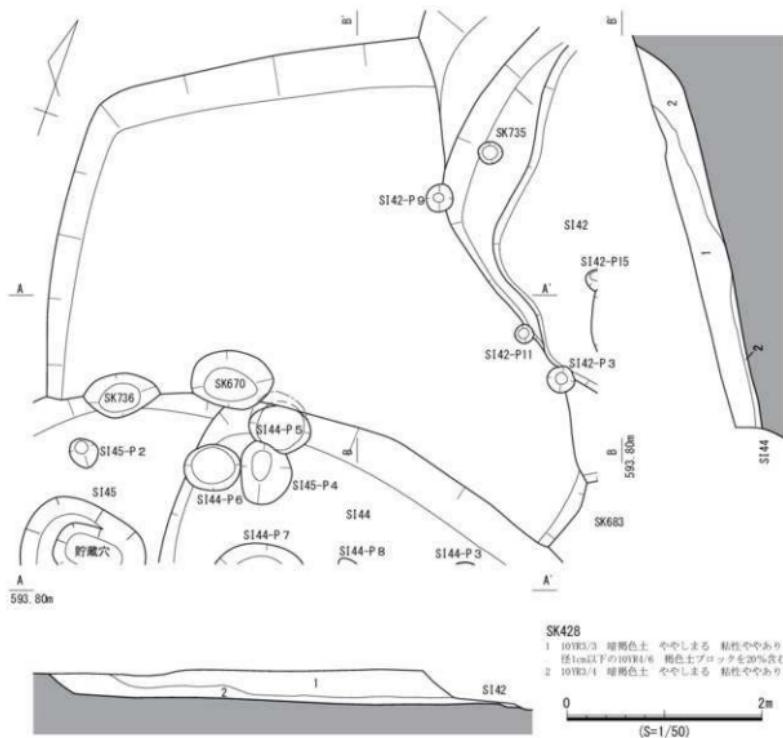


図203 SK428 遺構図

SK491（図204・図211）

検出状況 AD15 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円形に近い形状である。

埋土 黒褐色土と暗褐色土が2層堆積し、亜角礫と炭化物を含む。1層から径5~20cm程度の亜角礫がまとまって出土した。すべての礫の上面が熱により赤変していたことから、礫の上面で火が使用されたと考える。また、掘方中央の1層から縄文土器の深鉢（614・615）が出土した。

遺物出土状況 縄文土器や石器がa・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 614・615はZ2群3a3類である。614・615は広口の波状の口縁部で外面に口縁と平行する2条の突帯を貼付し、突带上を棒状工具で刺突する。頸部の外面は横位の突帯を3条貼付し、突带上を棒状工具で刺突する。口縁の波頂部と波頂部の間に2単位の小突起が付く。胴部の外面は縄文を施す。内面には指頭圧痕が残る。614・615は接合関係がないが、器形・文様・器厚・調整が類似することから同一個体と考えられる。

時期 614・615から前期後葉の遺構と判断した。

SK521（図204・図211）

検出状況 AF13 グリッド、III層上面で検出した。SP286・SI31・SK522と重複関係があり、SP286より古く、SI31・ST35・SK522より新しい。平面形は北辺と南辺が丸みをもち、西辺と東辺が直線的な梢円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積し、1層は褐色土ブロックや炭化物を含む。

遺物出土状況 縄文土器や石器がc・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 616はZ2群1a類で外面に半截竹管状施文具による幅広に連続爪形文を施す。口唇部は半截竹管状施文具により刻みを入れる。617はZ2群3a2類で外面に断面が三角形の細い突帯を6条貼付する。618・619はZ2群3c類で外面に扁平で幅広の突帯を貼付し、突带上に縄文を施す。618・619は文様や器厚や調整が類似することから同一個体と考えられる。

時期 重複するSI31が前期後葉であることや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

SK524（図204・図211）

検出状況 AF13・AG13 グリッド、III層上面で検出した。SP285・SI31と重複関係があり、SP285より古く、SI31より新しい。平面形は円形に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で、炭化物を含む。

遺物出土状況 掘方の中央から、径20cm程度の石皿（620）が出土した。上面は熱による赤変が認められた。その他に石器が1点、1層から出土した。

出土遺物 620は平板の石皿で表面に磨痕を残す。

時期 重複するSI31が前期後葉以前であることや出土土器から、前期後葉の遺構と判断した。

SK540（図204・図211）

検出状況 AE5 グリッド、III層上面で検出した。SK539と重複関係があり、SK539より古い。平面形は円に近い形状である。

埋土 褐色土の単層で、炭化物を含む。

遺物出土状況 繩文土器が a・b・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 621はZ2群3a2類で外面に断面が三角形の細い突帯を4条貼付し、突带上を斜めに刻む。622はZ2群7c類で外面に集合沈線を施し、その上に浮線文を貼付する。

時期 重複するSK539は中期後葉の遺構であることから前期後葉～中期後葉の遺構と思われるが、出土土器が前期後半に限られることから、前期後葉以降の遺構と判断した。

SK547（図204・図211）

検出状況 AF5グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 明褐色土の単層で、炭化物を含む。

遺物出土状況 挖方の中央から繩文土器の深鉢（623）の底部が、正位で底面からは浮いた状態で出土した。その他に繩文土器がa・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 623はZ2群12c類である。底部は平底で胴部外面に繩文を施す。

時期 623から前期後葉の遺構と判断した。

SK559（図205・図211）

検出状況 AF6グリッド、III層上面で検出した。平面形は南北に長い楕円に近い形状である。

埋土 褐色土の単層で、明褐色土ブロックと炭化物を含む。

遺物出土状況 繩文土器と石器が1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 624はZ2群3d類で口唇部は内屈する。外面に素文の突帯を貼付する。625はZ2群14類で底部外面の接地部が外に張り出す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK570（図205・図211）

検出状況 AF4・AG4グリッド、III層上面で検出した。平面形は南北に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で、炭化物を含む。

遺物出土状況 繩文土器と石器がa・d・2層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 626はZ2群3a1類で外面に断面が三角形の細い突帯を3条貼付し、突带上を縦に刻む。内面に指頸圧痕が残る。627はZ2群14類で底部外面の接地部が外に大きく張り出す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK572（図205・図212）

検出状況 AG4グリッド、III層上面で検出した。SK571と重複関係があり、SK571より古い。平面形は南北に長い楕円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で、炭化物を含む。

遺物出土状況 土坑掘方の中央から径40cm程度の扁平円礫が1層上面で出土した。その他に繩文土器と石器がa・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 628はZ2群12c類で外面に羽状繩文を施す。

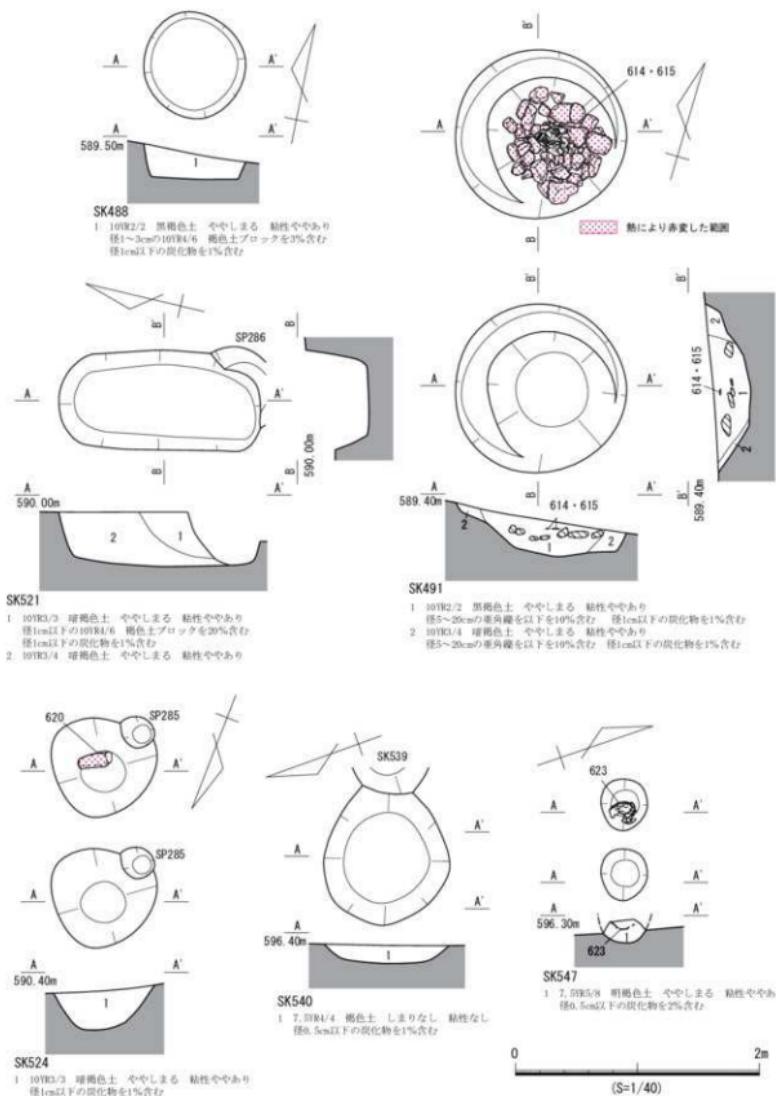


図 204 SK488・SK491・SK521・SK524・SK540・SK547 遺構図

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK603 (図205・図212)

検出状況 AJ7・8グリッド、SK605底面で検出した。SK604・SK605と重複関係があり、いずれより古い。残存する平面形は梢円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で、褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 挖方ほぼ中央の底面付近で径20cm程度の扁平礫が1点出土した。礫の全面に熱による赤変が認められた。その他、縄文土器と石器がa・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 629～631はZ2群12c類で外面に縄文を施す。632・633は内面の口縁部から頸部にかけて指頭圧痕が残る。629～631は胎土に長石を多く含み、文様や器厚が類似することから同一個体と考えられる。

時期 重複するSK604は前期後葉以降の遺構であることや出土土器から、前期後葉の遺構と判断した。

SK672 (図205・図212)

検出状況 AJ6グリッド、III層上面で検出した。ST26と重複関係があり、ST26より古い。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で、褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 縄文土器と石器がb・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 632はZ2群7c類で外面に波状の口縁部に沿う半截竹管状施文具による多条の結節沈線を施す。

時期 重複するST26は前期後葉以降の遺構であることや出土土器から、前期後葉の遺構と判断した。

SK684 (図206・図207・図212・図213)

検出状況 AJ7・AK8グリッド、III層上面で検出した。SI49・SI50・SK697・SK698と重複関係があり、SI50・SK697・SK698より古く、SI49より新しい。平面形は北辺と東辺は直線的であるが、他は重複により不明である。

埋土 暗褐色土が2層堆積し褐色土ブロックを含むが、掘方の状況から1層と2層は別遺構であった可能性がある。

遺物出土状況 床面直上の北面から、縄文土器の深鉢(633)が底部を上にして南面から縄文土器の深鉢(634)が傾斜にもたれるようにしてそれぞれ1個体分出土した。その他に縄文土器と石器点がc・e・h・k・1・2層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉と末葉のものである。

出土遺物 633・634はZ2群8類である。633は小型の深鉢で口縁部に橋状部のある突起が1つ付く。

口縁部の外面は半隆起線による横位区画を施し、区画内はソーメン状浮線文による格子目文を貼付する。胴部の外面は縄文を施した後にソーメン状浮線文を施す。肥厚した口唇部には、上面に円形のソーメン状浮線文を2列配し、外面に縱方向の短線状のソーメン状浮線文を施す。634も小型の深鉢で欠損しているが突起が1つ付く。口縁部の外面は結節浮線文による横位区画を施し、区画内はソーメン状浮線文を施す。胴部の外面は縄文を施した後に結節浮線文を施す。肥厚した口唇部には、上面に

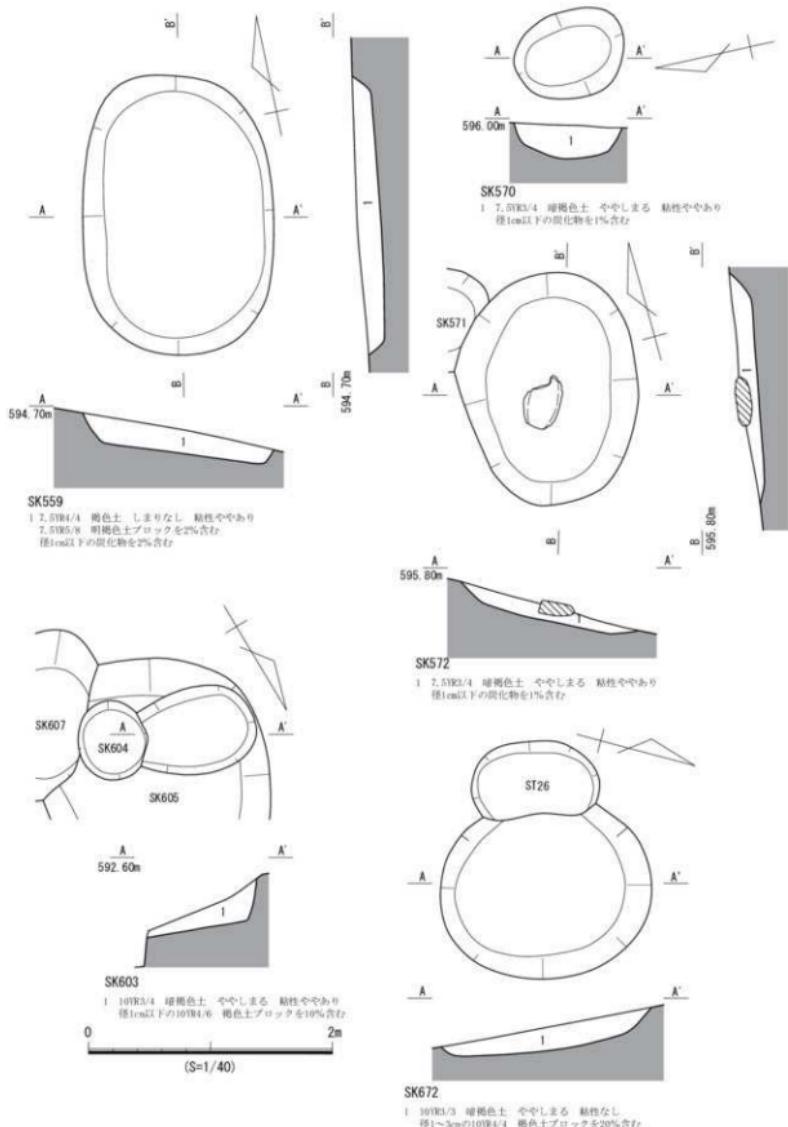


図205 SK559・SK570 SK572・SK603・SK672 遺構図

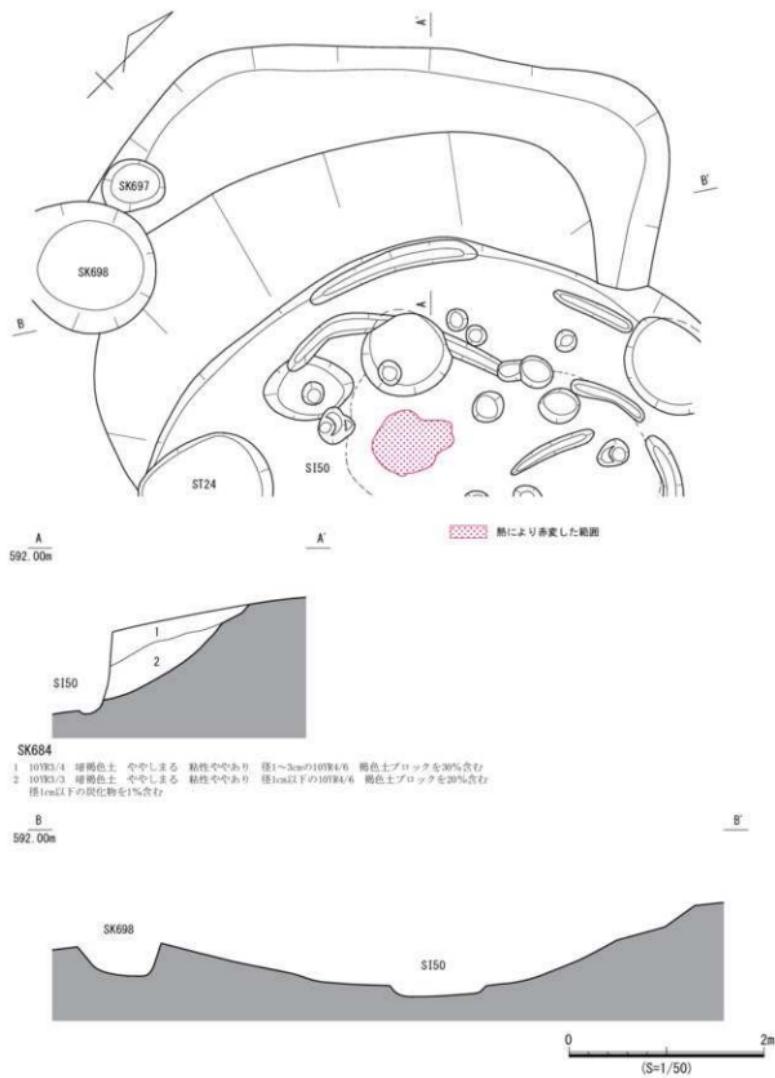


図 206 SK684 遺構図（1）

円形のソーメン状浮線文を2列配し、外面に縦方向の短線状のソーメン状浮線文を施す。635はZ2群7a類で外面に集合沈線を施す。636はZ2群15類の複段内湾浅鉢で外面は無文である。括れ部分に多孔円孔が巡る。

時期 633と634から前期末葉の遺構と判断した。

SK696（図208・図213）

検出状況 AJ6・AK6グリッド、III層上面で検出した。SI147・ST28と重複関係があり、いずれより新しい。平面形は南北に長い楕円に近い形状である。

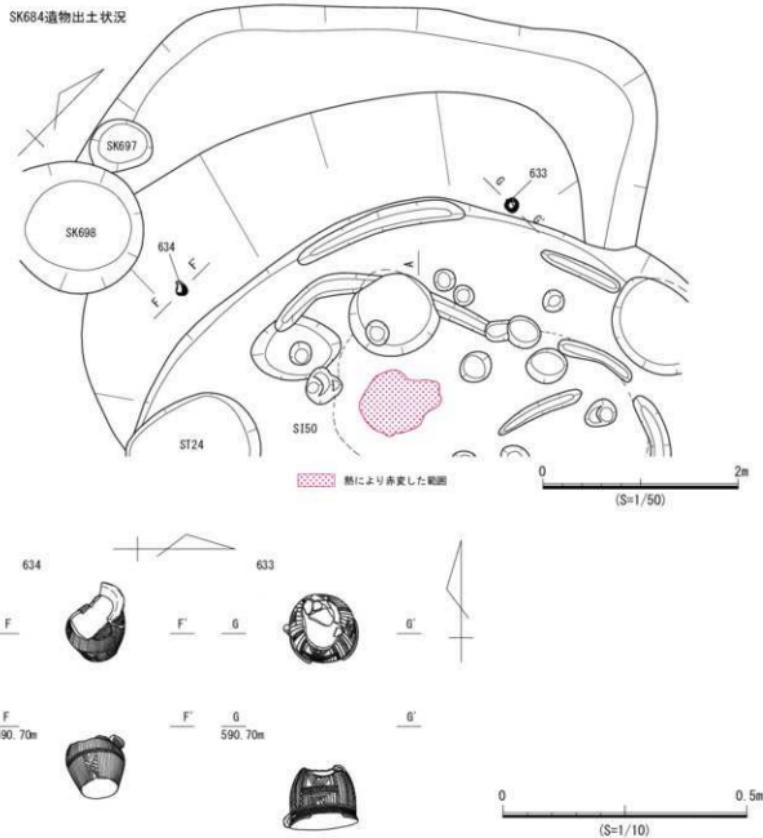


図207 SK684 遺構図(2)

埋土 暗褐色土が2層堆積し、1層は炭化物、2層は黄褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 挖方のほぼ中央で底面に接して径30cm程度の亜角礫1点が出土した。また、縄文土器と石器がa・b・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 637はZ2群12c類で外面に縄文を施す。

時期 重複するSI47・ST28は前期後葉の遺構であることや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

SK698（図208・図213）

検出状況 AK6・7グリッド、III層上面で検出した。SK697・SK684と重複関係があり、SK697より古く、SK684より新しい。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が3層堆積し、1層は炭化物、1～3層は褐色土ブロックを含む。

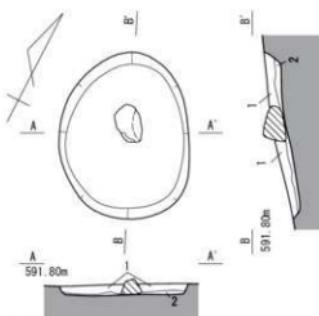
遺物出土状況 縄文土器と石器がa・b・c・d・1・2層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉と末葉のものである。

出土遺物 638はZ2群3d類で外面に素文の突帯を貼付する。639はZ2群2c類で外面は縄文地に半截竹管状旋文具による平行沈線を施す。口唇部に縄文を施す。内面に指頭圧痕が残る。640はZ2群12a類で外面に羽状縄文を施す。

時期 重複する前期後葉のSK684より新しいことや出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SK720（図209・図213）

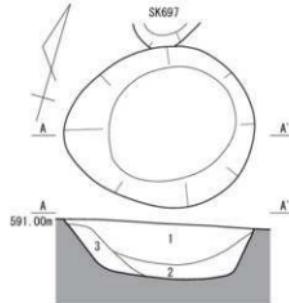
検出状況 AK11グリッド、III層上面で検出した。SI55・SK721と重複関係があり、SI55・SK721より新しい。平面形は円に近い形状である。



SK696

1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1cm以下の炭化物を1%含む

2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1～3cmの10Y5/6 黄褐色土ブロックを10%含む



SK698

1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1cm以下の10Y4/4 褐色土ブロックを20%含む
径1cm以下の10Y4/4 黄褐色土ブロックを10%含む

2 10YR4/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1cm以下の10Y4/4 褐色土ブロックを10%含む

3 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1cm以下の10Y4/4 黄褐色土ブロックを30%含む

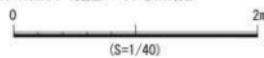


図208 SK696・SK698 遺構図

埋土 暗褐色土の単層で、褐色土ブロックと炭化物を含む。

遺物出土状況 縄文土器と石器がb・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 641はZ2群3d類で外面に断面が三角形の細い素文の突帯を貼付する。642はZ2群15類の複段内溝浅鉢で外面は無文である。

時期 重複関係がある前期後葉のSI55より新しいことや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

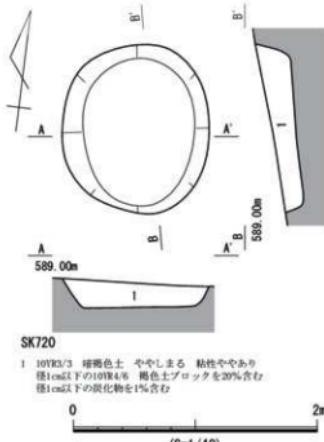


図209 SK720 遺構図

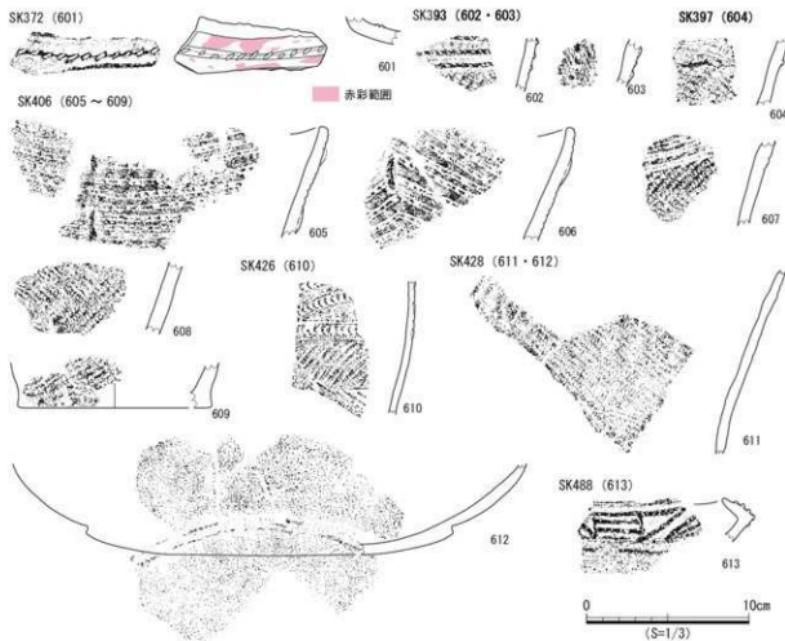


図210 SK 出土遺物 (1)

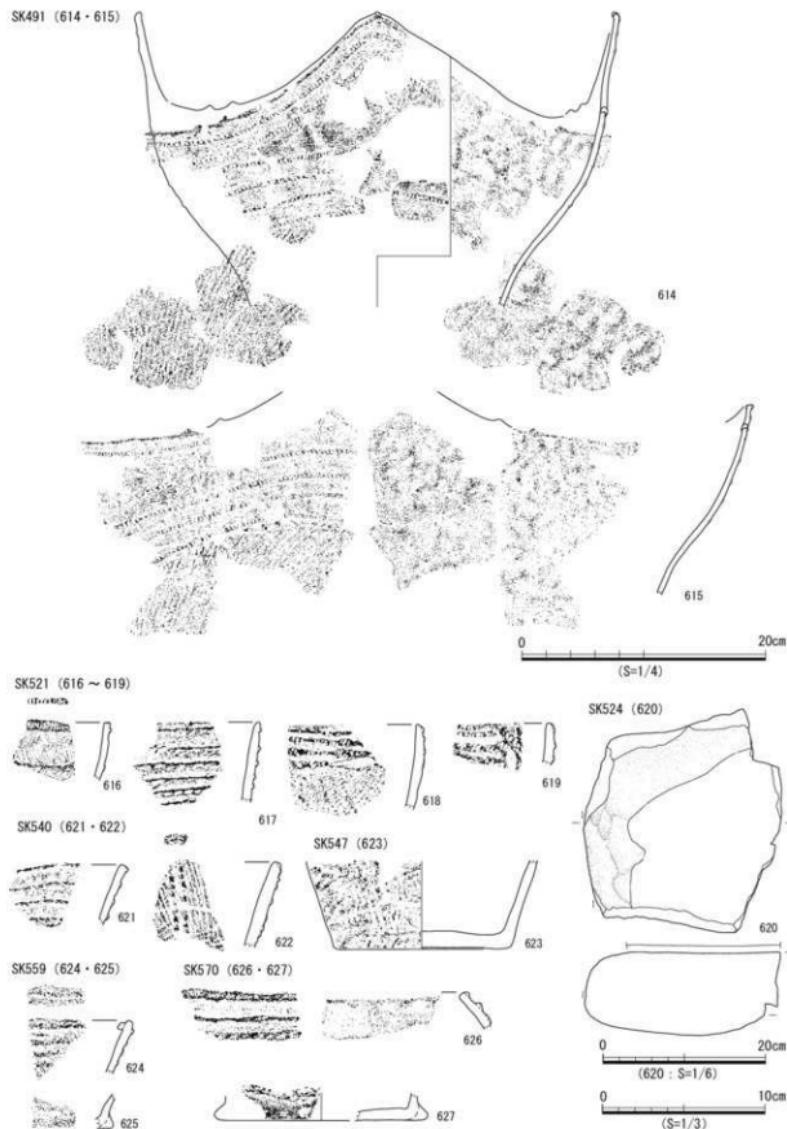


図211 SK出土遺物(2)

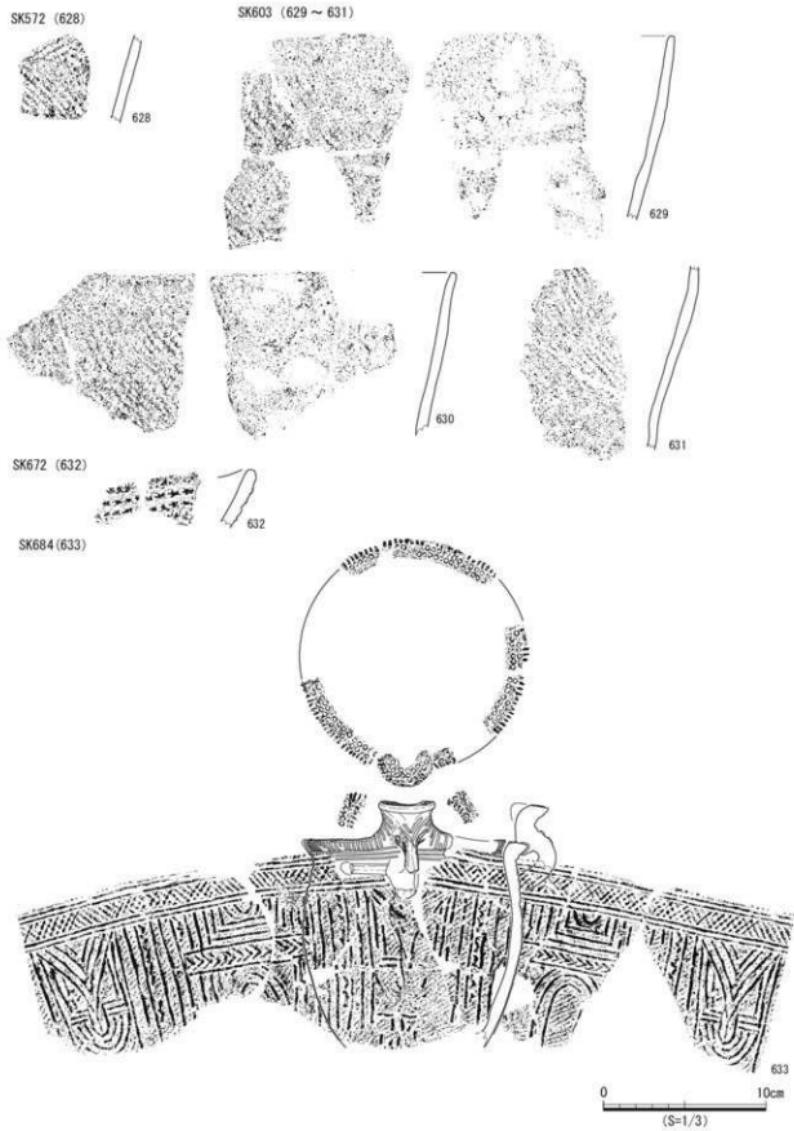


図 212 SK 出土遺物 (3)

SK684 (634 ~ 636)

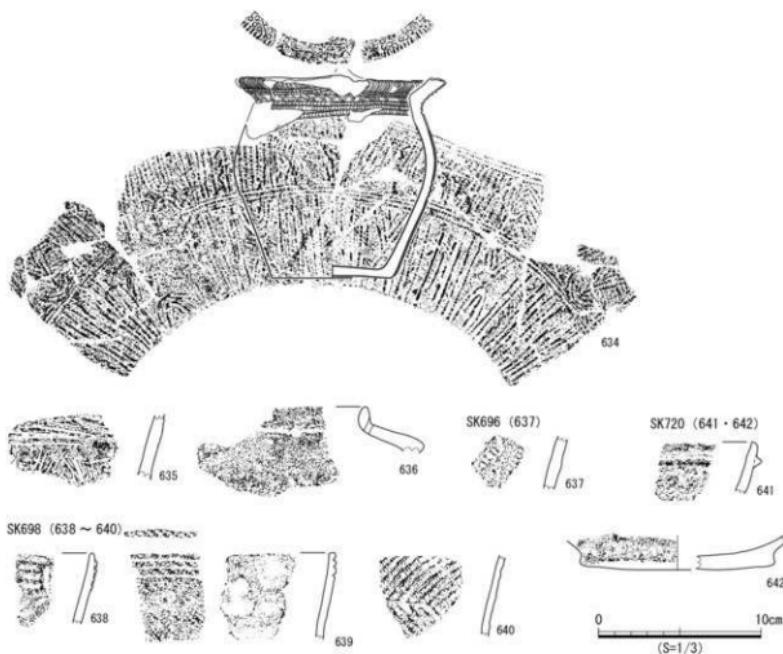


図213 SK出土遺物 (4)

(5) 単独柱穴

SP 1 (図214・図216)

検出状況 AE15 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が3層堆積する。2層は褐色土ブロックを含む。3層は1層・2層に切られるため、3層の堆積する掘方が別の遺構の可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器3点が散在した状態で出土した。

出土遺物 643はZ2群13d類で外面に条痕調整を施す。内面に指頭圧痕が残る。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP 2 (図214・図216)

検出状況 AG16・AH16 グリッド、III層上面で検出した。SK232と重複関係にあり、SK232より古い。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層である。径40cm程度の角礫1点が埋土中に入れ込まれた状態で出土した。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器1点が出土した。

出土遺物 644はZ2群1a類で外面に幅広の半截竹管状施文具による連続爪形文を外面2条、内面に

1条施す。口唇部に半截竹管状施文具の内側で刻みを入れる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP 3 (図214・図216)

検出状況 AG16 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が2層堆積する。1層は褐色土ブロックを含む。柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器3点が散在した状態で出土した。

出土遺物 645はZ2群5f類で外面に縄文を施し、半截竹管状施文具による連続爪形文で米字文を施す。646はZ2群12c類で外面に羽状縄文を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP 4 (図214・図216)

検出状況 AG16 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層である。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器1点が出土した。

出土遺物 647はZ2群3c類で外面に1条の突帯を貼り付け、突帯上に縄文を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP 5 (図214・図216)

検出状況 AG15 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。1層は炭化物を含む。柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器1点が出土した。

出土遺物 648はZ2群12a類で内外面に粒の細かい縄文を施す。口唇部に半截竹管状施文具による刻みを入れる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP 6 (図214・図216)

検出状況 AG15 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土が2層堆積する。1層は褐色土ブロック、2層は褐色土ブロックと炭化物を含む。柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器2点が散在した状態で出土した。

出土遺物 649はZ2群12a類で外面に縄文を施す。口唇部の内面に棒状施文具による刻みを入れる。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP 7 (図214・図216)

検出状況 AG13 グリッド、III層上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土の単層で炭化物を含む。底面から亜円錐が出土した。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器4点が散在した状態で出土した。

出土遺物 650はZ2群5a類で外面に幅広の半截竹管状施文具による連続爪形文を2条施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP 8 (図214・図216)

検出状況 AI17 グリッド、SI11 埋土上面で検出した。平面形は円に近い形状である。

埋土 黒褐色土の単層である。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器5点が散在した状態で出土した。

出土遺物 651はZ2群5a類で外面に半截竹管状施文具による平行沈線で横位弧線文を施す。口唇部に縄文を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP9（図214・図216）

検出状況 AI11グリッド、SK237底面で検出した。SK238と重複関係があり、SK238よりも古い。平面形は円に近い形状である。

埋土 暗褐色土と褐色土が6層堆積する。1層と6層は炭化物、2層は褐色土ブロックを含む。4層と6層の境に接して径20cm程度の亜角礫が出土した。柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器8点、石器20点が出土した。下層（4・e・g層）が多い。また、4層の亜角礫の直下の6層から黒曜石の剥片14点がまとまって出土した。

出土遺物 652はZ2群15類で外面に半截竹管状施文具による平行沈線で木葉文を施す。

時期 重複するSK238が前期後葉以降であることや出土土器から、前期後葉以降の遺構と判断した。

SP10（図214・図216）

検出状況 AK16グリッド、III層上面で検出した。平面形は不定形である。

埋土 暗褐色土と褐色土が4層堆積する。1層は褐色土ブロック、2層は炭化物を含む。柱痕跡を確認した。1層は柱痕跡の上の埋土で掘方西部に広がって堆積することから別遺構の可能性がある。

遺物出土状況 前期後葉の縄文土器9点、石器3点が散在した状態で出土した。

出土遺物 653はZ2群5a類で外面に半截竹管状施文具による平行沈線を6条施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と判断した。

SP259（図215・図216）

検出状況 AB8グリッド、III層上面で検出した。SK383と重複関係にあり、SK383よりも古い。平面形は円形に近い形状である。

埋土 褐色土の単層である。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器の深鉢（654）が出土した。その他、縄文土器や石器がc・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 654はZ2群3d類で外面に素文の突帯による横線文や円文を施す。

時期 重複するSK383が前期後葉であることから前期後葉以降の遺構と判断した。

SP287（図215・図216）

検出状況 AF14グリッド、III層上面で検出した。平面形は円形に近い形状である。

埋土 暗褐色土が3層堆積する。1層は褐色土ブロックと炭化物、2層と3層は炭化物を含む。柱痕跡があることから柱穴とした。

遺物出土状況 埋土中から前期後葉の縄文土器2点（655・656）が出土した。その他、縄文土器がa・1層から散在した状態で出土した。時期が特定できる土器は、前期後葉のものである。

出土遺物 655はZ2群3a1類で外面に突帯を貼付し、突帶上を縦に刻む。656はZ2群15類の複段内湾浅鉢である。口縁部の外面は口縁に沿う低い突帯を貼付し、突帶上に斜めの刻みを入れる。口

縁に沿って多孔円孔が巡る。胴部の外面は半截竹管状施文具による平行沈線で木葉文を施す。平行沈線内に半截竹管状施文具による連続爪形文を施す。

時期 出土土器から前期後葉以降の遺構と考えられる。

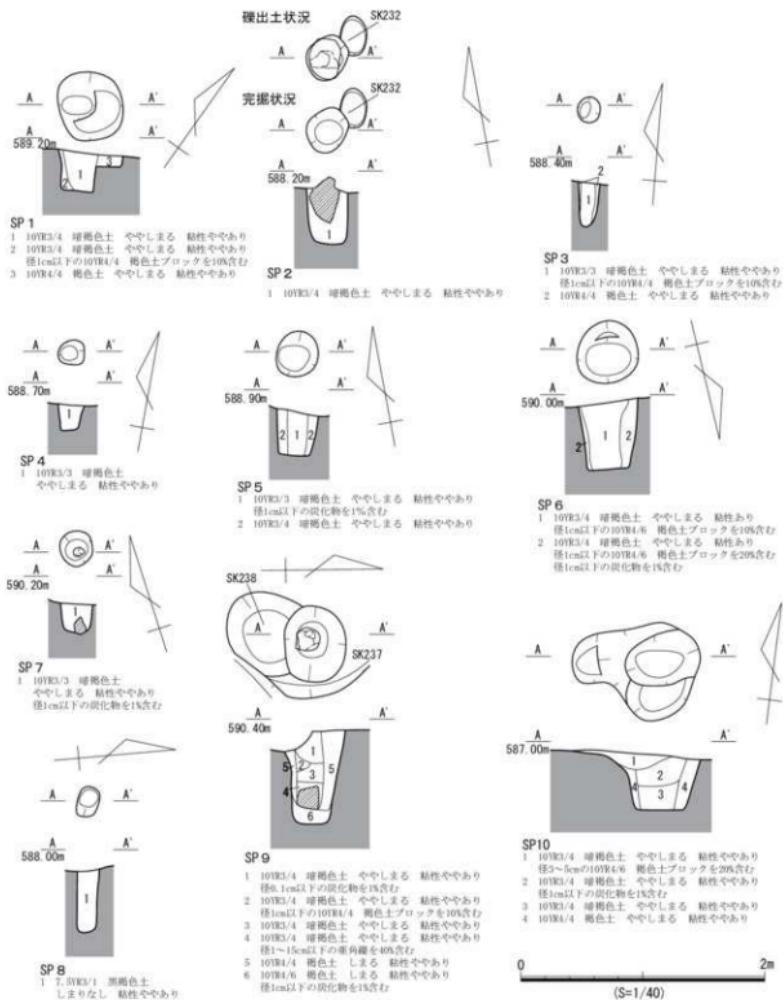


図214 SP 1～SP10 遺構図

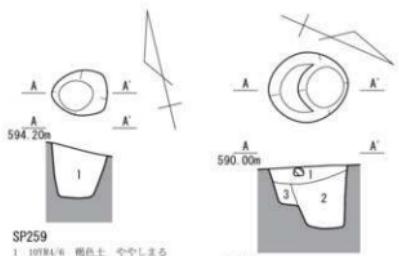


図 215 SP259・SP287 遺構図

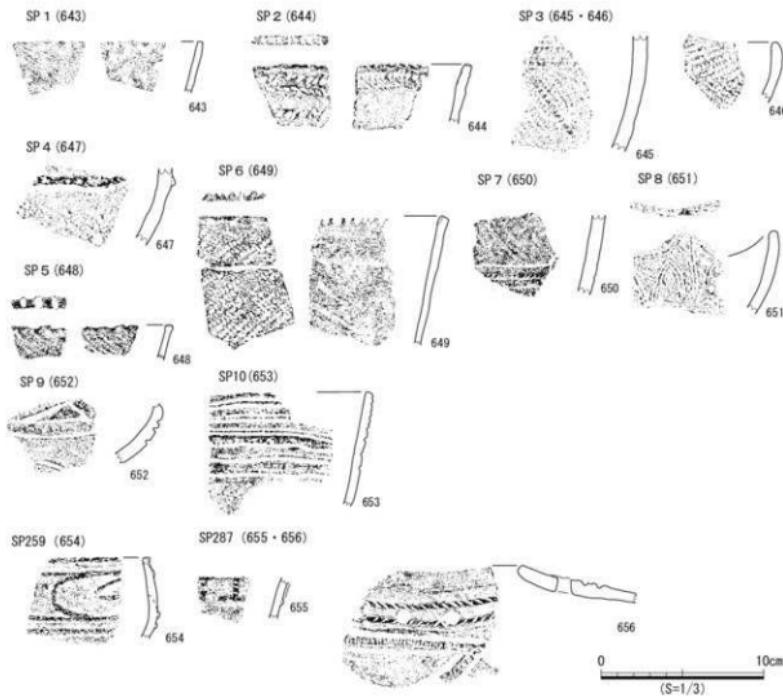


図 216 SP259・SP287 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なかざりうわのいせき						
書名	中切上野遺跡						
副書名							
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書						
シリーズ番号	第161集						
編著者名	三島誠 林宏昌 中野真吾						
編集機関	岐阜県文化財保護センター						
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 Tel058-237-8550						
発行年月日	2024年3月8日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度	東経 度	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
なかざりうわのいせき 中切上野遺跡	岐阜県 高山市 中切町	21203 00440	36° 10' 22"	137° 14' 21"	20170508～ 20171208 20180507～ 21081207	4,075m ²	記録保存調査
なかざりうわのいせき 中切上野5号 古墳		21203 00445	36° 10' 23"	137° 14' 20"	20180507～ 21080622		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中切上野遺跡	集落跡 その他の墓	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代	竪穴建物 方形周溝墓 土器埋設遺構 土坑墓 配石遺構 溝状遺構 土坑 単独柱穴	55基 1基 3基 45基 1基 2基 757基 294基	縄文土器 弥生土器・土師器 須恵器 灰釉陶器 中近世陶磁器 土製品類 石器・石製品類 7,405点 金属製品	59,253点 251点 74点 110点 6点 46点 1点	縄文時代前期 と中期の集落 跡を確認
中切上野5号 古墳	その他の墓	古墳時代	墳墓	1基	縄文土器 須恵器 灰釉陶器 石器・石製品類	105点 6点 1点 31点	墳丘盛土や周 溝をもつ墳墓 を確認

要 約

中切上野遺跡は、川上川左岸丘陵部の尾根及び緩傾斜地に立地する遺跡である。今回の調査では、縄文時代前期と中期の竪穴建物や土坑墓、弥生時代の土坑墓、古墳時代初頭の方形周溝墓、古墳時代後期の土坑墓を確認したほか、遺跡内に所在する中切上野5号古墳を調査した。隣接地における高山市教育委員会の発掘調査でも縄文時代前期後半の竪穴建物を確認しており、竪穴建物が傾斜地に連なるように形成され、それに寄り添うように土坑墓があるなど、飛騨地域における当該期の集落の様相を知る上で重要な成果となった。

中切上野5号古墳は、センターが令和元年度に調査した中切上野1号古墳と同様に墳丘盛土や周溝をもつ墳墓であることを確認した。弥生時代や古墳時代の土坑墓や方形周溝墓1基を含め、弥生時代以降は墓域として利用されていたことが分かった。

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第161集

中切上野遺跡 (第1分冊)

2024年3月8日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 山興印刷株式会社

